

第六十二條 公判ノ時日及場處ハ第六十四條乃至第七十三條ノ規定ニ依リ長官之ヲ定メ審檢所所在地ニ住所ヲ定メタル檢察官及當事者ニ通知ス

第六十三條 審問ヲ受クル者露語ヲ解スル能ハザルトキハ書面ヲ以テ陳述スルコトヲ得此場合ニ於テハ一件書類ノ外國語ヲ露譯スルモノトス

第六十四條 差押ヘタル財産ノ到着ノ通知ヲ得タルトキハ捕獲審檢所ハ成ルベク速ニ審問ノ時日ヲ定メ差押ヘタル艦長、差押ヘラレタル船舶ノ船長并ニ第六十條ニ掲ゲタル者ノ中必要ト認ムル者ヲ審問スベシ若シ差押ヘタル財産ノ到着シタル港灣ニ捕獲審檢所ノ設ケナキ場合ニ於テハ最近捕獲審檢所ヨリ全部員其地ニ出張スルカ或ハ評定官ノ中一名ヲ出張セシム而シテ若シ差押ヘタル軍艦ガ長時日ノ滯留ヲナス能ハザル場合ニ於テハ地方海軍長官又ハ其他ノ長官ニ審問ヲ委任スルコトアルベシ

第六十五條 前條ニ規定セル尋問ノ外必要ノ場合ハ捕獲審檢所ハ或ハ自己ノ發意ニ依リ又ハ當事者ノ請求ニ依リ全部員若ハ評定官若干ノ立會ノ上差押ヘタル財産ヲ臨檢シ又ハ其道ノ專門家ヲ聘シテ鑑定ヲナサシムルコトアリ

第六十六條 捕獲審檢所ハ差押ヘタル財産ノ價格ニ等シキ擔保ヲ納ムルトキハ差押ヘタル財産ノ解放ヲ宣告ス此場合ニ於テ財産ノ價格評價ハ審檢所評定官ノ監督ノ下ニアル陪審評價人之ヲ定ム若シ該評價人アラザルトキハ二名ヨリ少カラザル專門鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシム

第六十七條 差押ヘタル財産ニシテ性質上不良ノ状態ニ在リテ保存スベカラザルトキ又ハ鑑定人ノ鑑定ニ依リ其價格ガ其保存費用ヲ償フ能ハズト認ムルトキハ當事者ノ請求ニ依リ又ハ審檢所ノ發意ヲ以テ之ヲ公賣ニ附スルコトヲ得又差押ヘタル財産ノ保存ハ事件ノ裁決ニ何等ノ必要ヲ認メズ且當事者ノ合意アリタルトキ亦然リ

第六十八條 差押ヘタル財産ヲ捕獲審檢所ノ設ケナキ同盟國ノ港灣ニ廻航シタル場合ニ於テハ第六十四條第六十五條ノ手續ハ帝國海軍大臣及外務大臣ト外國相當ノ官衙ト協商ノ上所在露國海軍代表者或ハ露國領事或ハ所在寄留露國臣民ニ就キ成ル可ク二名以上ヲ特別任命シテ之ヲ行ハシムベシ此等ノ者成規ノ手續ヲ了シタルトキハ差押ヘタル財産ヲ其一件書類ト共ニ最近捕獲審檢所ニ移スベシ又若シ捕獲審檢所ノ處置ヲ俟ツ能ハズト認ムルトキハ第六十六條第六十七條ノ處置ヲナスコトヲ得

第六十九條 捕獲審檢所ハ第六十四條第六十五條ノ手續ヲ了シタルトキハ直ニ事實ノ審問ニ着手シ第一着手ノ順序トシテ差押ヘタル財産中事件審問ノ進行上差押ノ必要ナシト認ムルモノハ成ル可ク迅速ニ之ヲ解放スベシ

第七十條 審判ノ證明上必要ト認ムルトキハ審檢所ハ追補證據ノ蒐集ヲ爲シ又當事者間ニ書類ノ交換及兩者ニ追補證據ノ呈出ヲ命ズルコトアルベシ本條ノ規定ニ依リ當事者ノ申請スベキ證人ノ審問ハ審檢所自ラ之ヲ爲シ又ハ本件ニ關係ナキ海軍長官ニ之ヲ委託シ又ハ第六十八條

ニ掲ゲタル者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトアリ

第七十一條 差押ヘラレタル物件ガ中立國ノ商船若クハ其所屬ノ疑ハシキ商船ナルトキ、并此等ノ船舶ニ搭載セル貨物ニシテ性質上戰時禁制品ニ關係ナキ場合ニ於テ其ノ貨物ノ所有者判明セザルトキハ海港捕獲審檢所ハ廣告ヲ以テ原所有者ヲ求ムベシ艦隊捕獲審檢所ハ此ノ如キ事件ハ直ニ之ヲ最近海港捕獲審檢所審判ニ移スベシ但シ第六十九條ノ規定ニ依ルモ解放スベキモノニアラズト認ムル貨物ニ對シ第六十六條及第六十七條ニ規定セル處置ヲ執ル爲メ海港捕獲審檢所ニ移スヲ不便ト認ムルトキハ自ラ其處置ヲ爲スノ權ヲ保留ス

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ召喚セラレタル貨物ノ原所有者若クハ其代理人ハ廣告期間ノ内ニ事件ニ對スル證據書類ヲ調製シテ審檢所ニ出頭スベキモノトス此期間ハ該審檢所ノ所在地及其他ノ事情ヲ斟酌シテ審檢所之ヲ定ム但シ最後ノ廣告日ヨリ一箇月ヨリ少カラズ又四箇月ヲ超過スベカラズ廣告ハ三回トシ一回ヅ、官報及海軍大臣ノ指定セル露國ニ於テ發刊スル外事新聞ノ二種ニ之ヲ掲載スベシ時宜ニ依リ廣告原文ヲ電報ヲ以テ新聞社ニ送ルコトアリ此等ノ廣告料ハ捕獲物ヲ公賣ニ附シテ得タル出金額ヨリ支出ス若シ公賣ニ附セザルトキハ國庫之ヲ支出ス此場合ニ於テハ或ハ捕獲物ノ價格ヨリ之ヲ控除シ(第四十六條)或ハ原所有者ヨリ之ヲ追徴シ(第四十六條)或ハ全ク國庫ノ負擔ニ歸ス(第八十二條)

第七十三條 事件ノ判決ニ關スル評定官會議ハ廣告ヲ以テ示セル差押貨物ノ原所有者若クハ其

代理人ノ出廷スル以前或ハ公告期間ノ盡日以前ニ開カル、コトナシ

第七十四條 捕獲審檢所ニ於テ事件ノ審判ハ評定官ノ一名ガ事件ノ事實顛末ヲ陳述スルヲ以テ開始スベシ此ノ陳述ニ對シ檢察官及當事者ノ意見ヲ徵ス評定官ハ此等ノ陳述ヲ聽キ自己ノ所信ニ據リ證據物件ノ効力ヲ認メテ以テ事件ヲ裁斷シ又附帶ノ私訴ヲモ判決ス差押ヘタル財産ノ解放及沒收ノ宣告ハ審檢所直ニ之ヲ爲ス其差押ヘタル財産ガ海軍長官ノ處置ニ據リ破壊サレタルトキニ在テモ亦然リ若シ差押ガ中立國領海若クハ特別國際條約ニ依リ戰鬪行爲ヲ禁ズル海面ニ於テ行ハレタルトキハ差押ノ日ヨリ一箇年間ニ該財産ノ要求ナキ場合ニ於テ初メテ沒收ヲ宣告ス(第二十一條)

第七十五條 審檢會議ノ裁決ハ多數ヲ以テ之ヲ決ス若シ同數ナルトキハ長官ノ意見ニ依ル

第七十六條 事件ノ審檢宣告ハ長官之ヲ爲ス審檢宣告ト同時ニ長官ハ當事者ガ一件書類ノ閱覽ヲナス爲メ出廷スベキ期日ヲ定メ且當事者本宣告ニ對シ控訴ヲ爲スノ手續ヲ説明シ并ニ其期限ヲ指示スベシ當事者ニ一件書類ノ閱覽ヲ爲サシメ本宣告ニ服従スルト否トヲ決セシムルノ期間ハ審檢宣告ノ日ヨリ二日以内ナラザルベカラズ又其宣告文ニハ審檢ノ理由ヲ説明セザルベカラズ審檢宣告ハ此書類一覽ノ日ヲ以テ効力ヲ生ズルモノト認ム

第七十七條 當事者差押ヘタル軍艦ノ艦長及其代理人モ此中ニ含ムハ控訴ヲ爲スノ權ヲ有ス控訴ヲ爲サントスル者ハ一件書類ノ謄寫ヲ爲シ關係人ノ人數丈ノ謄本ヲ調製シ之ヲ審檢宣告ノ

日ヨリ一箇月以内ニ宣告ヲ受ケタル審檢所ニ呈出スベシ(第七十六條)若シ止ムヲ得ザル事故ノ爲メ此期限ニ後ル、トキハ審檢所ノ見込ニ依リ更ニ之ヲ延期スルコトヲ得此場合ニ於テハ再控訴ノ權ハ延期許可ノアリタル日ヨリ二週間以内ニ限ルモノトス若シ又審檢所ガ延期ヲ許可セザル場合ニ於テハ附帶ノ私訴ハ不認可言渡ノアリタル日ヨリ二週間以内ニ呈出スベキモノトス

第七十八條 審檢所ニ於テ控訴ヲ受理シタルトキハ呈出セル一件書類ノ謄本ノ一通ヲ檢察官ニ移牒シ尙一通ハ關係人ニシテ審檢所ノ所在地ニ在住スル者ニ交附スベシ關係人若シ此地ニ在ラザルトキハ該關係人ニ交附スベキ謄本ハ審檢所ニ保存ス控訴願ノ正本ハ之ヲ高等捕獲審判所ニ移ス又前條末段ニ規定セル附帶私訴ノ控訴ニ在テモ亦同ジ控訴ノ理由ノ説明ハ控訴人ヨリ高等審檢所ノ開廷ノ日ニ自ラ陳述スルモノトス

第七十九條 指定ノ控訴期限内ニ控訴人ノ現ハレザル場合ニ於テハ差押財産ヲ沒收スル旨宣告アリタルモノハ期限ノ經過ト共ニ直ニ之ヲ執行シ控訴人ノ現ハレタル場合ニ於テハ其執行ヲ停止ス

第八十條 差押財産ニシテ解放ノ宣告アリ檢察官之ニ同意シ且差押者タル軍艦ノ艦長若クハ之ガ代理人宣告ニ出頭シタルトキハ審檢宣告ノ趣意ニ從ヒ直ニ之ヲ執行ス檢察官之ニ同意セザルカ或ハ艦長若ハ其代理人ガ出頭セザル場合ニ在テハ指定控訴期限ノ盡クル迄執行ヲ猶豫ス

此期限内ニ控訴人ノ現ハルトキハ差押財産ニハ第六十六條ノ規定ニ依リ評價ヲ附シ審檢所ハ此評價ニ等シキ金額ノ擔保ヲ徵シタル上又ハ之ヲ徵セスシテ控訴審檢ノ宣告前ニ解放スルコトヲ得、解放ヲ宣告シタル財産ノ所有權ニ關シ紛議ノ生ジタル場合ニ於テハ適法ノ所有者ノ判明スル迄其解放ヲ見合セ又ハ所有權ノ主張者中ノ一人ヨリ全價格ニ等シキ擔保金ヲ徵シテ之ヲ解放ス

第八十一條 擔保金ヲ徵セズシテ差押財産ヲ解放シタル場合ニ於テハ個人若クハ團體ガ之ヲ受領シタルノ通知ヲ得タル時ヨリ以後ニ於ケル保存及破損等ノ費用ハ總テ所有者ノ負擔トス

第八十二條 差押財産ニシテ解放ノ宣告アルモ宣告有効ノ日ヨリ起算シ六箇月ヲ經テ尙ホ請求者ノ現ハレザルトキハ之ヲ公賣ニ附ス尙ホ宣告有効ノ日ヨリ起算シ十箇年ヲ經テ解放財産ニ對シ正當ノ證據ヲ具シタル申請者ナキ場合ニ於テハ該財産若ハ其公賣ニ依リ得タル金額ハ國庫ノ收入ニ歸ス但シ此間ニ要スル保存費ハ此中ヨリ支出セラレベキモノトス

第八十三條 高等捕獲審檢所ノ控訴審檢ノ手續及其裁判宣告ノ手續ニ關シテハ第六十二條第七十三條乃至第七十六條ヲ適用ス

第八十四條 高等捕獲審檢所ハ下級捕獲審檢所ノ裁判中ニ就キ當事者ノ控訴ヲ爲シタルモノ、ミヲ覆審スルコトアリ第八十條ニ規定セル控訴アルニ拘ラズ原裁判ヲ破毀シ差押財産中ノ一部解放ヲ宣告シ擔保金ヲ提出セシメズシテ之ヲ原所有者ニ還付スル場合ニハ第四十四條及第

四十九條ニ規定セル捕獲報酬高等捕獲審檢所ガ沒收ヲ正當ト宣告スル財産中ノ一部分ノ價格ニ應ジ之ヲ定ムルモノトス

第八十五條 高等捕獲審檢所ノ宣告ニハ控訴ヲ許サズ故ニ審檢宣告ヲ了シタル後ハ一件書類ノ謄本ヲ作り事件ノ遂行ヲ海軍所轄長官ニ報告ス

第八十六條 捕獲事件ニ關スル願書屆書控訴願及其他書類ニシテ捕獲審檢所并ニ高等捕獲審檢所ニ呈出ス可キモノ并ニ各審檢所ノ調製セル關係書類ハ總テ無稅トス正本ノ謄寫ハ檢察官ニ與フルモノヲ除クノ外各葉四十哥ヲ徵收ス海港若クハ艦隊捕獲審檢所及高等捕獲審檢所ニ於テハ訴訟費用ヲ徵收セズ

第二款 商船及其貨物ヲ押領、破壊、亡失、損傷シタル場合ニ於ケル損害要償ニ關スル訴訟手續

敵ヨリ回復シタル商船及貨物ヲ原所有者ニ還附ノ手續并原所有者ヨリ捕獲報酬及出費賠償金ヲ徵收スルニ就キ此金額ノ決定商船ガ敵船及其貨物ヲ差押ヘタルトキ之ニ對スル捕獲報酬金ノ決定及其分配

第八十七條 (一)商船及其貨物ヲ差押、破壊、亡失、損傷シタル場合ニ於ケル損害要償ニ關スル訴訟手續(二)敵ヨリ回復シタル商船及貨物ヲ原所有者ニ還附ノ手續及原所有者ヨリ捕獲報酬及出費賠償金等ヲ徵收スルニ付キ此金額ノ決定(三)商船ノ敵國船舶及其貨物ヲ差押ヘタル

場合ニ之ニ對スル捕獲報酬金ノ決定及其分配等ニ關シテハ第六十條乃至第八十六條ヲ適用シ尙ホ後ニ記載スル第八十八條乃至第九十三條ノ規定ヲ準用ス

第八十八條 商船及其貨物ノ差押、破壊、亡失若クハ損傷ヨリ生ズル損害ノ要償ニ關スル訴訟事件ハ海港捕獲審檢所ニ於テ裁判シ且被害者若クハ其代理人ノ告訴ヲ待テノミ之レヲ審問ス故ニ當事者トシテハ一方ニハ被害者及代理人他ノ一方ニハ國庫ノ利益ヲ代表スル檢察官ナリトス

第八十九條 前條ニ規定スル事件ハ差押財産ヲ沒收スルト解放スルトニ拘ハラズ當事者ノ呈出セル證據ニ據リ別ニ審判ス要償ノ宣言ハ沒收若クハ解散ノ宣言ト同時ニナスコトアリ又別ニナスコトアリ要償ノ控訴ハ一箇月以内ニナスコトヲ得此場合ニ於テハ控訴審判ノ判決アル迄判決ノ宣告ヲ執行スルコトナシ

第九十條 敵ヨリ回復シタル商船及貨物ノ原所有者ニ還附ノ手續并ニ原所有者ヨリ徵收スベキ捕獲報酬及出費賠償金ノ決定ニ關スル事件ハ海港捕獲審檢所ノ管轄トス艦隊捕獲審檢所ハ原所有者若クハ其代理人ノ出廷スル場合ニ限り此事件ヲ審判ス然ラザル場合ニ在テハ本件ノ審判ヲ海港捕獲審檢所ニ移ス

第九十一條 前條ニ規定セル事件ノ當事者ハ回復セラレタル財産ノ原所有者若クハ其代理人并回復ヲ爲シタル軍艦ノ艦長若クハ其代理人及檢察官トス此等事件ノ審檢ニ當リ原所有者ノ所

在不明ナルトキハ捕獲審檢所ハ廣告ニ據リ之ヲ求ム此ノ如クシテ原所有者若クハ其代理人ノ出頭ヲ俟ツカ或ハ廣告期限内ニ所有者ノ出頭セザルニ於テハ期限盡日ノ後ニ事件ノ狀態ニ據リ判決ヲ宣告ス本條ノ場合ニ於テハ何レモ一箇月間ニ控訴スルコトヲ得

第九十二條 敵ヨリ回復セル財産ヲ原所有者ニ還附スルニハ左ノ條件ヲ要ス

一 審檢ヲナシテ其宣告ノ効力ヲ生ズル期限前ニ還附スルトキハ第四十五條第四十六條(附)及第六十六條ニ規定スル出費賠償金及捕獲報酬ニ等シキ金額ヲ原所有者ヨリ徴收スルコト

二 審檢宣告ノ効力ヲ生ジタル後ニ在テハ宣告ヲ受ケタル捕獲報酬及其出費賠償金額ヲ原所有者ヨリ徴收スルコト

回復シタル財産ノ公賣ハ第六十七條第八十二條ニ規定スル場合ノ外尙原所有者ガ之ヲ要求スル場合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得第八十二條ニ規定スル原所有者ニ還附スベキ財産ヲ國庫ニ歸納シタルトキハ出資賠償及捕獲報酬モ亦國庫ノ負擔ニ屬ス

第九十三條 商船ガ敵國船舶及其貨物ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ガ捕獲報酬ノ決定及其分配ニ關スル事件ノ審檢ハ差押ヘタル商船ノ乗組員ノ出頭ヲ以テ成立シ其當事者ハ差押動作ニ加入シタル乗組員及檢察官トス本條規定ノ事件ニ在テハ判決後一箇月間ニ控訴スルコトヲ得

英國捕獲法提要

英國ホルランド氏著
英國海軍本部出版

著者曰ク此法ハラツシントン氏ノ捕獲法ニ基キホルランド氏ノ編纂セルモノニシテ日本海軍省官房ノ譯ニカ、ルラツシントン氏ノ捕獲法ハ露國シテ國家學會雜誌ニ在リ

ホルランド氏序

本書編纂ノ目的ヲ闡明スルモノハ左ニ節録スルラツシントン氏提要ノ序文ニ如クハナシ
本書ハ戰時ニ於ケル英國海軍士官用トシテ之ヲ編纂セリ交戰國巡洋艦々長ハ嫌疑アル船舶ヲ處分スルニ就テ疑惑ヲ生ズルコト尠シトセズ而シテ其行動ニ對スル典據ハ海軍省令、勅令、樞密院令、法律、條約及海戰ニ關スル成文及不文ノ國際法ニシテ其數甚タ多シ然ルニ艦長ハ法律家ニアラズ亦其坐右法律家ヲ伴ハズ且種々ノ職務ノ爲ニ忙殺セラル、ガ故ニ殆ド熟考沈思スルノ暇ナキヲ常トス艦長ノ職務ハ敵及其幫助者ニ對シテ極力戰鬥行爲ヲ遂行スルニ在ルモ亦其利トスル所ハ其視線内ニ在テ把取スルヲ得ベキ高價ナル戰利品ヲ捕獲スルニ在リ然レドモ他方ニ於テハ過失ニ對スル大危險アルヲ以テ一旦法ヲ誤レバ其財産及地位ヲ失フノミナラズ延テハ自國ヲシテ覺テ他國ニ開カシムルニ至ル海軍士官ガ斯カル情況ニ處シテ其爲スベ

キコト及爲スベカラザルコトヲ簡明ニ指示スル書ヲ歡迎スルハ當然ノ事ニシテ本書ノ目的亦實ニ此指針タラムトスルニ在リ本書ノ期待スル所如上ノ目的ニ外ナラザルヲ以テ諸問題ニシテ宜シク捕獲審檢所ニ於テ講究セラルベク捕獲ノ當時其地點ニ於ケル海軍士官ノ職務ニ關セザルモノハ本書ノ論及スル所ニアラズ又同一ノ理由ヲ以テ先例ヲ援キ詳論説明スルガ如キハ法律家ノ參考書トシテハ必要ナルベキモ茲ニハ必要ナキヲ以テ之ヲ省略シ唯參考ノ爲メ註ヲ附シテ其事件ヲ引用セル典據ヲ示スニ止メタリ

本提要ハ出來ベキ丈ラッシントン氏ノ蒐集セル貴重ナル材料ヲ漏サマルコトヲ務メタルモ然レドモ本文ハ其大部分ヲ更正シ又全體ノ順序ハ新説ニ依リ之ヲ改メタリ

原提要ニ於テハ巡洋艦々長ハ第一ニ臨檢船舶ノ國籍ニ注意ヲ加フベキモノトシ之ニ依リテ船舶逮捕ノ原因ヲ類別セリ然レドモ艦長ガ船舶ノ眞國籍ニ付テ疑ヲ抱ク場合ニ於テ多クハ該船舶ガ逮捕ノ原因タルベキ商業ニ從事スルコトヲ發見スルヲ以テ國籍ニ付テハ更ニ窮追スルノ必要ナキニ至ルノ事實ハ注意スルヲ要ス

抑モ一船舶ガ敵國民ニ屬スルカ又ハ英國國民ニ屬スルカ不明ナル場合ニ於テモ若シ該船舶ガ英國國民ニ取リテ不法ナル商業ニ從事スルトキハ安シテ之ヲ逮捕スルコトヲ得ベク又船舶ノ英船ナルカ中立船ナルカ疑ハシキ場合ニ於テモ若シ其從事スル商業ガ中立船舶ニ對シテモ禁制セラレタルモノナルトキハ之ヲ逮捕セザルベカラズ中立船ニ對スル交戰權中多少廢棄ニ屬シ現時ハ

特別訓令ナキ以上ハ之ヲ履行スベカラザルモノニ付テハ之ヲ明示スルヲ必要ト認メズ括弧ヲ附セル第九章第十章第十一章ノ規定是ナリ

特別ノ國民ニ對シテ海上交戰權ノ執行ヲ制限スル諸條約ハ特別訓令ヲ以テ規定サルベキモノトシテ茲ニハ掲ゲズ

本提要ハ現行法律及慣例ヲ記述セルヲ以テ疑問ニ亘ルコトハ全然之ヲ省キ又英國捕獲審檢所ガ近時戰爭ノ行動上ニ於ケル變更ニ依リ捕獲權ノ範圍ニ對シ加減ヲ加フベキ點ニ付テモ亦一切論及スルコトヲ避ケタリ

下 略

千八百八十七年十二月三十一日

英國捕獲法提要目次

第一編 總則

第一章 職權

第一款 職權ヲ行フコトヲ得ベキ場所

第二款 職權ヲ行フコトヲ得ベキ船舶

第三款 職權行使ノ理由

國際法規提要 戰時 海戰之部 英國捕獲法提要

第四款 執行手續

第五款 審檢ヲ受クル爲ニスル引致

第二章 職權行使ニ對スル責任

第二編 逮捕原因各論

第三章 敵船

第一款 敵船

第二款 敵人

第三款 捕虜交換船ニ對スル例外

第四款 他ノ例外

第五款 逮捕セラレタル船舶及載貨ノ處分

第四章 英國船及同盟國船

第一款 英國船

第二款 英國臣民

第三款 敵ト通商

第四款 罰則

第五款 同盟國ノ船舶ハ敵ト通商等ノコトヲ爲スベカラズ

第五章 中立船舶

第一款 中立船舶

第二款 中立臣民

第六章 戰時禁制品

第一款 戰時禁制品

第二款 物品ノ性質

第三款 絶對的戰時禁制品

第四款 條件的戰時禁制品

第五款 船舶ノ到達地

第六款 無効ノ辯解

第七款 船舶ノ責任、其始期終期

第八款 戰時禁制品ハ轉載スベカラズ

第九款 罰則

第十款 戰時禁制船舶

第十一款 罰則

第七章 敵ノ輸送ニ從事スル中立船舶

- 第一款 敵ノ運送船
 - 第二款 無効ノ辯解
 - 第三款 船舶ノ責任其始期終期
 - 第四款 人員ハ之ヲ轉載スベカラズ
 - 第五款 罰則
 - 第六款 敵ノ信書輸送
 - 第七款 無効ノ辯解
 - 第八款 船舶ノ責任、其始期終期
 - 第九款 敵ノ信書ハ之ヲ轉載スベカラズ
 - 第十款 罰則
- 第八章 封鎖侵破
- 第一款 有効ナル封鎖
 - 第二款 封鎖ノ告知
 - 第三款 現實ノ告知
 - 第四款 著明ナル事實ニ基ク推定告知
 - 第五款 外交上ノ告示ニ依ル推定告知

- 第六款 船長ガ告知ヲ知ラザル場合
 - 第七款 封鎖ノ侵破
 - 第八款 出港封鎖ノ侵破
 - 第九款 入港封鎖ノ侵破
 - 第十款 封鎖侵破ニ對スル辯解
 - 第十一款 船舶責任ノ期間
 - 第十二款 封鎖侵破ニ對スル罰則
 - 第十三款 封鎖ノ解除
- 第九章 敵ノ禁ゼル商業ニ從事スル中立船舶
- 第十章 敵貨ノ運送ニ從事スル中立船舶
- 第十一章 英國若ハ同盟國ノ貨物ヲ運送スル中立船舶
- 第十二章 一切ノ船ニ適用スベキ逮捕ノ原因
- 第十三章 抵抗護及送
- 第一款 抵抗
 - 第二款 中立護送艦ノ抵抗
 - 第三款 敵國護送艦

第十四章 船內書類

第一款 船內書類

第十五章 臨檢

第一款 共同捕獲ノ際ニ於ケル注意

第二款 臨檢ヲ行フベキ手續

第十六章 搜索

第一款 執行手續

第十七章 逮捕

第一款 逮捕ノ諒必原因タルベキ相當ノ證據

第二款 再捕獲ノ場合ニ於ケル逮捕

第三款 逮捕ハ船長單獨ノ行爲タリ

第四款 逮捕ノ手續

第五款 船內書類ノ押收

第六款 供述書ニ依リ證明スベキ書類

第七款 有價物ノ計算書

第八款 船舶ノ解放

第九款 捕獲ノ際ニ於ケル一般ノ義務

第十款 證據及書類

第十一款 捕虜ノ取扱

第十二款 官ノ命令ナクシテ軍艦トシテ行動スルコト

第十三款 敵船ニ使役セラル、英國臣民

第十八章 協同捕獲

第一款 英國軍艦ノ協同捕獲

第二款 聯合

第三款 協力

第四款 英國及同盟國軍艦ノ協同捕獲

第十九章 再捕獲

第一款 英國船ノ再捕獲

第二款 英國戰利物ノ再捕獲

第三款 中立船ノ再捕獲

第四款 同盟國船ノ再捕獲

第二十章 審檢港ニ送致スルコト

- 第一款 樞密院令ノ許セル賠償金
- 第二款 臨檢ノ爲ニ送致ノ遲滯スル場合ニ於ケル罰金
- 第三款 正當ナル審檢院
- 第四款 審檢港ノ選定
- 第五款 船舶回航ニ對スル注意
- 第六款 船舶ト共ニ送致スベキモノ
- 第七款 戰利品ノ保險
- 第八款 審檢港ニ總乘組員ヲ送致スル能ハザル場合ニ於ケル艦長ノ職務
- 第九款 載貨ノ審檢港ニ送致スル能ハザル場合ニ於ケル艦長ノ職務
- 第十款 船舶ノ審檢港ニ送致スルニ適セザル場合ニ於ケル捕獲者ノ職務
- 第二十一章 戰利士官ノ職務
- 第二十二章 審檢港ニ於ケル手續
- 第一款 税關ニ對スル戰利士官ノ職務
- 第二款 船舶乘組員及載貨ニ關スル職務
- 第三款 審檢手續ニ關スル職務

英國捕獲法提要

第一編 總 則

第一章 職 權

第一條 英國巡洋艦々長ガ戰時ニ於テ適法ナル捕獲ヲナスタメ行フコトヲ得ベキ職權ハ左ノ如

臨檢 ワイロット
 搜索 サウソク
 逮捕 アレンコン (審檢ヲ受クルタメ)

- 第一款 此ノ職權ヲ行ヒ得ベキ場所
- 第二條 前記ノ職權ハ中立國ノ領海ヲ除ク外何レノ海上ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得
- 國家ノ領海トハ其國沿岸ノ低潮線、又其ノ領土内ニ包圍セラレタル灣ニシテ其ノ灣口六哩ヲ超エザルトキハ其ノ灣口ヲ距ル三哩以内ノ水面ヲ云フ
- 第三條 前記ノ職權ハ中立國領海内ニ在ル船舶ニ對シテハ之ヲ行フコトヲ得ズ、其ノ最初之ヲ發見シ若クハ追跡セルトキハ該中立國領海外タル場合ニ於テモ亦同ジ
- 第四條 艦長ハ中立國領海ヲ作戰根據地トナシ其地ヨリ艦船艇舟ヲ派遣シ以テ該領海外ニアル

船舶ニ對シテ臨檢搜索逮捕ノ權ヲ行フコトヲ得ズ、然レドモ中立國領海以外ニ於テ捕獲ヲ行フ爲單ニ中立國領海ヲ通過スルハ妨ゲナシ、但シ平時ニ於テ特別ノ許可ナクンハ通過スルヲ得ザル領海ハ此限ニアラズ

第五條 船舶捕獲後其ノ中立國領海内ニ於テ捕獲シタルモノナルコトヲ確認セル場合ニ在リテ中立國官憲ヨリ其ノ原狀回復ノ請求アリタルトキハ艦長ハ直ニ之ニ應スベシ

第二欸 職權ヲ行アコトヲ得ベキ船舶

第六條 前記ノ職權ハ其ノ國籍ノ如何ヲ論ゼズ一切ノ私有船舶ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得、但シ交親國海軍ニ屬スル艦船ニ對シテハ此限ニアラズ

第七條 如何ナル船舶モ中立國公有船舶ニ護送セラル、ノ故ヲ以テ前記ノ職權行使ヲ免ル、コトヲ得ズ

第三欸 職權行使ノ理由

第八條 臨檢權ハ艦長ガ敵國ノ財産ニ屬スルモノ又ハ禁制セラレタル商業若クハ勤務ニ從事スルモノトシテ之ヲ逮捕スベキ相當ノ理由アリト認メタル船舶ニ對シテノミ之ヲ行フコトヲ得

第九條 逮捕スルヲ得ベキ船舶ハ左ノ如シ(第三章乃至第十一章ニ規定セル説明及除外例ノ規定ニ從フ)

一 其ノ到達地及載貨ノ如何ニ關セズ凡テノ敵船(第三章)

二 敵ト商業ヲ營ミ又ハ敵ノ勤務ニ服スル英國船及同盟國船(第四章)

三 左ニ掲グル中立船舶

イ 戰時禁制品ノ輸送ニ從事スルモノ(第六章)

ロ 敵ノ勤務ニ服スルモノ(第七章)

ハ 封鎖ヲ侵破スルモノ(第八章)

以上ノ三場合及或事情ノ下ニ特別ノ訓令ヲ以テ追加セラル、場合(第九章乃至第十一章)ヲ除クノ外中立船舶ハ自由ニ敵ト通商スルコトヲ得

第十條 船舶ニシテ左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルモノハ其ノ國籍又ハ其ノ從事スル商業ノ如何ヲ問ハズ凡テ之ヲ逮捕スルコトヲ得

一 臨檢又ハ搜索ニ抵抗スルコト(第十三章)

二 臨檢又ハ搜索ニ抵抗スル中立國艦船ノ護送ヲ受ケ航海スルコト(同章)

三 敵ノ護送ヲ受ケ航海スルコト(同章)

四 船内書類ヲ備ヘザルコト(第十四章)

第四欸 執行手續

第十一條 臨檢搜索及逮捕ハ規定ノ手續ニ從ツテ之ヲ行フベシ(第十五章乃至第十九章)

第五款 審檢ヲ受クル爲ニスル引致

第十二條 船舶ヲ逮捕シタルトキハ普通人ノナスベキ注意ヲ施シテ之ヲ審檢港ニ送致スベシ
該港ニ到着シタルトキハ捕獲審檢所ノ適法ノ檢定ヲ受クル爲其ノ手續ヲ執ルベシ(第二十章
乃至第二十二章)

第二章 職權行使ニ對スル責任

第十三條 臨檢搜索及逮捕ノ職權ハ最モ慎重ニ之ヲ行使スベシ、戰爭ハ極メテ熱心ニ之ヲ遂行
スベキモ同時ニ英國及同盟國若クハ戰爭ニ加ハラザル他ノ國民ノ商業ニ對シテハ苛酷ナル妨
害ヲ加フベカラズ

第十四條 艦長ハ常ニ其ノ職權行使ニ當ツテ應接スル船長及水夫ニ對シテ嚴ニ舉動ヲ慎ムベク
又麾下職員ニモ此ノ趣旨ヲ服膺セシムベシ

第十五條 艦長ニシテ其ノ職務執行上正當ナル理由ナク船舶ヲ逮捕シ又ハ國際公法上若クハ其
他法令ノ認メザル行爲ヲ行フトキハ該艦長ハ女王政府ノ批難ヲ受ル且ツ自カラ其ノ損害賠償
ノ責ニ任ズベシ

第十六條 艦長ハ其ノ在否ニ關セズ麾下職員ノ行爲ヨリ生ズル損害ノ責ニ任ズ、但シ其ノ先任
官(例令ハ艦隊司令長官)ガ現場ニ在リテ之ニ協力シタルトキ又ハ命令ヲ發シテ之ヲ行ハシメ
タルトキニアラザレバ其ノ責任ヲ先任官ニ歸スルヲ得ズ

第十七條 船舶及載貨ハ適法ナル捕獲物ト檢定セラレタル場合ニ於テモ該捕獲者ニシテ若シ該
船舶載貨若クハ乗組員ニ對シテ國際公法、一千八百六十四年海軍戰利法、海軍軍律ニ關スル
條例、樞密院令、勅令、若クハ勅諭ニ背反セル行爲ヲナシ又ハ海軍本部令若クハ上官ノ命令
ニ違ヒタルトキハ捕獲審檢所ニ於テ該捕獲物ニ對スル利益ヲ剝奪スベシ

第二編 逮捕原因各論

第三章 敵 船

第十八條 艦長ハ敵船ヲ發見スルトキハ其何レノ港灣間ニ通商スルモノナルヲ問ハズ凡テ之ヲ
逮捕スベシ而シテ該船ノ士官及水夫ハ捕虜トス

第一款 敵 船

第十九條 船長ハ左ニ掲グルモノヲ敵船トシテ逮捕スルコトヲ得
一 敵國政府ノ旗章ヲ掲ゲ又ハ其ノ通航券ヲ受ケテ航海スル船舶
二 敵國政府ノ特許ヲ得テ航海スル船舶
三 第二十條乃至第三十條ノ規定ニ依リ其ノ全部又ハ一部敵ノ所有ニ屬スル船舶
四 船舶ニシテ第四十一條第四十二條第四十五條第五十五條及第五十六條ノ規定ニ依リ表面
上英國、同盟國又ハ中立國ノ臣民ノ所有ニ屬スルモ該所有者ハ其ノ船舶ノ軍艦ト遭遇セシ
航海ヲ開始シタル後ニ敵ヨリ所有權ノ移轉ヲ受ケ實際未ダ之ヲ占有セザルモノ

五 船舶ニシテ表面上英國、同盟國若クハ中立國ノ臣民ノ所有ニ屬スルモ該所有者ハ戰爭中又ハ戰爭前其ノ破裂ヲ豫期シテ敵ヨリ權利ノ讓渡ヲ受ケタルモノ、但シ其ノ讓渡ガ善意且ツ完全ナリト十分ノ證明アルモノハ此限ニアラズ

斯ル讓渡アルコトヲ申立ツル場合ニ於テハ艦長ハ賣買證書及賣買ニ關スル他ノ書類及諸信書ノ提出ヲ請求スベシ其ノ賣買證書ヲ提出セザルトキ及該證書ナキノ疑ヒアルトキハ艦長ハ該船舶ヲ逮捕スルコトヲ得

賣買證書ガ提出セラレタルトキハ其ノ條項殊ニ掲グル細目ヲ調査スベシ

イ 賣却者ノ氏名及住所

ロ 購買者ノ氏名及住所

ハ 賣買ノ箇所及時日

ニ 違約金及受領證書

ホ 賣買ノ條件

ヘ 賣買前後ニ於ケル船舶ノ任務及船長ノ氏名

賣却者ノ氏名住所ハ其ノ敵人ナルヤ否ヲ示スノ材料タリ

購買者ノ氏名住所ハ其英國、同盟國若クハ中立國內ニ住所ヲ有スルヤ否ヲ示ス材料タリ

賣買ノ日及箇所ハ讓渡ガ戰爭ヲ豫期シテ又ハ戰爭ノ爲ニ行ハレタルヤ否ヲ知ルノ材料タリ

リ

違約金ハ船舶ガ賣買ニ依リ讓渡サレタルコトヲ申立ツル場合ニ於テ該契約ガ善意ナリヤ否ヲ知ルノ材料タリ何トナレバ若シ賣買ニ方リテ違約金ガ名義上ニ止リ又ハ全く不相當ノモノナルトキハ嫌疑ヲ起スノ正當ナル理由アレバナリ然レドモ贈與若クハ遺言ニ依ル移轉ニシテ善意且ツ完全ナル場合ニ於テハ賣買ニ依ル讓渡ト同ジク有効ナルモノトス

賣買金額ニ對スル受領書ハ該船舶ガ賣買ニ依リテ讓渡サレタルコトヲ申立ツル場合ニ之ヲ提出セシムベシ然レドモ賣買ガ善意ニシテ且ツ他ノ關係ニ於テモ完全ナル證明アルトキハ受領書ナク且ツ代價ハ實際支拂ハザルモ其ノ讓渡ハ有効トス何トナレバ賣主ハ支拂ハレザル代價ニ對シテ船舶載貨及運賃ヲ差押フルノ權利ヲ有スルモ此ノ權利ヲ執行スルトキハ該船舶ハ沒收スルコトヲ得ルヲ以テ捕獲審檢所ハ此ノ權利ヲ以テ敵ニ利益ヲ與フルモノト認メザレバナリ、之ニ反シテ代價ヲ支拂フニ現金ヲ以テセズ單ニ帳簿上ノ計算ニ止ルトキハ此ノ讓渡ハ虛偽ナリト推定ス、此ノ推定ハ反對ノ明證ナキ以上ハ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

賣買ノ條件ハ該讓渡ガ完全ナリヤ否ヲ知ルノ材料タリ賣買ガ絶對的ナラザルトキハ讓渡ハ完全ナラズ例令ハ契約取消權ヲ有シ又ハ戰爭結了後船舶ヲ返却スベキ條件ヲ附セルトキ又ハ舊所有者ガ尙其ノ船舶ノ利益ヲ保有シ若クハ之ニ對シテ監督ヲ行フガ如キ場合は

讓渡前後ニ於ケル船舶ノ任務及船長ノ氏名ハ讓渡ガ誠實真正ナルヤ否ヲ知ルノ材料タリ
若シ任務ガ讓渡ノ爲ニ少シモ變更セザルトキハ該讓渡ハ虛偽ナリト推定スルコトヲ得
讓渡後尙同一ノ船長ガ指揮者タルコトハ疑ヲ招クニ足ルモ此ノ事實ノミニテハ讓渡ガ善
意ニ出デザルコトヲ論斷スルヲ得ズ

讓渡ガ當事者間ニ於テ善意且完全ナルトキハ外國ノ租稅若クハ船舶法ノ規定ヲ免レムガ
爲行ハレタリトノ事實ハ毫モ其ノ効力ヲ妨ゲザルナリ

代理人ニ依リ賣買ヲナシタルモノナルトキハ委任狀ノ提出ヲ請求スベシ

第二欸 敵人

第二十條 本章ニ於テ敵人ト云フハ國籍ノ如何ヲ問ハズ敵國領土内ニ居住シテ商業ヲ營ム者ヲ
云フ

第二十一條 敵國ノ爲ニ一時占有セラレタル地ハ必ズシモ之ヲ敵國領土ト云フベカラズ

第二十二條 籍ヲ敵國ニ有スルモ英國、同盟國若クハ中立國內ニ居住シ商業ヲ營ム者ハ敵人ニ
アラズ

第二十三條 本人ノ居住シ商業ヲ營ム地ヲ稱シテ時トシテハ之ヲ其ノ商業上ノ住所ト云フコト
アリ

第二十四條 一國內ニ於テ商業ヲ營ムトキハ其地ニ居住セザルトキト雖モ商業上ノ住所ハ其國
ニアリト看做スコトヲ得

第二十五條 中立國ニ於テ商業ヲ營ム者モ敵國內ニ居住スルトキハ其ノ住所ハ敵國ニ在リト看
做スコトヲ得

第二十六條 一人ニシテ種々ノ營業ニ從事スルニ從ツテ數多ノ商業上ノ住所ヲ有スルコトヲ得
第二十七條 領事ニシテ商業ヲ營ム者ノ商業上ノ住居ハ其ノ代表スル國ニ在ラズシテ其ノ商業
ノ營ム地ニ在ルモノトス

第二十八條 歐洲人ニシテ東洋ニ於テ商業ヲ營ム者ハ其ノ營業上保護ヲ受クル商社若クハ組合
ノ住所地ヲ以テ其ノ商業上ノ住所トス

第二十九條 商業上ノ住所ハ他ノ商業上ノ住所ガ善意ニ取得セラル、マデハ變ゼザルモノトス
然レドモ所謂普通ノ住所ヨリモ容易ニ變更サレ得ベキモノナリ

第三十條 敵ノ航海ニ從事スル者ハ該航海ニ使用スル船舶及本人ト異レル國籍ヲ有セザル其ノ
所有船舶ニ關シテハ本章ニ於テ之ヲ敵人ト看做ス

第三十一條 船舶所有者ノ商業上ノ住所ハ其船内書類即チ其ノ船籍證書(之ヲ有スル場合)製造
者ノ契約書(該船舶ガ新造船ナルトキ)又ハ賣渡證書(該船舶ガ新ニ讓渡サレタルモノナルト
キ)ヲ査閲シ又其ノ持主ノ氏名及商業上ノ住所ヲ熟知スベキ船長ニ尋問シテ之ヲ確ムベシ

第三款 捕虜交換船ニ對スル例外

第三十二條 敵船ニシテ實際捕虜交換ニ從事スルモノハ現ニ其ノ捕虜ヲ搭載スル場合并捕虜ヲ受取ル爲ニ航海中又ハ既ニ其送達ヲ了リテ歸航中ニシテ空船ナル場合ニ於テモ等シク逮捕ヲ免ルベシ

第三十三條 捕虜交換船ハ交戰國ノ一方ノ捕虜取扱官吏ノ發スル通航券ヲ備フベシ然レドモ此ノ通航券ヲ有セザルモノモ現ニ捕虜交換船トシテ使用セラル、ノ證據確實ナル場合ニハ艦長ハ之ヲ逮捕スベカラズ

第三十四條 船舶ガ休戰旗ヲ掲ゲ若クハ交戰國雙方ノ國旗ヲ同時ニ掲ゲテ航行スル事實ノミニテハ其捕虜交換船タルノ十分ノ證明トナスベカラズ又其ノ明ニ捕虜交換ニ關スル任務ニ從事スルモノナルモ捕虜取扱官吏ノ通航券ヲ有セズ唯該艦長ガ自己ノ責任ヲ以テ航海スルモノハ之ヲ捕虜交換船ト看做スベカラズ

第三十五條 捕虜交換船ハ營業ヲナシ又ハ一切ノ貨物若クハ通信ヲ運搬スルコトヲ得ズ之ヲ犯スモノハ逮捕セラレベシ

第四款 他ノ例外

第三十六條 特ニ學術上ノ探檢ノ目的ヲ以テ航海スル船舶ハ通常逮捕ヲ免ルベシ又特別訓令範圍内ニ限リ沿岸漁獵ニ從事スル艇舟モ亦同ジ

第五款 逮捕セラレタル船舶及載貨ノ處分

第三十七條 逮捕セラレタル船舶ハ敵ノ載貨ト共ニ之ヲ沒收ス中立載貨ハ戰時禁制品ヲ除キ之ヲ解放ス英國若クハ同盟國ノ載貨ハ各事情ニ依リ其ノ處分ヲ定ム

第四章 英國船及同盟國船

第三十八條 艦長ハ敵ト通商スル英國船舶ニ遭遇シタル時ハ次ノ場合ヲ除ク外之ヲ逮捕スベシ

- 一 該艦長ハ未ダ開戰ノ事實ヲ知ラズシテ通商スルモノナルコト明ナルトキ
- 二 該船舶ガ英國政府ノ特許ヲ得テ通商ヲナセルトキ

第三十九條 艦長ハ敵ノ爲ニ其ノ軍人若クハ通信ノ運搬ニ從事スル英國船ヲ逮捕スベシ(此問題ハ便宜上同一ノ運搬ニ從事スル中立國船舶ノ部ニ於テ之ヲ詳論スベシ)(第七章)

第一款 英國船

第四十條 艦長ハ左ニ掲グル船舶ヲ英國船ト看做スルコトヲ得

- 一 英國國旗ヲ掲ゲ及英國ノ通航券ヲ有シ航海スル船舶
- 二 英國船籍證書ヲ有スル船舶
- 三 第四十一條及第四十二條ニ規定スル所ニ從ヒ英國人ノ所有ニ屬スル船舶
- 四 船舶ニシテ表面上中立國ニ商業上ノ住所ヲ有スル人民ノ所有ニ屬スルモ該所有者ハ其ノ船舶ノ軍艦ト遭遇セシ航海ヲ始メタル後英國臣民ヨリ其ノ所有權ノ移轉ヲ受ケ未ダ實際之

ヲ占有セザルモノ

五 船舶ニシテ表面上中立國ニ商業上ノ住所ヲ有スル人民ノ所有ニ屬スルモ該所有者が戰爭中若クハ開戰前開戰ヲ豫期シテ英國臣民ヨリ其ノ所有權ノ移轉ヲ受ケタルモノ但シ該移轉ガ善意且完全ナルノ十分ノ證據アルモノハ此限ニアラズ

第二款 英國臣民

第四十一條 本章ニ於テ英國人トハ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ凡テ英國ニ於テ商業上ノ住所ヲ有スルモノヲ云フ

第四十二條 英國ニ於ケル商業上ノ住所ニ付テハ敵國ノ商業上ノ住所ニ關スル規定ヲ準用ス(第三章第二十條第二十條)

第四十三條 船舶所有者ノ商業上ノ住所ハ該船内書類即チ船籍證書(之ヲ有スル場合)製造者ノ契約書(該船舶ガ新造船ナルトキ)又ハ賣渡證書(該船舶ガ新ニ讓渡サレタルトキ)ヲ查閱シ又ハ其持主ノ氏名及住所ヲ熟知スベキ該船舶ノ船長ニ尋問シテ之ヲ確ムベシ

第三款 敵トノ通商

第四十四條 艦長ハ左ニ掲グル英國船ヲ敵ト通商スルモノト看做スコトヲ得

- 一 敵港ヨリ起航スルモノ
- 二 航海中實際貨物ヲ積込ミタルト否トニ關セズ其ノ寄港地ト定メタル敵港ニ寄港スルモ

三 始メヨリ又ハ時機ニ依リ敵港ヲ其ノ到達地又ハ寄港地トシテ航海ヲ始メタルモノ、但シ其ノ軍艦ニ遭遇スル前該船長ガ全ク敵港ニ行クノ念ヲ拋棄シタルトキハ此限ニアラス

四 其ノ直接且表面ノ到達港ハ中立港ナルモ眞ノ到達港ガ敵港ナルモノ

第四十五條 一時敵ノ占領ニ歸シタル港ハ之ヲ敵港ト看做サズ

第四十六條 所謂通商トハ必ズシモ加害的行爲ノ之ニ伴フヲ要セズ單ニ交通ノ事實ノミニテ十分ナリトス故ニ開戰前ニ敵國領土内ニ蓄藏セル英國人ノ財産ヲ英國ニ送還スル爲ニ船舶ヲ雇備セル場合ニ於テモ該備船契約ガ開戰ノ事實ヲ知リタル後ニ締結セラレタルトキハ之ヲ以テ辯解ノ理由トナスヲ得ズ

第四十七條 敵トノ通商ハ唯英國艦隊ノ爲ニスル場合ニ限り合法ナリトス

第四款 罰則

第四十八條 敵ト通商スル船舶ハ敵ノ貨物ト同ジク之ヲ沒收ス中立貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ解放ス英國及同盟國ノ貨物ハ各事情ニ依リ其處分ヲ定ム

第五款 同盟國ノ船舶ハ敵ト通商等ノコトヲナスベカラズ

第四十九條 英國ノ戰時同盟國ノ人民ノ所有ニ屬スル船舶ハ英國船舶ト同ジク敵ト通商シ又ハ敵ノ役務ニ従事スルヲ得ズ故ニ英國船ニ關スル本章ノ規定ハ必要ナル事項ヲ變更ノ上之ヲ同

盟國船ニ準用ス

第五章 中立船舶

第五十條 艦長ハ中立船舶ニシテ戰時禁制品ノ輸送ニ從事シ軍人又ハ信書ヲ輸送シ以テ敵ノ役務ニ服シ又ハ封鎖ヲ侵破セントスルモノハ之ヲ逮捕スベシ但シ左ノ場合ハ此限ニアラズ

- 一 船長ガ未ダ開戦ノ事實ヲ知ラズシテ之ヲナセルコト明ナルトキ
- 二 該船舶ガ英國政府ノ特許ヲ得テ之ヲナセルトキ

第一款 中立船舶

第五十一條 中立國政府ノ國旗及通航券ハ以テ船舶ノ中立的性質ヲ推測スルニ足ラズ其ノ中立的性質ハ全ク第五十五條及第五十六條ニ規定スルガ如ク該船舶ガ中立人民ノ財產タルヤ否ヤニ依リテ之ヲ決スベキモノトス

第五十二條 船舶ニシテ表面上中立人民ノ所有ニ屬スルモ該所有者ハ其ノ船舶ノ軍艦ト遭遇セル航海ヲ始メタル後敵人又ハ英國若クハ同盟國人民ヨリ其ノ所有權ノ移轉ヲ受ケ實際未ダ之ヲ占有セザルトキハ之ヲ該中立人民ノ所有ニ屬スルモノト云フヲ得ズ

第五十三條 船舶ニシテ表面上中立人民ノ所有ニ屬スルモ該所有者ガ開戦中又ハ開戦前其開戦ヲ豫期シテ敵人又ハ英國若クハ同盟國臣民ヨリ其所有權ノ移轉ヲ受ケタルモノナルトキハ之ヲ中立人民ノ所有ニ屬スルモノト謂フヲ得ズ但シ該讓渡ガ善意且完全ナル十分ノ證據アルト

キハ此限ニアラズ

第五十四條 中立船舶ニシテ曩ニ英國又ハ同盟國所屬ナリシモ敵ノ爲ニ捕獲セラレ審檢ヲ受クルタメ敵港ニ引致セラレタルコトノ證據アルトキハ艦長ハ反對ノ直接證據ナキ限りハ該船舶ヲ以テ敵ノ捕獲審檢所ニ於テ正式ニ沒收セラレ仍テ中立人民ノ合法ナル財產トナレルモノト推定スベシ

第二款 中立人民

第五十五條 本章ニ於テ中立人民ト稱スルハ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ中立國ニ於テ其ノ商業上ノ住所ヲ有スルモノヲ云フ

第五十六條 中立國ニ於ケル商業上ノ住所ニ付テハ敵國ニ於ケル商業上ノ住所ニ關スル規定ヲ準用ス(第三章第二十條第二十條)

第六章 中立船及戰時禁制品

第一款 戰時禁制品

第五十七條 凡テ物品ハ左ノ二條件ヲ具フルトキハ之ヲ戰時禁制品トス

- 一 專ラ戰時ノ用ニ適スルコト又ハ戰時及平時ノ用ニ適スルコト
- 二 戰時敵ノ使用ニ供スルコト確定シタルコト

第五十八條 船舶ガ戰時禁制品ヲ搭載スル疑アルトキハ艦長ハ前條ノ規定ニ從ツテ左ノ二點ヲ

確知スベシ

一 載貨ノ性質

二 載貨ノ到達地ヲ決スベキ該船舶ノ到達地

第二欸 物品ノ性質

第五十九條 載貨ノ性質ハ船荷證券、送狀及載貨目錄ヲ検査シ船長水兵ニ尋問シ及若シ必要アリバ船舶ヲ搜索シテ之ヲ確ムベシ

第六十條 禁制品ノ性質ヲ用スル物品ノ數量ガ該船舶及乗組員ノ常用ニ要スル數量ヲ超エザルトキハ其ノ船舶ハ之ヲ逮捕スルヲ得ズ

第三欸 絶對的戰時禁制品

第六十一條 専ラ戰時ノ用ニ適スル凡テノ物品及平時ノ用ニ適スルモ其性質上戰時ニ於テ特ニ敵用ニ供セラル、或種ノ物品ニシテ敵港ヲ到達港ニシテ發航スル船舶ニ搭載スルモノハ之ヲ絶對的戰時禁制品ト謂フ

第六十二條 絶對的戰時禁制品トハ左ノ如シ

凡テノ種類ノ武器及製造用ノ機械、彈藥及彈藥ノ材料即チ鉛、硫酸剝篤亞斯、鹽酸剝篤亞斯(鹽化剝篤亞斯)、格魯兒酸剝篤亞斯及硝酸曹達、火藥及其材料即チ硝石、硫黃及綿火藥

軍裝用品及衣服

陸軍軍需品

海軍軍需品即チ橋、長材、舵及船材、麻及綱具、帆布、瀝青、脂松、船體包被用ノ銅、船用機關及其組成部分即チ螺旋推進機、外輪推進機、汽筒、曲肱、車軸、機罐、機罐用ノ管、罐板及火桿ヲ含ム、船用セメント及其製造ニ要スル材料即チ「ブリユーライアス」及「ポートルアントセメント」等并ニ下ニ掲グル形ヲ有スル鐵即チ錨、鉸釘鐵、角鐵、直徑四分三吋ヨリ八分五吋マデノ圓材、鉸釘、條鐵、四分一吋以上ノ鐵ノ延板及ロウムア、アントボウリング鐵板

第四欸 條件的戰時禁制品

第六十三條 戰時及平時用ニ適スル物品(絶對的戰時禁制品ヲ除ク)ニシテ敵國ニ向ケ發航スル船舶ニ搭載スルモノハ條件的戰時禁制品トス、即チ其ノ戰爭用ニ供セラレムトスルコトヲ推定スルヲ得ル場合ニ於テノミ之ヲ禁制品トスルモノナリ而シテ船舶ノ到達地ガ海上ニ在ル敵艦隊ナルカ又ハ専ラ若クハ主トシテ海陸軍艦裝ノ爲ニ用キラレタル敵港ナルトキハ此ノ推定ヲナスヲ得ルモノトス

第六十四條 條件的戰時禁制品ハ左ノ如シ

海陸軍用ニ適スル糧食及飲料

金錢

電信架設材料即チ電線、ポラス、カツナス多孔性陶器、白金、サルフリック硫酸、アレンド亞鉛

鐵道建設材料即チ棒鐵、枕木等

石炭

飼草

馬匹

樹脂

獸脂

木材

第六十五條 戰時ニ於テ絶對的及條件的戰時禁制品中ニ掲ゲタル物品ヲ増減スルコトハ國王ノ

特權ニ屬ス但シ英國ヲ羈束スル條約ノ規定ニハ從フモノトス

第六十六條 艦長ハ船舶ニ搭載スル物品ガ專ラ平時ノ用ニ適スルモノナルコトヲ知ルトキハ該

船舶ノ進航ヲ許スベシ

第五款 船舶ノ到達地

第六十七條 載貨中專ラ戰時用ニ適スルモノ又ハ戰時平時兩用ニ適スルモノアルトキハ巡洋艦

艦長ハ進ンデ其ノ備船契約書、航泊日誌其他ノ書類ヲ検査シ及船長水夫ニ尋問シテ該船舶ノ

到達地ヲ確ムベシ

第六十八條 船舶ニシテ其ノ目的港及航海中寄泊スル中間港共ニ中立地ナルトキ并ニ其ノ航海

中海上ニ在ル敵艦隊ニ赴クモノニアラザルトキハ該船舶ノ到達地ハ中立地トス

第六十九條 船舶ニシテ其ノ目的港若クハ航海中寄泊スル中間港ガ敵地ナルトキ又ハ其ノ航海

中海上ニ在ル敵艦隊ニ赴クモノナルトキハ該船舶ノ到達地ハ敵地トス

第七十條 船舶ハ往々便宜ニ任セ其ノ到達地ヲ決スル旨船内書類ニ記載スルコトアリ此ノ場合

ニ於テ該船舶ガ便宜寄泊シ又ハ到達セントスル港中敵地アルトキハ其ノ到達地ハ敵地ナリト

推定ス但シ該船長ガ全ク敵港ニ赴ク念ヲ拋棄シテ中立國ニ向ヘルコトノ證據明確ナルトキハ

此ノ推定ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七十一條 船舶ノ表面上ノ到達地ハ中立港ナルモ實際上ハ一旦該港ニ寄泊シテ載貨ヲ陸揚シ

以テ虚偽ノ授受ヲナセル後再ビ同貨物ヲ搭載シテ敵港ニ赴クモノアリ此ノ場合ニ於テハ其ノ

航海ハ連續セルモノトシ到達地ハ始メヨリ敵地ナリトス

第七十二條 船舶ノ到達地ハ其ノ載貨ノ到達地ヲ確定ス故ニ船舶ノ到達地敵地ナルトキハ船内

書類其他ノ手段ニ依リ載貨ハ敵地ニ至ルモノニアラズシテ敵地ヲ經テ最終ノ到達地タル中立

地ニ到ルモノカ又ハ中間ノ中立港ニ陸揚セラル、モノナルコトヲ知得ベキ場合ニ於テモ尙其

ノ載貨ノ到達地ハ敵地ナリト認定セザルベカラズ

第七十三條 船舶ノ到達地ガ中立地ナルトキハ船内書類又ハ他ノ手段ニ依リ載貨ハ轉載、陸上輸送又ハ其他ノ方法ニ依リ最終ノ到達地タル敵地ニ送ラル、コトヲ知得ベキ場合ニ於テモ其ノ載貨ノ到達地ハ又中立地ナリト認定セザルベカラズ

第六款 無効ノ辯解

第七十四條 船長ガ其ノ載貨ノ性質ヲ知ラザルコト又ハ知ラズト主張スルコトハ戰時禁制品輸送ノ辯解ト爲スヲ得ズ

第七十五條 船長ガ敵ノ脅迫ヲ受ケテ戰時禁制品ヲ輸送セリトコトハ辯解ト爲スヲ得ズ

第七十六條 船舶ガ敵ト無害品ノ貿易ヲナスノ許可ヲ受ケタリトコトハ辯解ト爲スヲ得ズ

第七十七條 船舶ガ同時ニ自國政府ノ信書輸送ニ從事セリトコトハ辯解ト爲スヲ得ズ

第七十八條 「船舶自由ナレバ載貨自由ナリ」トノ條約ノ規定ハ戰時禁制品ノ輸送ヲ許スモノニアラズ

第七十九條 戰時禁制品ヲ積込ミタル港ノ英國、同盟國、中立國又ハ敵國ナルヤ否ヤハ毫モ影響スル所ナシ

第七款 船舶ノ責任及其ノ始期終期

第八十條 戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ハ之ヲ搭載シテ出港スル時ヨリ逮捕セラル、ノ責ヲ負ヒ之ヲ卸下スルマデ其ノ責任繼續ス、其ノ之ヲ卸下シタル後ハ船舶ハ普通其ノ責ヲ免ル、モノ

トス故ニ原則トシテハ艦長ハ現ニ船舶ガ戰時禁制品ヲ搭載スル場合ニアラザレバ之ヲ逮捕スルコトヲ得ズ然レドモ虚偽ノ書類ヲ作爲シタルコトハ其罪ヲ重カラシムルモノナルガ故ニ艦長ハ船舶ノ歸航スルニ遭遇シタル場合ニ其ノ外國航ニ於テ虚偽ノ書類ヲ作爲シ以テ戰時禁制品ヲ輸送シタルコトヲ確認スルトキハ之ヲ逮捕スルコトヲ得而シテ歸航ノ際ノ載貨ガ往航ノ禁制品ノ賣上金ヲ以テ購入セラレタル場合ト否トハ毫モ關スル所ニアラズ

第八款 戰時禁制品ハ轉載スベカラズ

第八十一條 艦長ハ船舶内ニ發見スル戰時禁制品ヲ卸下シテ其ノ船舶ノ進航ヲ許スコトヲ得ズ必ズ該船舶ヲ逮捕シ審檢ヲ受クル爲搭載セル戰時禁制品ト共ニ之ヲ送致スルノ義務アリ

第九款 罰則

第八十二條 絶對的戰時禁制品輸送ノ罰トシテ通常該貨物及其ノ持主ガ載貨ノ殘部ニ對シテ有スル利益ヲ沒收ス

第八十三條 戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ガ該載貨ノ持主ノ所有ニ屬セザルトキハ之ヲ沒收セズ然レドモ該載貨ノ運賃及逮捕ノ結果ヨリ生ズル損失ノ要償權ヲ失フモノトス

第八十四條 制限的戰時禁制品及未製品ニシテ且ツ輸出國ノ產物タル絶對的戰時禁制品ノ輸送ニ對シテハ英國政府ハ該貨物ノ先買權ヲ有スルニ止ル但シ其ノ輸送スル船舶ニハ運賃ヲ拂フモノトス

第八十五條 虛偽ノ書類ヲ作爲シ又ハ條約ノ明文ニ反シテ戰時禁制品ヲ輸送スルトキハ其ノ罰トシテ禁制品并ニ該船舶及持主ガ載貨ノ殘部ニ對シテ有スル利益ヲ沒收ス

第十款 戰時禁制船舶

第八十六條 軍用船トシテ艦裝セラレ敵地ニ賣渡サントスル中立船舶ハ船舶其物が戰時禁制品タルヲ以テ之ヲ逮捕スベシ

第十一款 罰則

第八十七條 戰時禁制船舶ハ其ノ持主ノ所有ニ屬スル載貨ト共ニ之ヲ沒收ス

第七章 敵ノ勤務ニ従事スル中立船

第一款 敵ノ運送船

第八十八條 艦長ハ敵ガ現ニ運送船トシテ其陸兵若クハ水兵ノ輸送ニ使用スル中立船舶ヲ逮捕スベシ

第八十九條 中立船舶ニシテ其ノ人員ノ多少ヲ問ハズ敵國武官ハ勿論敵國ノ公務上及其ノ公費ヲ以テ派遣セララル、敵國文官ヲ搭載スルトキハ之ヲ逮捕スベシ

第九十條 敵國ヨリ中立國ニ又ハ中立國ヨリ敵國ニ向ケ公使ヲ輸送スルコトハ之ヲ禁ズルノ限ニアラズ故ニ中立船舶ガ斯ル輸送ニ従事スルコトハ逮捕ノ原因トナラズ

第二款 無効ノ辯解

第九十一條 艦長ガ其ノ性質ヲ知ラザリシ事實ヲ以テ敵國軍人輸送ノ辯解ト爲スヲ得ズ
第九十二條 艦長ガ敵國ノ脅迫ヲ受ケ敵國ノ軍人ヲ輸送セリトノコトハ以テ辯解ト爲スヲ得ズ

第三款 船舶ノ責任其ノ始期終期

第九十三條 敵國軍人ノ輸送ニ従事スル船舶ハ之ヲ搭載シテ出港スル時ヨリ逮捕セラル、ノ責ヲ負ヒ其ノ之ヲ卸下スルマデ其ノ責任繼續ス之ヲ卸下スルノ後ハ該船舶ハ全ク責ヲ免ル、モ
ノトス

第四款 人員ハ之ヲ轉載スベカラズ

第九十四條 艦長ハ船舶内ニ在ル敵國軍人ヲ下船セシメ其ノ船舶ノ進航ヲ許スコトヲ得ズ必ズ該船舶ヲ逮捕シテ船内ノ軍人ト共ニ之ヲ審檢港ニ送致スルノ義務アリ

第五款 罰則

第九十五條 敵國軍人輸送ノ罰トシテ該船舶及其ノ持主ノ所有ニ屬スル載貨ヲ沒收ス

第六款 敵ノ信書輸送

第九十六條 艦長ハ敵ノ信書ヲ搭載スル中立船舶ヲ逮捕スベシ

第九十七條 敵ノ信書トハ其ノ須要ナルト否トニ關セズ敵國ノ勤務ニ服スル文武官ガ其ノ公務上往復スル公ノ通信ヲ謂フ

第九十八條 前條ノ規定ニ對スル例外一アリ即チ敵國政府ト中立國ニ駐在スル敵國公使及領事間ニ往復スル公ノ通信是ナリ此ノ通信ハ中立國ノ事務ニ關スルヲ以テ平和的性質ヲ有ストノ推定ニ依リ許容セラルベキモノトス

第九十九條 敵國及中立國政府間ニ往復スル公ノ通信ハ如何ナル場合ニ於テモ逮捕ノ原因トナラズ

第七款 無効ノ辯解

第一百條 船長ガ其ノ性質ヲ知ラザリシトコトヲ以テ其ノ信書輸送ノ辯解ト爲スヲ得ズ

第一百一條 敵ノ脅迫ヲ受ケ其ノ信書ヲ輸送セリトコトハ以テ辯解ト爲スヲ得ズ

第一百二條 郵便船ノ輸送スル郵便袋ハ特別ノ訓令ナキ以上ハ敵ノ信書ニ對スル搜索ヲ免除セラ
ル、モノニアラズ

第八款 船舶ノ責任其ノ始期及終期

第一百三條 敵ノ信書ヲ輸送スル船舶ハ之ヲ搭載シテ出港スルトキヨリ逮捕セラル、ノ責ヲ負ヒ其ノ之ヲ卸下スルマデ責任ヲ繼續ス之ヲ卸下シタル後ハ該船舶ハ全ク責ヲ免カル、モノトス

第九款 敵ノ信書ハ之ヲ轉載スベカラズ

第一百四條 艦長ハ船舶内ニ在ル敵ノ信書ヲ卸下シテ該船舶ノ進航ヲ許スコトヲ得ズ必ズ該船舶ヲ逮捕シ審檢ヲ受クル爲メ船内ノ信書ト共ニ之ヲ送致スルノ義務アリ

第十款 罰則

第一百五條 敵ノ信書輸送ノ罰トシテ該船舶及持主ノ所有ニ屬スル載貨ヲ沒收ス

第八章 中立船舶、封鎖侵破

第一百六條 艦長ハ封鎖ヲ侵破セント企ツル船舶ハ中立船舶ト雖モ之ヲ逮捕スベシ

第一百七條 封鎖ノ侵破ニ付テハ左ノ條件ヲ要ス

- 一 有効ナル封鎖ガ成立セルコト(第七條乃至第一百三條)
- 二 臨檢セラレタル船舶ガ封鎖ノ告知ヲ受ケタルモノナルコト(第一百四條乃至第二百二十八條)
- 三 臨檢セラレタル船舶ガ封鎖ヲ侵破セント企テタルコト(第二百二十九條乃至第三百二十六條)

第一款 有効ナル封鎖

第一百八條 有効ナル封鎖ハ敵國港灣及海岸ニ對シテ之ヲ施行スルモノニ限ル然レドモ封鎖ハ敵國ノ一港、數港若クハ全海岸ニ對シテ之ヲ施行スルコトヲ得

第一百九條 封鎖ハ通常出入港共ニ之ヲ禁遏スル爲施行スト雖モ單ニ入港(入港封鎖)若クハ出港(出港封鎖)ノ一方ノミヲ禁遏スル爲之ヲ施行スルコトヲ得

第一百十條 有効ナル封鎖ハ實力のナラザルベカラズ即チ實際敵國海岸ニ接到スルヲ防グニ足ルベキ又ハ封鎖線ヲ出入セント企ツル船舶ニ對シテ明ナル危險ヲ加フルニ足ルベキ十分ノ力ヲ

以テ之ヲ維持セザルベカラズ

第百十一條 封鎖施行ノ權限ヲ有スル司令官ハ其ノ部下ノ艦隊ヲ配置シテ前條ノ結果ヲ收ムル

ニ支障ナカラシムルノ義務アリ此ノ場合ニ於テハ事實上ノ封鎖ハ既ニ成立セルモノトス

第百十二條 封鎖ハ有効ニ成立スル場合ト雖モ實力ヲ以テ之ヲ維持セザレバ其ノ効力ヲ失フ故

ニ左ノ場合ニ於テハ封鎖ハ消滅スルモノトス

一 封鎖艦隊ガ其ノ位地ヲ撤去スルトキ但シ其ノ撤去ガ單ニ一時ニ止ルトキ又ハ天候ノ爲ニ起リタルモノナルトキハ此限ニアラズ

二 敵ノ爲ニ擊退セラレタルトキ

三 其ノ職務ヲ懈レルトキ

四 甲乙船舶ニ對シ又ハ甲乙國民ノ船舶ニ對シ其ノ職務執行上不公平ノ處置アルトキ

第百十三條 艦長ガ同時ニ數艘ノ船舶ヲ押へ悉ク之ヲ逮捕スルコト能ハザルトキハ其ノ一部ヲ

免ジ殘部ヲ逮捕スルコトアルモ之ヲ以テ不公平ノ處置アリトナスベガラズ又封鎖ガ緩弛セリト謂フベカラズ

第二款 封鎖ノ告知

第百十四條 封鎖ノ告知ハ現實ナルコトアリ又認定ナルコトアリ

第三款 現實ノ告知

第百十五條 船長ハ或ハ交戰國巡洋艦ヨリ直接ニ警告ヲ受ケ或ハ公私ノ通信ニ依ル等其ノ方法

ノ如何ヲ問ハズ苟モ封鎖ノ存在ヲ知リタルコト明カナルトキハ現實ノ告知ヲ得タルモノトス

第百十六條 船長ガ現實告知ヲ得タルヤ否ヤハ船長及乗組員ニ尋問シ及船内書類ヲ検査シテ之

ヲ確ムベシ艦長ハ殊ニ備船契約書及船荷證券ヲ検査シ封鎖ニ關スル記述ナキヤ否ヤ及航海日誌、船籍證書其他船舶ノ國籍ヲ表示スル文書ヲ検査シ封鎖ノ警告ガ其書類中ニ記入セラレザルヤ否ヤヲ注意スベシ

第四款 著明ナル事實ニ基ク認定告知

第百十七條 封鎖ノ存在ハ封鎖線内ニ在ル船舶ニ對シテ明ニ知渡リタルモノト推定ス故ニ出港

封鎖ヲ破ル場合ニ於テハ別ニ告知ヲナシタル證據ヲ舉グルノ必要ナシ又或場合ニ於テハ封鎖線内ニ在ラザル船舶ニ對シテモ封鎖ノ事實ガ明ニ知渡ルコトアリ此ノ場合ニ當ルヤ否ヤハ各艦長ガ左ニ掲グル總テノ事情ヲ斟酌シテ自ラ判斷セザルベカラズ

一 封鎖其ノモノニ關シテハ封鎖ノ成立セル時期ノ長短、警告シ又ハ捕獲セル船舶ノ數

二 封鎖セル場所ニ關シテハ其位地、其重要ノ程度、其商業上ノ關係アル地トノ交通ノ難易

三 抑留セル船舶ニ關シテハ其ノ發航港、發航時日、其航路、巡洋艦若クハ商船ヨリ又ハ中

間港ニ於テ通知ヲ受ケ得ベキコト

第五款 外交上ノ告示ニ依ル認定告知

第一百八條 封鎖成立ノ告示ガ船舶所屬國ノ相當官廳ニ送達セラレ且ツ該官廳ガ自國人民ニ對シテ之ヲ告達スルニ十分ノ時間ヲ經過セル場合ニ於テハ現ニ其ノ告達アリタルト否トヲ問ハズ船舶ハ封鎖ノ告知ヲ受領セルモノト推定ス

第一百九條 艦隊司令官ハ事實上ノ封鎖ヲ施行シタル後外國ニ對シテ封鎖ノ有効ナル告知ヲナス爲相當ノ手續ヲ行フベシ

第二十條 外國ニ對スル封鎖ノ告示トハ英本國官憲又ハ外國駐在英國公使ノ手ヲ經テ外國ニ對シテ爲セル公ノ封鎖成立ノ宣言ヲ謂フ

第二十一條 現ニ封鎖セル範圍以外ノ海岸ヲ封鎖ノ下ニ在リト宣言シ又ハ將ニ封鎖ヲ施行セんとスト宣言スル告示ハ一切之ヲ無効トス

第二十二條 正當ニ封鎖ノ告示ヲナス爲メ艦隊司令官ハ左ノ事項ヲ記セル宣言ヲナスベシ
一 封鎖ノ下ニ在ル港灣又ハ海岸線
二 封鎖ヲ施行シタル時日

宣言ハ書式第一ニ依リ之ヲ爲スベシ

第二十三條 艦隊司令官ハ其ノ宣言ノ謄本ヲ海軍本部秘書官ニ送付スベシ

第二十四條 艦隊司令官ハ此ノ謄本ニ告示依頼書ヲ添ヘ之ヲ封鎖地附近ノ外國ニ駐劄スル英國公使ニ送附スベシ該依頼書ハ書式第二ニ依ル

第二十五條 艦隊司令官ハ又封鎖地附近ノ中立港ニ駐在スル中立國及交戰國領事又便宜アルトキハ休戰旗ヲ掲ゲテ封鎖港内ノ官憲ニモ其ノ宣言ヲ通知スベシ且封鎖ノ事實ヲ一般ニ周知セシムル爲メ十分ナル手段ヲ盡スベシ

第二十六條 封鎖ハ告知ノ有無ニ拘ラズ其ノ有効トナレル時ヨリ法律上開始スルモノトス

第六款 船長ガ告知ヲ知ザル場合

第二十七條 艦長ハ船長ガ現實又ハ認定告知ヲ受ケザルコトヲ發見スルトキハ其ノ航船日誌及其ノ國籍ヲ表明スル書類ニ警告ヲ記入シ其ノ歸航ヲ命スベシ警告ハ書式第三ニ依ル

第二十八條 船長ガ警告ヲ受ケタルトキ歸航セズシテ其ノ原針路ヲ維持シ又ハ強ヒテ其ノ附近ニ漂泊スルトキハ艦長ハ之ヲ逮捕スベシ

第七款 封鎖ノ侵破

第二十九條 封鎖ノ侵破ハ出港ヲ禁ズル出港鎖封又ハ入港ヲ禁ズル入港鎖封ノ兩場合ニ各成立スルモノトス

第八款 出港鎖封ノ侵破

第三十條 貨物ヲ搭載シ又ハ之ヲ搭載セズシテ封鎖港ヲ脱出シ又ハ脱出セント企ツル船舶ハ出港鎖封ヲ侵破シタルモノトス但シ左ニ掲グル船舶ハ此限ニアラズ
一 封鎖ガ開始セラレタルトキニ封鎖港内ニ在リタル船舶ニシテ載貨ナキモノ

二 船長ガ封鎖ノ事實ヲ知ラズ又ハ封鎖艦隊ヨリ入港ノ明許ヲ受ケテ封鎖中入港シタル船舶ニシテ載貨ナキモノ

三 載貨ヲ有スル船舶ニシテ封鎖開始前既ニ其ノ載貨ノ全部ヲ搭載シタルモノ但シ封鎖開始前其ノ全部ヲ搭載タシルトキハ爾後航海上ノ都合ニ依リ該載貨ノ一部ヲ貨船ニ移載シ再ビ本船ニ搭載スル爲メ封鎖港外ニ積出スモ之ヲ封鎖違反ト看做サズ

前三號ノ場合ニ於テハ艦長ハ其ノ船舶ノ船内日誌及其國籍ヲ表明スル書類ニ臨檢シタルコト并ニ逮捕スベカラズト決シタル理由ノ覺書ヲ記入シ其ノ進航ヲ許スベシ

第三十一條 船舶ニシテ封鎖線内ヨリ脱出シタルニアラザルモ封鎖線外ニ在リテ封鎖線内ヨリ來レル貨船又ハ他ノ船舶ヨリ貨物ヲ轉載シタルトキハ其ノ船舶ハ出港封鎖ヲ侵破セルモノトス但シ其ノ載貨ガ封鎖線ヲ通過セズシテ陸上輸送ニ依リ又ハ貨船ヲ以テスル運河航行ニ依リテ封鎖港ヨリ運送セラレタルトキハ此限ニアラズ

第三十二條 甲船出港封鎖ヲ侵破シテ貨物ヲ封鎖港ヨリ自由港ニ輸送陸揚シ後乙船善意ノ輸出手續ニ依リ該貨物ヲ搭載スルモ該乙船ハ其ノ貨物搭載ノ爲ニ出港封鎖ヲ侵破シタルモノニアラズ而シテ該乙船ハ自由ナルヲ以テ載貨モ亦自由ナリトス

第九款 入港封鎖ノ侵破

第三十三條 現實又ハ認定ノ封鎖告知ヲ受ケ左ノ諸號ノ一ニ該當スル船舶ハ其ノ載貨ヲ有ス

ルト否トヲ問ハズ入港封鎖ヲ侵破シタルモノトス

一 封鎖艦隊ヲ通過シテ封鎖港内ニ入り又ハ入ラント企テタルコト

二 封鎖艦隊ヲ通過スルノ意思ナキモノ之ニ接到シ又ハ封鎖艦隊ニ發見若クハ停止セラレズシテ封鎖港内ニ潜入シ若クハ敵國砲臺ノ掩護ノ下ニ入り得ベキ地位ニ投錨シ若クハ繫留スルコト

三 船舶ハ封鎖港内ニ航入スルコトヲ企テザルモ載貨ヲ船舶ニ移載シ依リテ以テ封鎖線ヲ通過シ該載貨ヲ封鎖港内ニ運送スルコト但シ載貨ハ封鎖港ニ到達スベキモノナルモ封鎖セラレザル隣港ニ之ヲ陸揚シ陸上輸送若クハ運河航行ニ依リ封鎖線ヲ過ギズシテ封鎖港ニ運送セラル、トキハ之ヲ封鎖侵破ト云フベカラズ

四 船舶ニシテ其ノ船内書類ニ示セル到達港ノ如何ニ關セズ封鎖港附近ニ於テ發見セラレ且ツ該港ニ向フモノト認定セラレタルコト但シ此ノ場合ニ於テハ捕獲者ハ第一審ニ於テハ船舶ヲ處罰スル爲メ該船舶ト遭遇シタル場所又ハ該船舶ノ取りタル針路ニ關スル證據ヲ提出スルコトヲ得ズ是等ノ證據ハ第一審ニ於テハ船内書類又ハ其ノ船長及乗組員ノ陳述ニ依リ之ヲ得ベキモノトス

五 告示ニ依ル封鎖ノ場合ニ於テハ其ノ臨檢ヲ受ケタル當時封鎖港ヨリ甚ダ遠隔ナル地點ニ在ルトキト雖モ告示アリタル後封鎖港ヲ到達港トシテ發航シタルコト但シ左ニ掲グル場合

ヲ除ク

レガ中其ノ人府海軍兵民ニ對シテ告示ヲ公布スルニ必要ナル時日ヲ經過セザルコト

ロ 船舶ノ發航シタル港ガ戰場ヲ距ルコト甚ダ遠キガ爲ニ封鎖解除ノ場合ヲ僥倖セントシ若シ解除ナキトキハ其ノ到達港ヲ變ズルノ意思ヲ以テ封鎖港ヲ到達港トシテ發航シタル船長ノ行爲ヲ恕スルニ足ルベキトキ

(以上ノ二場合ニ於テハ艦長ハ封鎖ノ告知ヲ其ノ船内日誌ニ記入シタル後該船舶ヲ送還スベシ)

ハ 船長ハ初メ封鎖港ヲ到達港トシテ發航スルモ後ニ全ク其ノ意思ヲ拋棄シタルトキ但シ單ニ天候ノ不良ノ爲ニ又ハ交戰國巡洋艦ヲ避クル爲ニ其ノ針路ヲ變更シタルトキハ此限ニアラズ

第二百二十四條 船舶ニシテ其ノ表面ノ到達港ハ中立港若クハ封鎖セラレザル敵港ナルモ實際ハ一旦其地ニ寄港シタル後封鎖港ニ赴クモノアリ此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ到達港ハ其ノ發航ノ時ヨリ敵港ナリト看做ス

第十款 封鎖侵破ニ對スル辯解

第二百二十五條 封鎖侵破ニ對スル正當ノ辯解ハ左ノ如シ

一 絶對ノ必要例令ハ天候ノ不良又ハ糧食ノ缺乏ノ爲ニ入港ノ必要ヲ生ジ且ツ當時入港シ得

ベキ港ハ封鎖港ニ限レル場合

二 船長ノ誤報ヲ受ケタルコト但シ誤報シタル人ハ英國巡洋艦ノ士官ニシテ且ツ其ノ誤報ノ點ハ事實ニ關スル場合ニ限ル例令ハ船長ガ封鎖ノ尙繼續スル場合ニ既ニ解除セラレタルコト又ハ封鎖地ノ範圍ノ實際ニ於ケルヨリモ狭ナルコトヲ該士官ヨリ誤報セラレタル場合ノ如シ然レドモ船長ノ該士官ヨリ受ケタル誤報ガ單ニ封鎖ノ法律上ノ効果ニ關スル場合假令ハ船舶ガ逮捕セラル、前ニハ警告ヲ受クベキ權利アルコト又ハ貨物ヲ搭載セザルトキハ入港スルヲ得ルコトヲ該士官ヨリ聞キタル場合ハ船長ハ宥恕ヲ受クルノ限ニアラズ又私人ヨリ誤報ヲ受ケタルトキハ其ノ如何ナル點ニ關スルモノナルヲ問ハズ凡テ辯解ノ理由トナラズ

第二百三十六條 前條以外ノ辯解ハ凡テ之ヲ認ムルヲ要セズ例令ハ

一 船長ハ單ニ封鎖ノ解除セラレタルヤ否ヤヲ確知シ若シ其ノ解除ナキトキハ歸航スルノ意思ヲ以テ封鎖地ニ接到セルコト

二 船長ノ封鎖港ニ接到スル目的ハ貨物ヲ輸出入セントスル商業的ノモノニアラズシテ開戰前ニ水先案内人若クハ糧食ヲ得又ハ其地ニ蓄藏セル物品ヲ船積セントスルニアルコト

三 船長ノ熱醉

四 海岸ノ不案内

五 羅針盤ノ紛失

六 他港ニ於テ支拂フベキ高額ノ稅ヲ免レムトスルノ希望

第十一款 船舶ノ責任ノ期間

第三百二十七條 封鎖ヲ破リタル船舶ハ封鎖ノ繼續中ハ封鎖港ヨリ其ノ到達港ニ至ル航海ノ結了マデ其責ニ任ズベキモノトス其ノ到達港ノ如何ハ巡洋艦長凡テノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ決定スベキモノトス普通到達港トハ其ノ貨物ヲ積載若ハ卸下スル爲又ハ天候ノ不良ノ爲中間港ニ寄港スル場合ニ於テモ其ノ備船契約書中該船舶ノ到達スベキ港トシテ記載セラレタル港ヲ云フ

第十二款 封鎖侵破ニ對スル罰則

第三百二十八條 封鎖侵破ニ對スル罰トシテ船舶并ニ多クノ場合ニ其ノ載貨ヲモ沒收ス

第十三款 封鎖ノ解除

第三百二十九條 封鎖ガ或原因ニ依リ解除セラレタルトキハ艦隊司令官ハ其ノ事實ヲ周知セシムルニ必要ナル手段ヲ盡スベシ

第三百四十條 封鎖ノ解除アリタル時ハ直ニ船舶ハ封鎖施行中ニ犯セル封鎖侵破ノ爲逮捕セラルルノ責ヲ免ル但シ既ニ逮捕セラレタルモノハ之ヲ免ズルノ限ニアラズ

第九章 敵ノ禁ズル商業ニ從事スル中立船舶

第四百一十一條 千七百五十六年ノ戰時規則ニ依リ今世紀ノ初メマデハ中立船舶ニシテ平時敵國

船舶以外ノ船舶ニ禁ゼラレタル貿易ニ從事スルモノハ之ヲ逮捕スルヲ得ルコト、ナレリ殖民地貿易及沿岸貿易ハ一時習慣上外國船舶ノ之ニ從事スルヲ禁ゼシモ現今ハ一般ニ各國船舶ニ之ヲ解放シ爲メニ該規則ハ殆ド其ノ實用ヲ失フニ至レリ該規則ハ又中立旗章ハ戰時禁制品ヲ除クノ外敵貨ヲ庇保スルコトヲ規定スル千八百五十六年巴里宣言第二款ニ依リテ其ノ適用ヲ制限セラル執レニシテモ英國巡洋艦長ハ特別ノ訓令ナケレバ該規則ヲ執行スベカラズ

第十章 敵貨ノ運送ニ從事スル中立船舶

第四百十二條 千八百五十四年ニ於ケル露西亞トノ戰爭前ハ英國ノ慣例ハ敵貨ヲ搭載スル中立船舶ヲ捕獲スルコトヲ得タリ然レドモ此ノ權利ハ該戰爭中ニ於テ一ノ疑問トナリ且ツ「中立旗章ハ戰時禁制品ヲ除クノ外敵貨ヲ庇保ス」トノ千八百五十六年巴里宣言第二款ニ依リ廢棄セラレタリ然レドモ此ノ宣言ハ之ニ加盟シ又ハ加盟スベキ諸國間ノ外拘束力ヲ有セザルコトヲ記憶スベシ而シテ文明國ノ多數ハ此ノ宣言ニ加盟シタルモ合衆國西班牙墨西哥ヴェネヂエラ、ポリウキヤハ未ダ之ニ加入セズ故ニ戰時ニ於テ上記未加盟國ノ一ガ中立國ナルトキハ該國船舶ハ權利トシテハ宣言ニ規定セル利益ヲ要求スルヲ得ズ又未加盟國ノ一ガ交戰國ナルトキハ該宣言ヲ適用シテ中立船ニ搭載セル該國臣民所有貨物ノ特典ヲ主張スルヲ得ズ然レドモ艦長ハ特別ノ訓令ナキトキハ如何ナル場合ニ於テモ戰時禁制品ニアラザル敵貨ヲ運送スル中立船ヲ捕獲スルコトヲ得ズ

「第十一章 英國若クハ同盟國ノ貨物ヲ運送スル中立船舶」

第四百三十三條 敵ト貿易スル英國若クハ同盟國臣民ノ所有ニ屬スル物品ヲ運送スル中立船舶ハ明許ヲ得テ其ノ貿易ニ從事スルトキノ外逮捕セラルベシ然レドモ斯ル貿易ハクリミヤ戰爭中明ニ許可セラレタリ而シテ艦長ハ特別ノ訓令ナキトキハ如何ナル場合ニ於テモ戰時禁制品ニアラザル英國若クハ同盟國貨物ノ運送ニ從事スル中立船舶ヲ逮捕スルコトヲ得ズ

第十二章 一切ノ船舶ニ適用スベキ逮捕ノ原因

第四百四十四條 臨檢及搜索ヲ行フ間ニ發生シ又ハ發見スル或種ノ事情ハ其ノ國籍及其ノ從事スル商業ノ如何ニ關セズ一切ノ船舶ヲシテ逮捕セラル、ノ責ヲ負ハシム即チ該船舶若クハ其中立護送艦ノ抵抗、敵ノ護送ヲ受ケ航海スルコト及書類ノ缺欠是レナリ

第十三章 抵抗及護送

第一款 抵抗

第四百四十五條 艦長ハ臨檢若クハ搜索ニ強力ヲ以テ抵抗スル一切ノ船舶ヲ逮捕スルベシ
第四百四十六條 單ニ逃亡セント企ツルノミニテハ逮捕ノ原因トナラズ但シ此ノ場合ニ於テハ艦長ハ強力ヲ以テ其ノ逃亡ヲ妨グントシ爲ニ該船舶及其乗組員ニ對シテ加ヘタル損害ニ付テハ其責ニ任ゼザルモノトス

第四百四十七條 中立船舶長ノ抵抗ニ對スル罰トシテ該船舶及中立貨物ヲ沒收ス敵ノ私有船舶長

ノ抵抗ハ爲メニ中立貨物ノ沒收ヲ來ツズ但シ敵ノ武装船上ニ搭載スル中立貨物ハ此限ニアラズ

第二款 中立護送艦ノ抵抗

第四百四十八條 中立護送艦ガ其ノ護送船舶ニ對スル適法ノ臨檢及搜索ニ抵抗スルトキハ該護送艦及其護送ノ下ニ在ル一切ノ船舶ヲ逮捕スルコトヲ得

第四百四十九條 中立護送艦ノ下ニアル船舶ヲ臨檢及搜索スルニ當リテ該船長ガ搜索ニ對シテ武力抵抗ヲナスベキ訓令ヲ受ケテ發航シタルコトヲ發見シタルトキハ該船舶ハ之ヲ逮捕スベシ

第三款 敵ノ護送艦

第四百五十條 敵ノ護送艦ノ下ニ在ル船舶ハ其ノ事實ノミヲ以テ逮捕セラル、ノ責ヲ負フ

第十四章 船内書類

第四百五十一條 船舶ノ書類ヲ検査スル目的ハ該船舶及載貨ニ關スル詳細ヲ知り併セテ該船舶ガ正當ニ該船書類ヲ具備スルヤ否ヤヲ確知スルニアリ

第四百五十二條 艦長ハ船内書類ヲ備ヘザル一切ノ船舶ヲ逮捕スベシ

第四百五十三條 艦長ハ虛偽ノ船内書類ヲ備フル一切ノ船舶ヲ逮捕スベシ

第四百五十四條 艦長ハ其ノ船長若クハ乗組員ガ書類ヲ毀損スルトキ即チ英國若クハ同盟國巡洋艦艦長ヲ欺罔センガ爲メ其ノ書類ヲ故意ニ破棄シ若クハ之ヲ船外ニ投棄スルトキハ該船舶ヲ

逮捕スルベシ

第五十五條 書類毀損ノ場合ニ於テ毀損セラレタル書類ハ該船舶若クハ載貨ニ關セザル私書ナリトノ船長ノ辯解ハ之ヲ受理スベカラズ

第五十六條 艦長ハ船内書類ガ左ノ場合ノ一ニ當ルトキハ該船舶ヲ拿捕スルコトヲ得

- 一 船内ニ備フベキ最モ必要ナル書類ヲ提出セザルコト
- 二 船内ニ備ヘタル書類ガ不整頓ナルトキ
- 三 船内ニ備ヘタル書類ガ甲乙互ニ若クハ船長ノ陳述ト齟齬スルトキ、船長ハ船舶所有者ノ氏名及船内ノ書類ノ總目錄ヲ知レルモノト推定ス

第五十七條 船舶逮捕ノ正當ノ原因トナルベキ船内書類ノ缺損不整頓若クハ齟齬ノ程度ニ關シテハ一定ノ規定ヲ設クルヲ得ズ故ニ艦長ハ各場合ノ情況ニ依リ自己ノ判斷ヲ以テ之ヲ決定スルノ外ナシ時トシテハ最重要ナル船内書類ノ缺損若クハ整頓モ正當ナル原因ニ基クコトアルヲ以テ船長ニハ十分ニ其説明ヲナスノ機會ヲ與フベシ之ニ反シテ重要ナラザル書類ノ缺損モ其ノ偽造、隱匿、毀損ニ出デタルノ疑ヲ起スベキ理由アル場合又ハ船舶若クハ載貨ニ關シテ合法ナル商業ニ從事セザルコトヲ疑ハシムベキ事情アル場合ニハ重要ナル理由トナルコトアリ

第五十八條 巡洋艦艦長ガ船舶ノ合法ノ商業ニ從事スルコトヲ認ムル場合ニ於テハ單ニ其ノ

船内書類ノ缺損不整頓若クハ齟齬ノ事實ノミヲ以テ逮捕ノ理由トスベカラズ

第一款 船内書類

第五十九條 商船ハ凡テ其ノ所屬國官憲ノ發スル官ノ證明書ヲ備フベキモノナリ商船登録簿ヲ有スル國家ニ屬スル船舶ノ官ノ證明書ハ其ノ船籍證書トス其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ形或ハ一定セズ通航券航海券等ノ種々ノ名稱ヲ有ス

第六十條 此ノ官ノ證明書ハ凡テノ場合ニ於テ該船舶ノ船籍ニ關シテ船長ノ不利益ナル場合ニハ確定證據トナリ船長ノ利益ナル場合ニハ然ラズ故ニ該船ノ眞ノ船籍ガ官ノ證明書ニ示セルモノト異ル場合ニ於テハ船長ハ其ノ眞ノ船籍ニ依リ受クベキ利益ヲ主張スルヲ得ズシテ其ノ不利益ナル結果ヲ甘受セザルベカラズ

第六十一條 官ノ證明書ヲ所有セザルコトハ嫌疑ノ重大ナル原因タルベシ故ニ其ノ辯解ナキトキハ正當ニ該船舶ヲ逮捕スルコトヲ得

第六十二條 船籍證書トハ船籍港ノ登記官吏ノ署名セル文書ニシテ通常船名、船籍港ノ名、噸數、船長ノ氏名、船舶ノ取得方法ニ關スル詳細及其ノ登簿船主ノ氏名屬籍等ヲ詳記ス

第六十三條 通航券トハ主權者若クハ國家ガ船舶ノ人民若クハ臣民ノ所有ニ屬スルヲ以テ其ノ乗組員、乘客、物品及商品ヲ搭載シ障礙差押若クハ損害ヲ破ルコトナク自由ニ通航セシムルコトヲ要求スルモノニシテ通常船長ノ氏名住所并ニ船舶ノ名稱其他ノ件名及到達港ヲ記載ス

第六十四條 航海券シ、レツキス、シ、ア、フ、フトハ船舶裝裝港ノ官憲ノ發スルモノニシテ其ノ所屬國ノ國旗及通航券ヲ所持シテ航海スルノ權利ヲ該船長ニ與フル證書ナリ通常載貨ノ性質數量其ノ所有者及到達港ヲ記載ス

第六十五條 備船契約書チャーターパーティトハ船舶ノ全部若クハ一部ノ賃借ヲ約スル契約書ナリ船舶ヲ雇備スル人ヲ稱シテ備船者ト云フ該契約書ハ船主若クハ船長ト備船者トノ間ニ締結スルモノニシテ通常船長ノ氏名、船舶ノ名稱、及件名、契約當時ノ船舶ノ碇泊港、備船者ノ氏名及住所、搭載スベキ貨物ノ性質、荷積港、陸揚港及運賃ヲ記載ス

備船契約書ハ常ニ雇備セラレタル船舶内ニ備置クベキモノトス

第六十六條 航海日誌フ、ヒ、シ、ヤ、ル、ロ、ク、ア、ツ、クトハ船長ガ船舶所屬國ノ國法ニ規定スル形式ニ從テ作成スベキ日誌ヲ云フ

第六十七條 船内日誌シ、フ、ス、ロ、グトハ船長ガ船主ニ報告スル爲ニ作成スル日誌ヲ云フ

第六十八條 造船者ノ契約書ビル、ダ、イ、ス、コ、ン、ツ、ラ、ク、トトハ其ノ製造以來其ノ持主ヲ變ゼザル船舶内ニ備置クベキモノナリ是レ必ズシモ必要ノ文書ニアラザルモ通航券、航海券又ハ船籍證書ヲ所有セザル場合ニ其ノ船籍ヲ證明スルノ用ニ供スルコトアリ

第六十九條 賣渡證書ビル、ト、ラ、フ、セ、ルトハ船舶所有權ヲ買主ニ移轉シタルコトヲ證明スル文書ナリ故ニ船舶ノ賣買ガ戰爭中若クハ將ニ開戦セントスル場合ニ締結セラレタルヤ否ヤヲ糾問シ該船ヲ敵船

トシテ又ハ敵ト通商スル英國若クハ同盟國船トシテ逮捕スルコトヲ得ルノ嫌疑ナキヤ否ヤヲ判定セザルベカラズ

第七十條 船荷證券ビル、ト、ラ、フ、レ、イ、チ、ン、クハ通常各貨物ニ付テ之ヲ作成ス船舶内ニアル船荷證券ハ荷積ノ際船長ヨリ荷主ニ與フル證書ノ副本ナリ該證書ニハ荷主ノ氏名及荷積ノ時日及場所、船名及到達地、貨物ノ性質、數量及到達地并ニ其ノ運賃ヲ記載ス

第七十一條 送狀イン、フ、ライ、スハ常ニ貨物ヲ伴フモノナリ送狀ニハ物品ノ各相ノ詳細及代價、運賃關稅其他ノ負擔費用并ニ荷主及代辯人ノ氏名住所ヲ詳記ス

第七十二條 載貨目錄マ、ニ、フ、ユ、ス、トトハ船舶ノ載貨ノ目錄ニシテ各相ノ記號及番號、荷主及代辯人ノ氏名、各相内ニアル物品ノ數量ノ内譯書(例令バラム酒、砂糖等ノ如キ)并ニ船荷證券ニ照合スル運賃ノ計算ヲ記入ス載貨目錄ハ通常稅關ニ於テ船舶出港ヲ取扱フ船舶仲立人及船長ノ署名アルベキモノトス

第七十三條 出港證書クリ、ヤ、ラ、ン、ストハ船舶ノ最後ニ發航シタル港ノ稅關官吏ノ發スル證書ニシテ稅關ノ支拂ハレタルコトヲ證シ且ツ載貨及其到達地ヲ記載ス

第七十四條 船員名簿ア、ス、キ、ロ、ルトハ船舶乘組員ノ氏名、年齡、職務、住所及出生地ヲ記載ス

第七十五條 海員雇傭契約書シ、フ、ヒ、シ、ヤ、ル、ア、イ、チ、ク、ルトハ海員雇傭ノ契約書ナリ乘組ノ各海員之ニ署名シ詳細ニ其ノ契約セル航海區域及被傭期限ヲ記入シタルモノナリ

第七十六條 ヘルツ、フス、ヘブス 健康證書トハ船舶ガ全ク傳染病ノ流行セザル地ヲ發航シ且ツ發航當時其ノ乗組員中傳染病ニ罹リタル者ナキコトヲ證明スルモノナリ

第七十七條 船内書類ハ其ノ船籍ニ依リテ異レリ左表ハ主要ナル外國ノ所屬船舶ガ通常備フル船内書類ヲ示ス

第七十八條 奧地利、匈牙利

奧地利

船籍ヲ證スルモノ

船籍證書 サイチフヒケイト、ラフス、レジストリ

假船籍證書

海員名簿 マスター、ロール

航海日誌 フレイヤル、ログ、ブック

船内日誌 シッフ、ブク、ログ、ブック

他ノ必要ナル書類

載貨目録 マニフ、エスト

船荷證券 ビルス、オブ、レ、チンダ

備船契約(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

匈牙利

船籍證書

海員名簿 マスター、ロール

航海日誌

載貨目録

船内日誌

船荷證券 チヤイ、グ、バ、イ、チ

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第七十九條 白耳義

航海券 シ、レ、ッ、ター 四箇月間有効ナリ

海員名簿 リス、ト、フ、フ、セ、ク、リ、ユ

船籍證書(Registre de Certificat de Jaugeage)

航泊日誌 ログ、ブック

載貨目録

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

所有權證書(Acte de Propriété)

第八十條 プラジル

船籍證書
特別運航券

國外ニ於テブラジル人ノ購求セル船舶ニ對シテ其地ニ駐在セルブラジル公使館
又ハ領事館ヨリ發スル假國籍證書ナリ

通航券

海員名簿

載貨目錄

船荷證券

航海日誌(?)

第百八十一條 丁抹

船籍證書

假船籍證書(ダニウシユ、アンチール政府、アイストラン
ド知事及フアロー島ノ地方官ノ發スルモノ)

同(外國ニ駐在セル丁抹領事ノ發スルモノ)

海員名簿

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

航海日誌

以上ノ書類ノ外丁抹船ハ法律ノ規定ニ依リ國籍ノ記章 D. E. (Dansk Eigendom) 即チ丁抹財產、噸數ヲ示ス數字及信號文字ヲ「メーンビーム」又ハ船舶ノ他ノ識別スルヲ得ベキ部分ニ明ニ標記セザルベカラズ

第百八十二條 佛蘭西

國籍證書(Act de Francisation)

又ハ 假國籍證書

出航許可書 (Congé)

海員名簿

屬具目錄

航海日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

保證金免除證 (Acquits a Caution) ハ只佛國港間ヲ航海スル佛國船ノミ之ヲ備フルモノトス

第八十三條 獨逸

國籍證書 (Schiffs Certificate)

假國籍證書 (Placepatent)

甲板ヲ有スル汽船ニ對スル 測度證書

甲板ヲ有スル帆船ニ對スル測度證書

汽船及帆船ニ對スル假測度證書

海員名簿

航泊日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書 (船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第八十四條 英吉利

登錄證書

假證書 (外國ニテ購求セル船舶ニ對シテ外國ニ駐在スル領事ノ發スルモノ)

航泊日誌

船內日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書 (船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第八十五條 希臘

國籍證書

通航券

屬具目錄

噸數證書

海員名簿、契約書ト共ニ

船舶ノ受ケタル臨檢ノ記事

航泊日誌

健康證書

沿岸航海特許書、五噸以下ノ船舶ニ對シテ
Livre des emprunts à la grosse.

第八十六條 和蘭

航海券

假出航特許書

臨時出航特許書

測度證書

所有權證書

海員名簿

航泊日誌

載貨目錄

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

船荷證券

測度證書ハ内部及外部ノ測度ニ對シテ之ヲ與フ

第百八十七條 伊太利

國籍證書

海員名簿

測度證書

航泊日誌

船内日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第百八十八條 葡萄牙

所有權證書

船舶通航券

海員名簿

航泊日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第百八十九條 諾威

國籍證書

假國籍證書

假國籍證書ハ外國港ニ在ル瑞典諾威領事ガ其地ニ於テ諾威人ノ購求セル船舶ヲ

直ニ諾威港ニ引取ルコトヲ得ル爲ニ之ヲ與フルモノナリ(領事ハ本國政府ニ届出デタル上一層長期間有効ナル證書ヲ出スコトヲ得)

船籍證書(船舶ガ諾威ニテ製造セラレタル場合)

噸數證書

乘員名簿

航泊日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第九十條 露西亞及芬蘭

露西亞

船舶特許狀又ハ命令書

噸數證書

假噸數證書

通航券

載貨目錄

海員名簿又ハ契約書

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

芬蘭

噸數證書

製造證書

海員名簿又ハ契約書

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

航泊日誌(?)

第九十一條 西班牙

船舶通航券

船籍證書

海員雇備契約書

航泊日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書(船舶ガ雇備セラレタルトキ)

第九十二條 瑞典

國籍證書

假證書

國籍證書

製造證書 一文書トナリ居レリ

測度證書

海員名簿

船內日誌

載貨目錄

船荷證券

備船契約書(船舶ガ履備セラレタルトキ)

通航券、稅關長又ハ其ノ官吏ノ附與スルモノ

第九十三條 土耳其

一 日誌又ハ航海日誌

二 航海特許書、其附屬書共

三 海員ニ對スル特許狀、其附屬書共

四 載貨目錄其附屬書及運賃ノ受取書式

五 コンスタンチノールニテ支拂フベキ港稅ノ受取書式

六 港長ガ載量五噸ヲ超エザル船舶ニ與ヘタル特許狀

七 燈臺費ノ受取書式

八 黑海ノ入口ニ設置セル救助船事務ニ支拂ヒタル費用ノ受取書式

九 健康證書

十 衛生誌ニ對スル受取書式

第九十四條 合衆國

船籍證書

又ハ

假所有權證書(合衆國領事ガ外國港ニ於テ船舶ヲ購入セル合衆國人民ニ與フルモ

ノ)

航海券(臨時)

海員雇傭契約書

海員名簿

寄港及通商ノ許可(合衆國外ノ地ニ寄航セントスル特許漁船ニ附與スルモノ)

載貨目錄

船荷證券

航泊日誌

備船契約書(船舶ガ雇傭セラレタルトキ)

第三編 臨檢、搜索、逮捕ノ際及其後ニ踐ムベキ手續

第十五章 臨檢

第一款 共同捕獲ノ際ニ於ケル注意

第百九十五條 艦長ハ適法ナル戰利品タルノ嫌疑アル船舶ヲ發見スルトキハ他日自己若クハ他ノ捕獲者ヨリ共同捕獲ノ要求ヲ申立ツルコトアルベキヲ思ヒ士官ニ命ジテ絶エズ左ニ掲グル細目ヲ觀察シ之ヲ錄取セシムベシ

- 一 船舶ヲ發見セシトキ「始メテ該船舶ヲ發見シタル時及處、當時本艦ニ對スル距離及方位并ニ該船ノ取レル針路、他ノ英國若ハ同盟國軍艦ヲ發見セザリシヤ若シ之ヲ發見シタルトキハ該船舶ニ對スル同軍艦ノ距離方位并同軍艦ノ針路
- 二 追躡中」船舶ノ針路ニ變更ナカリシヤ否ヤ、他ノ英國又ハ同盟國軍艦ヲ發見セザリシヤ、若シ之ヲ發見シタルトキハ其時及處、該船舶ニ對スル同軍艦ノ距離及方位、該軍艦ノ取レル針路并ニ該軍艦ガ共同シテ追躡セシヤ否ヤ若シ追躡セシトキハ其ノ範圍

三 捕獲ノ時」船舶ニ追及シタル時及處并ニ

- (イ) 艦長ガ實際ノ捕獲者タルトキハ當時他ノ英國又ハ同盟國軍艦ヲ發見セザリシヤ否ヤ、若シ之ヲ發見シタルトキハ該船舶ニ對スル同軍艦ノ距離及方位并ニ該軍艦ノ執レル針路
- (ロ) 他ノ英國若クハ同盟國巡洋艦ガ實際ノ捕獲者ナルトキハ本艦ノ該船舶ニ對スル距離及方位并ニ本艦ノ執レル針路

第二款 臨檢ヲ行フベキ手續

第百九十六條 艦長ハ臨檢ヲ行フニ際シ該船舶ニ對シテ無用ノ停留及其ノ固有針路ノ變更ヲ來サズ且ツ一般ニ成ルベク迷惑ヲ與ヘザルコトニ注意スベシ

第百九十七條 艦長ハ虛偽ノ國旗ヲ掲ゲテ追躡スルコトヲ得然レドモ此ノ場合ニ於テハ決シテ發砲スルヲ得ズ

第百九十八條 艦長ハ如何ナル場合ニ於テモ該船舶ニ對シテ其端舟ヲ差遣スベキコト又ハ該船内ノ人員若クハ書類ヲ自艦ニ送致スベキコトヲ要求スベカラズ

第百九十九條 艦長ハ風波天候ノ許ス限リハ先ヅ信號ヲ以テ其ノ臨檢ヲ行フベキ意思ヲ通ジ然ル後其嫌疑アル船舶ノ直前ニ自艦ヲ進メ之ニ面スル舷側ニ端舟ヲ卸スベシ

第二百條 艦長ハ風波天候ノ爲ニ前條ノ手續ヲ行フ能ハザルトキハ該船舶ニ停止ヲ命ズベシ之

ヲ命ズルニハ引續キテ空砲二發ヲ發シ尙必要ナルトキハ其ノ船首ニ向ケ實彈ヲ發シテ警告スベシ但シ艦長ガ虛偽ノ旗章ヲ掲ゲ又ハ全ク旗章ヲ掲ゲズシテ追躡スル場合ニ於テハ發砲前必ズ英國海軍旗及長旗ヲ掲グルコトヲ要ス

第二百一條 前條ノ警告ヲナスモ尙船舶ノ停止セザルトキハ艦長ハ其時ニ初メテ強制手段ヲ用ユルコトヲ得

第二百二條 船舶停止スルトキハ艦長ハ其ノ舷側ニ端舟ヲ派遣スベシ

第二百三條 臨檢士官ニハ便宜補助士官ヲ隨伴セシメ必要ノ場合ニ其ノ證明ヲナスコトヲ得ルタメ臨檢中ノ事件ヲ詳密ニ視察セシムベシ

第二百四條 臨檢士官及隨伴士官ハ制服ヲ着シ端舟ニハ英國海軍旗ヲ掲グベシ

第二百五條 第一ニ船舶内ニ入ルベキモノハ臨檢士官及隨伴士官ナリトス水兵ハ明ナル命令ナキ以上ハ端舟ヲ去ルベカラズ但シ必要ト認ムルトキハ之ニ乗船ヲ命ズルコトヲ得

第二百六條 臨檢士官ハ乗船後直ニ其ノ船舶ノ逮捕スベカラザルコトヲ認ムルトキハ速ニ該船舶ヲ去ルベシ

第二百七條 直ニ之ヲ認メザルトキハ臨檢士官ハ相當ノ禮讓ヲ盡シテ該船ノ船内書類ヲ閱覽セシコトヲ請フベシ之ヲ拒絕スルモ尙其ノ提出ヲ強要シ最後ノ場合ニ於テハ強制手段ヲ用キルコトヲ得但シ出來得ベキ限りハ兵力ノ使用ヲ避クルコトヲ要ス

第二百八條 臨檢士官ハ正確ニ其ノ船名ヲ知ルコトヲ力ムベシ管ニ船長及乗組員ノ口供ニ依ルニ止ラズシテ其ノ船内書類及其ノ船尾又ハ端舟ニ記載シアルモノヲ看取スルヲ要ス

第二百九條 臨檢士官船内書類ヲ検査シタル後該船ガ逮捕スベカラザルモノナルコトヲ認メタルトキハ速ニ該船ヲ去ルベシ

第二百十條 臨檢士官ハ船舶ヲ去ル前、臨檢ノ方法又ハ其他ノ點ニ付テ愁訴スベキモノナキヤ否ヤヲ該船長ニ質シ其ノ愁訴ヲナセルトキハ其ノ細目ヲ書面ニテ差出サシムベシ

第二百十一條 臨檢士官ハ該船舶ノ航泊日誌ニ臨檢ノ覺書ヲ記入スベシ其ノ覺書ハ臨檢ノ時及處、英國軍艦艦名、及艦長ノ氏名ヲ詳記シ之ニ自己ノ官等氏名ヲ自署スベシ

第二百十二條 前條ノ覺書ハ船内書類中其ノ船籍ヲ證スルモノト認ムベキ文書ニモ之ヲ記入スベシ

第二百十三條 臨檢士官ハ本艦ニ歸レバ直ニ其ノ事實ヲ忘却セザル間ニ其ノ執リシ手續ノ詳細ヲ錄取シ併セテ該船内ニ在ル船長若クハ其他ノ人ガ愁訴セシヤ否ヤ若シ愁訴アリシトキハ如何ナル點ニ關スルモノナリシカヲ詳記スベシ臨檢士官ハ船長ノ提出セル愁訴書ヲ艦長ニ差出シ艦長ハ周密ニ之ヲ審査シ若シ事情ノ許ストキハ其ノ補償ヲ與フルニ躊躇スベカラズ

第二百十四條 隨伴士官ハ其檢シタル事實ノ詳細ヲ錄取シ之ヲ艦長ニ差出スベシ

第二百十五條 艦長ハ本艦ノ臨檢簿及航泊日誌ニ必要ナル事項ヲ詳記セシメ臨檢ニ從事シタル

諸士官ヲシテ之ヲ署名セシムベシ

第二百十六條 艦長ハ捕獲事件ニ關スル詳細ノ報告書ニ自己ノ意見ヲ添エ最近ノ機會ヲ以テ之ヲ鎮守府ノ先任指揮官ニ提出シ又ハ其ノ副本ヲ海軍本部秘書官ニ送達スベシ

第十六章 搜索

第一款 執行手續

第二百十七條 臨檢士官ハ船内書類ヲ検査シタル後尙該船ノ逮捕スベカラザルモノナルコトヲ認メザルトキハ之ヲ搜索スルノ手續ヲ執ルベシ

第二百十八條 搜索ヲ執行スルニ至レバ端舟内ノ水兵ヲ乗船助力セシメ且ツ必要ナルトキハ本官ヨリ助力ヲ求ムルコトヲ得

第二百十九條 臨檢士官ハ船長及水夫ヲ尋問スルコトヲ得但シ一切ノ脅迫手段ヲ用キルコトヲ得ズ

第二百二十條 搜索中ハ船長又ハ其他ノ人員ハ其同意ナクシテ之ヲ下船セシムルコトヲ得ズ

第二百二十一條 載貨ニ混雜又ハ損害ヲ及ボサマルコトヲ注意スベシ

第二百二十二條 臨檢士官ハ搜索中全ク船舶ノ逮捕スベカラザルコトヲ認メタルトキハ直ニ搜索ヲ止メ成ルベク迅速丁寧ニ易置セル物品ヲ復舊シ遲滯ナク該船ニ舊針路ヲ續航スルコトヲ許スベシ

第二百二十三條 臨檢士官ハ船舶内ニ於テ既ニ捕獲セルモ未ダ審檢ヲ經ザル他ノ船舶ニ關スル船内書類ヲ發見スルトキハ其ノ書類ヲ沒收シ之ヲ該捕獲船舶ノ審檢ノ爲引致セラレタル港ニ送致スベシ

第二百二十四條 臨檢士官ハ其ノ船舶ヲ去ル前搜索ノ手續及其他ノ點ニ付テ愁訴スベキモノナキヤ否ヤヲ船長ニ質シ其ノ愁訴ヲナセルトキハ其ノ細目ヲ書面ニテ差出サシムベシ

第二百二十五條 臨檢士官ハ搜索ノ覺書ヲ該船舶ノ航泊日誌ニ記入スベシ其ノ覺書ハ搜索ノ時及場所、軍艦及艦長ノ氏名ヲ詳記シ之ニ官等氏名ヲ自署スベシ

第二百二十六條 前條ノ覺書ハ船内書類中其ノ船籍ヲ證明スルモノト認ムベキ文書ニモ之ヲ記入スベシ

第二百二十七條 臨檢士官ハ本艦ニ歸レバ直ニ其事實ヲ忘却セザル間ニ其ノ執リシ手續ノ詳細ヲ錄取シ又該船内ニアル船長若クハ其他ノ人ガ愁訴セシヤ否ヤ若シ愁訴アリシトキハ如何ナル點ニ關スルモノナルヤ否ヤヲ詳記スベシ臨檢士官ハ又船長ノ提出セル愁訴書ヲ艦長ニ差出シ艦長ハ周密ニ之ヲ審査シ若シ事情ノ許ストキハ其ノ補償ヲナスコトヲ躊躇スベカラズ

第二百二十八條 隨伴士官ハ其ノ檢分シタル事實ノ詳細ヲ錄取シ之ヲ艦長ニ差出スベシ

第二百二十九條 艦長ハ本艦ノ臨檢簿及航泊日誌ニ一切ノ必要ナル事項ヲ詳記セシメ臨檢ニ從事シタル諸士官ヲシテ之ニ署名セシムベシ

第二百三十條 艦長ハ該事件ニ關スル詳細ナル報告書ニ自己ノ意見ヲ添エ最近ノ機會ヲ以テ之ヲ鎮守府ノ先任官ニ又其ノ副本ヲ海軍本部秘書官ニ送達スベシ

第十七章 逮捕

第二百三十一條 艦長ハ臨檢搜索ノ上尙嫌疑アリト信ズルトキハ一應船長ヲシテ之ヲ説明セシメ而シテ尙該船舶逮捕ノ諒必原因タルベキ相當ノ證據アリト認メタルトキハ之ヲ逮捕スベシ

第一欸 逮捕ノ諒必原因タルベキ相當ノ證據

第二百三十二條 相當ノ證據トハ捕獲審檢所ニ於テ承認セラレベキ左ノ證據ヲ云フ即チ(一)船舶ノ性質、艤裝、載貨、及乗組員ノ如キ検査ニ依リテ知ルヲ得ベキ事實(二)船内ニ在ル書類及(三)船長及乗組員ノ證言是レナリ艦長ハ捕獲審檢所ニ於テ第一審ニハ捕獲者ガ自己ノ利益ノ爲ニ舉證スルヲ許サザルコトヲ記憶スベシ

第二百三十三條 船舶及載貨ノ情況ニシテ深ク之ヲ審査セバ船舶若クハ載貨又ハ其雙方或ハ載貨ノ一部ヲ適法ニ捕獲物トナスヲ得ト信ズルニ足ルベキ相當ノ理由アル場合ニ於テハ船舶逮捕ノ諒必原因タル證據アリトス而シテ其情況ガ該船長ノ過失ヨリ生ジ又ハ其力ノ範圍外ノモノナルカハ毫モ關スル所ニアラズ

第二百三十四條 捕獲審檢所ニ於テ船舶ノ諒必原因ナクシテ逮捕セラレタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ縱令艦長ハ故意ニ濫行ヲ爲サザル場合ニ於テモ總テノ費用及損害并ニ其逮捕

中船舶及載貨ニ及ボセル不可避ノ損害ヲ賠償スベキモノトス

第二百三十五條 之ニ反シテ捕獲審檢所ニ於テ逮捕ノ諒必原因アリトノ檢定ヲ下シタルトキハ其ノ船舶ヲ舊所有者ニ返還スベキ命令アリタル場合ニ於テモ艦長ハ適法ニ占有ヲナセルモノナルガ故ニ不慮ノ出來事ニ對シテ責任ナキモノトス

第二欸 再臨檢ノ場合ニ於ケル逮捕

第二百三十六條 船舶ニシテ一旦英國巡洋艦ノ爲ニ差押ヘラレタル後適法ノ捕獲物ニアラズトシテ解放セラル、コトアリ此ノ場合ニ於テ艦長該船舶ヲ臨檢スルニハ特別ノ注意ヲ施スベシ然レドモ其ノ逮捕ノ諒必原因アルコトヲ認ムルトキハ之ヲ逮捕スベシ

第三欸 逮捕ハ艦長單獨ノ行爲タリ

第二百三十七條 艦隊司令官ガ現ニ其地ニアリテ逮捕ニ協同シ又ハ明ニ逮捕ノ命ヲ下シタル場合ヲ除クノ外巡洋艦艦長ハ艦船ノ逮捕ニ付テハ獨リ其責ニ任ズルモノトス故ニ正式ノ船舶逮捕ノ權限ハ凡テ艦長ヨリ出ヅベシ若シ後任士官ニシテ其ノ艦長ト隔離セル際ニ船舶ニ遭遇シ臨檢搜索ノ後之ヲ逮捕スルコトヲ得ト信ズベキ理由アルトキハ其ノ艦長ト交通ヲ得ルマデ該船舶ヲ占有スベシ

第四欸 逮捕ノ手續

第二百三十八條 艦長ガ船舶ヲ逮捕スベキコトヲ決定シタルトキハ之ヲ船長ニ通知シ且ツ逮捕

ヲナスノ理由ヲ告知シタル上遲滯ナク士官一名及水兵若干名ヲ派遣シテ該船舶ヲ占有スベシ
若シ天候其他ノ事情ニ依リ其手續ヲ行フ能ハザルトキハ艦長ハ該船舶ヲシテ其ノ國旗ヲ卸シ
自己ノ命令ニ從ツテ航行セシムベシ

第五款 船内書類ノ押收

第二百三十九條 船舶占有ノ後艦長ノ第一ノ義務ハ該船舶ニ屬スル一切ノ書類即チ通常船内書
類ト稱スル船舶及載貨ノミニ關スル書類及其ノ名義ノ如何ニ關セズ船内ニ於テ提出若クハ發
見セララル、一切ノ書類ヲ押收スルニアリ

第二百四十條 船舶ノ書類ヲ押收シタルトキハ直ニ着手ノ順序ニ從ツテ之ヲ整理シ且ツ番號ヲ
付スベシ但シ文書ト封筒トハ之ヲ分離セザルヲ要ス、船舶ノ一切ノ書類ヲ押收スルノ必要ハ
明白ナリ何トナレバ適法ノ捕獲タルヤ否ヤヲ決スルハ第一審ニ於テハ全ク該捕獲物即チ船内
ニアル書類及重ナル乗組員ノ宣誓ノ上爲セル口供ニ依ルモノナレバナリ

第六款 供述書ニ依リ證明スベキ書類

第二百四十一條 船舶ノ書類ヲ整頓シ之ニ番號ヲ附シタルトキハ速ニ供述書ヲ作ルベシ該供述
書ハ別ニ海軍本部ヨリ訓令ナキトキハ書式第四ニ依リ成ルベク捕獲ノ際書類ヲ發見シ若クハ
之ヲ受取リタル者之ヲ作ルベシ供述書ハ フールスカップペーパー 紙ニ之ヲ淨書シ紙端ニ廣縁ヲ存シテ上記ノ
番號ヲ附セル書類ヲ之ニ添付スベシ

第二百四十二條 毀損若クハ艦外ニ投棄セラレタル書類アルトキハ別ニ其ノ供述書ヲ作ルベシ

該供述書ハ海軍省ノ訓令ナキトキハ書式第五ニ依リ成ルベク毀損若クハ投棄セラレタル事實
ヲ實見シ又ハ其ノ投棄セル書類ヲ拾收シタル者之ヲ作ルベシ其ノ拾收シタル書類ハ供述書調
製前之ヲ整頓シ番號ヲ附シテ供述書ニ之ヲ添付スベシ

第二百四十三條 船内ニ隱匿セル書類ヲ發見シタルトキハ又別ニ其ノ供述書ヲ作ルベシ該供述
書ハ海軍省ノ訓令ナキトキハ書式第六ニ依リ成ルベク該書類ヲ發見シタルモノ之ヲ作ルベシ
其ノ發見シタル書類ハ供述書調製前凡テ之ヲ整頓シ番號ヲ附シテ該供述書ニ添付スベシ

第二百四十四條 供述書ハ最近ノ機會ヲ以テ外國ニ駐在スル英國領事若クハ副領事又ハ捕獲事
件ニ關シテ宣誓式舉行ノ權限ヲ委任セラレタルモノ、面前ニ於テ其事實ナルコトヲ宣誓スベ
シ但シ海軍士官ハ其ノ權限ヲ與ヘラレタル場合ニ於テモ自己ノ關係セル事件ニ付テハ委任者
トシテ行動シ若クハ宣誓式ヲ舉行スルコトヲ得ズ

第七款 有價物ノ計算書

第二百四十五條 艦長ハ船内ノ金錢及有價物ノ計算書ヲ作製スベシ此ノ計算書ハ二通トシ正當
ニ之ヲ證明シテ其一ハ之ヲ船長ニ渡置クヲ便利ナリトス其證明書ハ海軍省ノ訓令ナキトキハ
書式第七ニ依ルベシ

第八款 船舶ノ解放

第二百四十六條 艦長ハ船舶ヲ逮捕シタル後該船舶ノ不法ニ逮捕セラレタルコトノ事實ヲ知得タルトキハ成ルベク諸物件ヲ原狀ニ復シテ直ニ之ヲ解放スベシ

第九款 捕獲ノ際ニ於ケル一般ノ義務

第二百四十七條 艦船ヲ捕獲若クハ逮捕シタルトキハ其艙口ヲ密閉シ其ノ載貨、器具及一般ニ船内ニ在ル其他ノ一切ノ物件ヲ私用セシメザルヲ注意ヲ施スベシ監督ノ爲ニ該船舶ニ送ラレタル士官ハ捕獲審檢所ニ於テ審檢ノ上檢定ヲ下スマデハ一切ノ物件ヲ船外ニ持出スコトヲ禁ズベシ

第十款 證據及書類

第二百四十八條 捕獲者若クハ逮捕者タル軍艦艦長ハ逮捕セラレタル船舶ノ重モナル士官及其ノ適當ト信ズル乗員ヲ證人トシテ捕獲審檢所ニ送り該船舶及載貨ノ持主ヲ證明セシムベシ又艦長ハ一切ノ通航券、税關出港證書、航泊日誌其他ノ船内書類ハ如何ナル口實ヲ以テモ之ヲ隱匿セシメズ凡テ之ヲ審檢所ニ送付セシムベシ

第十一款 捕虜ノ取扱

第二百四十九條 艦長及士官ハ凡テ戰時捕虜ヲ遇スルニ仁愛ヲ以テシ、其ノ一身上ノ財産ハ注意シテ之ヲ保護シ相當ノ糧食即チ酒類葡萄酒麥酒ヲ除クノ外各種食料ノ三分二ヲ與ヘ及事情ノ許ス限リ散步運動ノ娛樂ヲ之ニ許スベキコトニ特別ニ注意ヲ加フベシ但シ其ノ抗敵企圖ヲ

制止スル爲常ニ之ヲ監視守護スベク殊ニ軍艦乗員ノ多數ガ甲板上ニテ作業スル場合ニハ一層注意ヲ拂フベシ

第十二款 官ノ命令ナクシテ軍用船トシテ行動スルコト

第二百五十條 正當ニ其權限ヲ與フル官ノ命令ナクシテ軍用船若クハ捕獲私船ノ行動ヲナスト認ムベキ艦船アルトキハ直ニ海軍本部ニ之ニ關スル詳細ノ報告ヲナスベシ

第十三款 敵船ニ使役セラル、英國臣民

第二百五十一條 敵ノ軍艦若クハ捕獲私船内ニ於テ服務スル者ニシテ法律上其ノ服從ノ宣誓ヲ解カザル英國臣民タルノ疑アルトキハ其取扱方法ニ關シテ何分ノ訓令アルマデ之ヲ捕虜トスベシ艦長ハ最近ノ機會ヲ以テ其ノ嫌疑者、其ノ出生地、其ノ任意ニナセル陳述ヲ海軍本部ニ報告スベシ又軍艦ノ士官及水兵ヲシテ之ニ關シテ舉證スルヲ得ル爲詳細ニ其ノ情况ヲ視察セシムベシ

第十八章 協同捕獲

第一款 英國軍艦ノ協同捕獲

第二百五十二條 戰利船ノ投降シタル軍艦ヲ以テ現實ノ捕獲者トス、又他ノ軍艦モ捕獲審檢所ノ檢定ニ依リ現實ノ捕獲者ト聯合若クハ協力シタルノ故ヲ以テ協同捕獲者トシテ參加スルノ權利アルモノト認定セラル、コトアルベシ

第二百五十三條 他ノ聯合若クハ協力ヲ受ケタルトキハ一軍艦ノ爲セル捕獲ハ他ノ諸艦ノ利益ノ爲ニモ有効ナリトス

第二欸 聯合 アソシエーション

第二百五十四條 聯合ハ左ノ場合ニ於テ成立スルモノトス

一 封鎖若クハ巡航艦隊ヲ組織スル諸艦ノ間但シ他ノ異リタル任務ヲ受ケ派遣セラレタル爲捕獲當時現場ニ在ラザルモノヲ除ク

二 同時ニ追躡スル諸艦ノ間但シ各艦ノ艦長中先任官ガ全般ノ指揮ヲ執レルトキ

第三欸 協力 コオペレーション

第二百五十五條 戦利船并ニ捕獲艦ノ視界内ニ入りテ戦利船ヲ威嚇シ捕獲者ヲ鼓舞シタル軍艦ハ現實ノ捕獲者ト協力セルモノトス

第二百五十六條 協同捕獲アリトスル場合ニ於テハ艦長ハ其ノ現實ノ捕獲者タルト又協同捕獲者タルトヲ問ハズ捕獲後直ニ當時現ニ艦内ニアリタル士官、水兵、海兵、兵員其他ノ名簿并ニ當時職務其他ノ理由ニ依リ不在ナリシ乗組員ノ名簿ヲ調製シ且ツ不在ノ原因ヲ記入スベシ、各名簿ニハ各員ノ職務及其ノ俸給ヲ記載シ艦長及三名以上ノ重立タル士官之ニ署名スベシ

第二百五十七條 艦長ハ是等ノ名簿ニ第九十五條ニ記載シタル細目及該事件ノ報告書ヲ添ヘ之ヲ海軍本部秘書官ニ送達スベシ

第二百五十八條 戦利金ノ分配ハ千八百八十六年八月三日ノ勅令ノ規定ニ依ル

第四欸 英國及同盟國軍艦ノ協同捕獲

第二百五十九條 英國及同盟國軍艦ノ協同捕獲ノ際ニ於ケル各艦長ノ職務ハ通常條約ニ於テ規定スル所ナリ

第二百六十條 條約ノ規定ナキ場合ニ於テハ左ノ諸號ニ依ル

(イ) 一艦ガ現實捕獲者ニシテ他艦ハ協同捕獲者ナルトキハ該戦利船ノ管理者ハ其ノ先任後任ヲ論ゼズ現實捕獲者タル軍艦ノ艦長ニ歸ス故ニ該艦長ハ審檢ノ爲ニ其ノ船舶ヲ自國港ニ送致スベシ

(ロ) 兩艦共ニ現實ノ捕獲者ナルトキハ該戦利船ノ管理權ハ其ノ先任官ニ歸ス故ニ該先任官ハ審檢ノ爲ニ其ノ船舶ヲ自國港ニ送致スベシ

第十九章 再捕獲 リキャプチャー

第一欸 英國船ノ再捕獲

第二百六十一條 艦長ハ力ノ及ブ限リ敵ノ攻撃ヲ受ケ若クハ捕獲セラレタル英國船ヲ救助スルノ義務アルモノトス

第二百六十二條 艦長ハ前條ノ船舶ヲ救助スルコトヲ得タルトキハ審檢ノ爲ニ直ニ之ヲ送致スルヲ得然レドモ該船舶ニシテ未ダ敵港ニ引致セラレズ又ハ軍用船トシテ敵ノ所有ト定メ若ク

ハ使用スル所トナラザル場合ニ於テハ其ノ撰擇ニ依リ該船舶ノ進航并ニ其ノ載貨ノ卸下及處分ヲ許スコトヲ得

第二百六十三條 捕獲審檢所ハ審檢ノ上戰利恩酬金ヲ支拂ハシメテ該船舶及載貨ヲ各其持主ニ返還スルモノトス

第二百六十四條 艦長該船舶ノ進航ヲ許シタルトキハ其ノ英國内ノ港ニ歸着スルマデ其ノ審檢手續ヲ延期スルコトヲ得

第二百六十五條 該船舶ニシテ六箇月以内ニ英國港ニ歸着セザルトキハ再捕獲者ハ該船舶及物品ニ對シテ英國ニ於ケル戰利物裁判權ヲ有スル裁判所ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ得然ルトキハ該裁判所ハ先ツ戰利恩酬金ヲ附與シ後ニ船舶及載貨ニ對シテハ保證金或ハ差押ノ方法ニ依リ持主ニ對シテハ督促及拘留ノ方法ニ依リ其支拂ヲ強制スルコトヲ得

第二百六十六條 未ダ實際敵港ニ引致セラレザル英國船ヲ再捕獲シタル爲メニ再捕獲者ニ與フベキ戰利恩酬金ハ戰利物ノ價格ノ八分一トス但シ再捕獲ノ際特別ノ困難若クハ危險アル事情ノ存在シタルトキハ該價格ノ四分一ヲ超ヘザル金額トス

第二百六十七條 該船舶ニシテ再捕獲前軍用船トシテ敵ノ所有ト定メ若クハ使用スル所トナリタルモノニ付テハ原所有者ハ其ノ回復ヲ求ムルノ權利ナシ該船舶并ニ載貨ハ適法ノ戰利物トシテ之ヲ再捕獲者ニ附與スベシ

第二百六十八條 艦長ハ船舶ガ捕獲セラレタル後敵ヨリ軍用船タルノ任務ヲ受ケ又ハ捕獲私船トシテ使用セラレ又ハ公ノ職權ヲ有スル敵國士官ニ依リ武装セラレタルトキハ之ヲ軍用船トシテ敵ノ所有ト定メ若クハ使用セルモノナリト認定スルコトヲ得但シ單ニ其ノ乗組員増加シ若クハ職權ヲ有セザル者ガ之ヲ武装シタル場合ハ此限ニアラズ

第二款 英國戰利物ノ再捕獲

第二百六十九條 英國巡洋艦ノ捕獲セル敵船ガ其後敵國軍艦ノ爲ニ奪ハレ後再ビ他ノ英國軍艦ノ爲ニ捕獲セラレルコトアリ然ルトキハ再捕獲ヲナセル艦長ハ審檢ノ爲メ該船舶ヲ送致スベシ此ノ場合ニ於テハ原捕獲者ハ回復ノ請求權ヲ有セズ船舶及載貨ハ共ニ適法ノ戰利品トシテ再捕獲者ニ歸スベキモノトス

第三款 中立船ノ再捕獲

第二百七十條 艦長ハ未ダ敵國捕獲審檢所ニ於テ沒收ノ檢定ヲ受ケザル中立船ヲ敵ヨリ再捕獲ヲナシタルトキハ恩酬金ヲ受クルノ權ナシ此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク又賠償ヲ受クルコトナク之ヲ解放シテ其ノ進行ヲ許スベシ

第四款 同盟國船ノ再捕獲

第二百七十一條 艦長ハ同盟國ノ船舶ヲ敵ヨリ再捕獲シタル場合ニ於テ其ノ執ルベキ職務ハ通常條約ノ規定スル所ナリ條約ノ規定ナキトキハ艦長ハ之ヲ審檢ノ爲ニ英國港ニ送致スベシ此

ノ場合ニ於テ捕獲審檢所ノ恩酬金ヲ與フルヤ否ヤハ一ニ同盟國捕獲審檢所ガ英國船舶ヲ再捕獲セル同盟國ノ軍艦ニ恩酬金ヲ與フルヤ否ヤニ依ツテ之ヲ決スベシ

第二十章 審檢港ニ送致スルコト

第二百七十二條 艦長ハ逮捕ノ後成ルベキタケ速ニ船舶及載貨ヲ審檢港ニ送致スベシ

第一款 樞密院令ノ許セル賠償金

第二百七十三條 艦長ハ特ニ樞密院令ニ於テ許サレタル場合ノ外船舶若クハ載貨ヲ審檢ノ爲送致スル代ニ賠償金若クハ補償金ヲ徵收スルコトヲ得ズ艦長ニシテ該樞密院令ニ違反シテ賠償金ヲ徵收スルノ契約若クハ合意ヲナセルトキハ該艦長ハ其ノ犯罪ニ付テハ上級裁判所ノ遺言離婚及海軍部ニ於テ女王陛下ノ海軍職務ニ關スル訴訟トシテ裁判ヲ受ケ若シ有罪ナルトキハ該裁判所ノ意見ニ依リ五百磅ヲ超ヘザル罰金ニ處セラルベシ

第二款 審檢ノ爲ニスル送致ノ遲滯セル場合ニ於ケル罰金

第二百七十四條 艦長ニシテ審檢ノ爲ニスル船舶及載貨ノ送致ヲ故ナク遲滯セル場合ニ於テ該船舶ノ解放セラレタルトキハ該艦長ハ損害賠償ノ責ニ任ズベシ

第三款 正當ナル審檢港

第二百七十五條 審檢港トハ審檢中船舶及載貨ガ安全ニ繫留スル爲ニ送致セラル、港ヲ云フ
第二百七十六條 審檢港ハ成ルベク聯合王國若クハ英領内ノ英國港ヲ以テ之ニ充ツベク已ムヲ

得ザル場合ニ於テハ同盟國港ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ審檢手續ヲ正式ニ開始スル爲艦長ハ本艦ノ一士官ヲシテ證人并ニ船舶書類及供述書ヲ最近ノ英國捕獲審檢所ニ送達セシムベシ

第二百七十七條 英國若クハ同盟國港ニアラザレバ正當ナル審檢港トナスヲ得ズ後條ニ規定スル必要ナル場合ニ於テハ中立港ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四款 審檢港ノ選定

第二百七十八條 艦長ハ總テノ審檢港中一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ最モ便利トスル港ヲ選定スベシ其ノ選定ニ付イテハ第一ニ公務ノ緊急次ニ利害關係人即チ船舶所有者、載貨所有者及捕獲者ノ利益ヲ顧慮スベシ殊ニ左ノ諸號ニ注意スルヲ要ス

一 港ハ船舶ニ安全ナル錨地ヲ與フルモノナルベシ

二 港ハ十分大ニシテ船舶ガ其ノ積貨ヲ卸下セズシテ碇泊スルヲ得ルモノナルベシ

三 港ハ該事件ヲ審檢スベキ捕獲審檢所トノ交通自由ナルモノタルベシ

四 港ハ捕獲ノ場所ニ成ルベク接近セルモノナルベシ

第二百七十九條 艦長ハ審檢港ヲ選定スルニ際シテ正當ノ理由ナクシテ船舶及載貨ノ所有者ノ利益ヲ顧ミザルトキハ損害賠償ノ責ニ任ズルモノトス

第五款 船舶回航ニ對スル注意

第二百八十條 艦長ハ審檢港ヲ選定シタル後該船舶監督ノ爲戰利士官ヲ指名スベシ

第二百八十一條 艦長ハ該船舶ノ船長及乗組員ニ對シテ戰利士官ノ命令ヲ受ケ船舶ヲ審檢港ニ回航スルノ援助ヲ與フベキコトヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ拒絕セラレタル場合ニ於テハ之ヲ強制スルコトヲ得ズ

第二百八十二條 艦長ハ船舶ノ大小性質及情況、航路ノ長短難易、乗組員ノ多少、其ノ協力若クハ反抗スベキ情態及其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ該船舶ノ安全ナル廻航ニ必要ナル水兵ヲ戰利士官ノ指揮下ニ置クベシ

第六款 船舶ト共ニ送致スベキモノ

第二百八十三條 船舶ハ船長乗組員及一切ノ貨物ヲ搭載シテ成ルベク其ノ捕獲ノ當時ト同一ノ情況ヲ保タシメ之ヲ審檢港ニ送致スベシ但シ悉ク之ヲ實行スル能ハザルトキハ後條ニ規定スル所ニ依ルベシ

第二百八十四條 供述書及船舶ノ書類ハ該船舶ニ搭載シテ之ヲ審檢港ニ送致スベシ若シ供述書ニシテ船舶ノ審檢港ニ送致セラル、當時未ダ宣誓セラレザルトキハ書類保管ノ爲并ニ船舶ガ審檢港ニ到着シタルトキ書類ヲ確證スル供述書ヲ作成シ且ツ必要ナルトキハ捕獲ノ情況ニ付テ口頭證明スルヲ得ル者ヲ該船ニ便乗セシムベシ若シ供述書ニシテ船舶ノ審檢港ニ送致前正當ニ宣誓セラレタルトキハ之ニ添ヘタル船内書類ト共ニ之ヲ密封シ該事件ヲ審檢スル審檢所

ノ書記宛テトシ戰利士官ニ託シテ密封ノ儘之ヲ該書記ニ渡サシムベシ

第七款 戰利品ノ保險

第二百八十五條 捕獲審檢所ノ命令ニ依リ之ヲ賣却シ又ハ之ヲ解放スルマデハ船舶及載貨ニ對シテノ危險ハ捕獲者ノ負擔スベキモノトス故ニ艦長ハ必要ト認ムルトキハ船舶及載貨ニ保險ヲ附スルコトヲ得

第八款 審檢港ニ總乗組員ヲ送致スル能ハザル場合ニ於ケル艦長ノ處置

第二百八十六條 艦長ハ船舶ノ總乗組員ヲ審檢港ニ送致スルコト能ハザルトキハ少クトモ重立チタル乗員ノ三四名ヲ證人トシテ送致スベシ而シテ其中二名ハ船長、載貨取締、運轉士若クハ水夫長ノ中ヲ以テスベシ

第二百八十七條 艦長ハ同時ニ戰利士官ヲシテ船外ニ移載シタル人員及其理由ニ關スル供述書ヲ作成セシムベシ海軍本部ノ訓令ナキトキハ該證明書ハ書式第八ニ依ル

第二百八十八條 移載シタル人員ハ速ニ之ヲ審檢港ニ送致スベシ且ツ其折ハ船内若クハ陸上ニ於テモ務メテ之ニ便宜ヲ與フベシ

第九款 載貨ノ審檢港ニ送致スル能ザル場合ニ於ケル艦長ノ職務

第二百八十九條 艦長ハ載貨ニシテ相當ノ審檢港ニ送致スルニ適セザルトキハ其艦ノ士官中最モ其任ニ適セル者數名ヲシテ之ヲ調査セシムベシ

第二百九十條 調査士官ハ書面ヲ以テ艦長ニ報告スベシ且ツ該報告書ハ調査士官之ニ署名シ之ヲ艦内ノ航海日誌ニ記入スベシ

第二百九十一條 調査士官ガ載貨ノ審檢港ニ送致スル能ザルコトヲ報告シタルトキハ艦長ハ之ヲ賣却スベシ

第二百九十二條 賣却ハ其ノ逮捕地又ハ中立國地方官憲ガ任意ニ其ノ賣却ヲ許セル場合ニ於テハ中立地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得而シテ中立港ニ於テ載貨ヲ賣却スルニハ艦長先ツ其港ニ船舶ヲ派遣スルカ若クハ載貨ヲ移載シテ之ヲ送致スルコトヲ得

第二百九十三條 載貨ノ全部若クハ賣却セラルベキ部分ハ賣却前之ヲ評價スベシ評價人ハ出來得ベキ丈適任者ヲ選ミ且ツ公平ニ處置スルノ宣誓ヲナサシムベシ而シテ該評價ハ書面ヲ以テ之ヲ爲サシムベシ

第二百九十四條 賣却ハ相當官憲ニ於テ戰利士官立會ノ上且ツ成ルベク公賣ニ附シテ之ヲ行フベシ賣却代金ハ樞密院令ノ規定ニ依リ遲滞ナク之ヲ處置スベク若シ此ノ規定ナキトキハ女王ベイマスタージェナル會計部長ノ貸方トシテ英蘭銀行ニ預入レ若クハ之ヲ政府會計官吏ニ預入ルベシ又戰利士官ハ一切ノ手續ニ關スル供述書ヲ作り之ニ調査士官ノ報告書、評價書、賣却計算書、及其他ノ書類ヲ添附シ該船舶ト共ニ審檢港ニ送致スベシ

第二百九十五條 海軍本部ノ訓令ナキトキハ該供述書ハ書式第九ニ依リ作製スベシ

第十款 船舶ノ審檢港ニ送致スルニ適セザル場合ニ於ケル捕獲者ノ職務

第二百九十六條 艦長ハ船舶ノ正當ナル審檢港ニ送致スルニ堪エザルトキハ本艦ノ士官中最モ其任ニ適スルモノ數名ヲ派遣シテ之ヲ調査セシムベシ

第二百九十七條 調査士官ハ書面ニテ艦長ニ報告スベシ且ツ該報告書ハ調査委員之ニ連署シ又航海日誌ニ記入スベシ

第二百九十八條 調査士官ガ船舶ノ審檢港ニ送致スルニ堪エザルコトヲ報告シタルトキハ艦長ハ出來得ベクンハ任意ニ其入港ヲ許セル最近ノ中立港ニ之ヲ引致スベシ

第二百九十九條 艦長ハ中立國地方官憲ノ意思ニ反シテ該船舶ヲ中立港ニ引致スルヲ得ズ且ツ如何ナル場合ニ於テモ中立國ニ於テ審檢手續ヲ執行スベカラザルコトヲ銘記スベシ

第三百條 巡洋艦并ニ入港ヲ許サレタル戰利物ハ國際禮讓ニ依リ該國裁判權ノ管轄ヲ受ケザルモノトス

第三百一條 船舶ノ中立港ニ入泊スルヲ許サルタルトキハ艦長ハ審檢手續ヲ正式ニ開始スルタメ本艦ノ士官一名ヲ附シテ證人并ニ船内書類及必要ナル供述書ヲ最近ノ英國捕獲審檢所ニ送致スベシ

第三百二條 前條ノ供述書中ハ船舶ノ中立港ニ送致セラレタル情况ヲ詳記シ且ツ之ニ調査士官ノ報告書ヲ添ヘタル戰利士官ノ供述書ヲ包含スルヲ要ス海軍本部ノ訓令ナキトキハ該供述書

ハ書式第十二依ルベシ

第三百三條 左ニ掲グル場合ニ於テハ艦長ハ其ノ敵有タル明證ナキトキハ賠償ヲ得ズシテ船舶及載貨ヲ解放スベシ

一 調査士官ガ船舶ヲ審檢港ニ送致スルニ堪エザルコトヲ報告シタルトキ

二 艦長ガ船舶ヲ審檢港ニ回航スルニ十分ナル水兵ヲ派遣スルコト能ハザルトキ

第三百四條 前條ノ場合ニ船舶ノ敵ノ所有タル明證アルトキハ艦長ハ其乗組員、書類及成ルベク其載貨ヲ轉載シテ該船舶ヲ破壊スベシ乗組員及載貨(轉載セルトキ)ハ戰利士官ヲ附シテ船舶書類及必要ナル供述書ト共ニ之ヲ審檢港ニ送致スベシ

供述書中ニハ船舶ノ敵ノ所有タル證據及審檢ノ爲ニ之ヲ送致スルコト能ハザリシ事實ヲ詳記スル戰利士官ノ供述書ヲ包含スルヲ要ス

第二十一章 戰利士官ノ職務

第三百五條 戰利士官ハ其ノ船舶ニ乗組ミタルトキハ直ニ其ノ積載ノ儘調査スルヲ得ベキ需品、器具及載貨ノ目錄ヲ作製スベシ此目錄ノ作製ニ付テハ艦長ヲシテ助力セシメ且自ラ署名セル膳本ヲ艦長ニ下附スベシ海軍本部ノ訓令ナキトキハ目錄ハ書式第十一ニ依リ之ヲ調製スベシ

第三百六條 戰利士官ハ其乗船ノ時ヨリ審檢港ニ到着スルマデノ處置ニ關スル日誌ヲ作り航海中船舶、載貨又ハ乗組員ニ關シテ起レル異動ヲ記入スベシ

第三百七條 戰利士官ハ尙正當ノ手段ヲ盡シテ同事件ニ關スル報告ヲ得ルニ努ムベシ回航中他ノ書類ヲ受領シ若クハ船外ニ投棄セルモノヲ拾集シ又ハ隱匿セルモノヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ整理シ番號ヲ付シテ之ヲ書式第十二第十三若クハ第十四ノ一ニ依リ調製スベキ供述書ニ添付スベシ供述書ハ機會アラバ回航中若クハ船舶ノ審檢港ニ到達後宣誓スベシ

第三百八條 戰利士官ハ回航ニ付テ最モ嚴密ナル注意ヲ施スベシ其ノ注意ヲ缺キタル爲メ船舶若クハ載貨ニ損害ヲ來セル場合ニ於テ原狀回復ノ檢定アリタルトキハ艦長ハ其ノ損害賠償ノ責ニ任ズベキモノトス

第三百九條 通常水先人ヲ雇傭スベキ場所ニ於テ之ヲ雇傭セザルハ注意ヲ缺ケルモノトス

第三百十條 戰利士官ハ船舶ヲ審檢港ニ直航セシムベキ責ヲ有ス此責ヲ履行スル場合ニ於テハ捕獲者ハ(拿捕ニ付テ) 諒必原因アル場合ニハ(單純ナル不時ノ事變若クハ敵ノ再捕獲ニ付テ責ヲ有セズ然レドモ船舶が必要ナクシテ其ノ航路ヲ離レ(例令バ他船ヲ捕獲センガ爲メ)船舶若クハ載貨ニ事變ヲ生ジタル場合ニ原狀回復ノ檢定アリタルトキハ艦長ハ其ノ損害賠償ノ責ニ任ズルモノトス

第三百十一條 戰利士官ハ載貨ノ保存ニ關シ及其私用若クハ混雜ヲ防グ爲メ最モ嚴密ナル注意ヲ施スベシ而シテ實行スルヲ得バ艙口ヲ密閉スベシ

第三百十二條 保管物ノ私用アリタルトキハ艦長ハ其ノ損害ノ責ニ任ズルモノトス

第二百十三條 戰利士官ハ再捕獲ノ企圖ニ對シテ警戒ヲ加フベシ然レドモ必要以外ニ船長及乘組員ヲ檢束スルコトヲ得ズ又明白ナル必要アルトキニ限り之ヲ捕縛スルコトヲ得

第二百十四條 絶對ノ必要アル場合ニ限り戰利士官ハ船長乗組員若クハ載貨ヲ該船舶ヨリ他船ニ轉載スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉載セル人員若クハ物品及其原因ヲ詳記スル供述書ヲ作製スベシ海軍本部ノ訓令ナキトキハ該供述書ハ書式第十五ニ依ルベシ供述書ハ機會アレバ回航中又ハ船舶ノ審檢港ニ到達後宣誓スベシ又轉載セル一切ノ人員及物件ハ遲滯ナク之ヲ審檢港ニ送致スベシ

第二十三章 審檢港ニ於ケル手續

第一款 稅關ニ對スル戰利士官ノ職務

第二百十五條 船舶、審檢港タル聯合王國ノ港ニ到達シタルトキハ戰利士官ハ正當ナル荷揚場ニ該船舶ヲ繫留スベシ而シテ稅關官吏ヨリ請求アリタルトキハ其ノ管理セル船舶及載貨ニ關スル説明書ヲ差出シ且ツ該官吏ノ尋問ニ對シテ知レル限り一切ノ報知ヲ與フベシ及該官吏ノ自由ニ上船シ船内ヲ搜索シ及載貨ヲ政府ノ倉庫ニ運搬スルコトヲ許スベシ違反スル者ハ百磅ノ罰金ニ處ス

第二款 船舶、乗組員及載貨ニ關スル職務

第二百十六條 戰利士官ハ船舶、乗組員及載貨ヲ搭載ノ儘マーシヤルニ引渡シ其ノ保管ニ附ス

ベシ若シ該官吏不在ナルトキハ該港ニ於ケル稅關主任官ノ保管ニ附スベシ

第三款 審檢手續ニ關スル職務

第二百十七條 船舶ガ港ニ到達シタルトキハ戰利士官ハ直ニ審檢手續ノ着手ヲ請求スベシ該士官ハ事件ノ進行ヲ熱心ニ注意シ又審檢所ニ對シテ相當ノ敬意ヲ表シ其ノ力ノ及ブ限りハ之ニ援助ヲ與フベシ

第二百十八條 審檢手續ハ同盟國審檢所ニ於テ提起スルコトヲ許スノ訓令ナキ以上ハ英國捕獲審檢所即チイギリスニ於テ捕獲裁判權ヲ行フ裁判所若クハ英王國領土内ニ於テ裁判權ヲ行フ他ノ裁判所ニ於テ一時戰利事件ヲ受理シ且ツ檢定ヲ下スノ權限ヲ與ヘラレタルモノニ於テ之ヲ提起スベシ

第二百十九條 捕獲審檢所ニ於ケル訴訟手續及慣行ハ樞密院令ノ規定ニ依ル而シテ該樞密院令ハ千八百六十四年海軍戰利法ノ規定ニ準據シテ樞密院ノ司法委員及海軍高等裁判所判事ニ於テ時々之ヲ起草シ女王陛下ノ裁可ヲ經テ之ヲ公布ス

第二百二十條 戰利士官ガ審檢手續ヲ請求セズ又ハ有効ニ之ヲ執行セシムルコト能ハザルトキハ艦長ハ遲滯ニ由リ生ズル損害ノ責ニ任ズ而シテ利害關係人ハ捕獲者ヲシテ六日以内ニ審檢所ニ出頭且ツ答辯スベキ旨召喚狀ヲ發センコトヲ審檢所ニ請求スルコトヲ得該期限經過後ハ審檢所ハ直ニ審檢處分ニ着手スルカ若クハ更ニ新證據ノ提出ヲ命ズルカハ其ノ自由ナリトス

第三百二十一條 審檢手續ニ着手スル爲戰利士官ハ其ノ着港後成ルベク速ニ同港ノ檢事ニ請求シテ其ノ提出スベキ證據ニ關スル訓令ヲ受クベシ

第三百二十二條 船内書類ノ供述書ニシテ未ダ宣誓セラレザルトキハ直ニ宣誓スベシ

第三百二十三條 戰利士官ハ供述書及一切ノ船内書類ヲ審檢所ノ主任登録掛ニ提出スベシ第一

審ニ於テ戰利士官ノ提出セザリシ書類ハ其ノ遲滯ノ理由ヲ十分ニ辯明スルニアラザレバ該訴訟中後ヨリ之ヲ提出スルコトヲ許サズ

第三百二十四條 戰利士官ハ船舶逮捕ノ當時船内ニ在リシ重モナル乗組員三四名ヲ審檢所判事又ハ其ノ職權ヲ有スル人ノ面前ニ出頭セシムベシ該判事及其職權ヲ有スル人ハ乗組員ヲ宣誓セシメタル上規定ノ口頭訊問ニ對シテ答辯セシム此ノ口頭訊問ヲ エキモチイヨシインプレバトリア 豫ト云フ

千八百五十四年ノ戰爭ニ於テ慣用シタル訊問寫ハ書式第十六ヲ參照スベシ

第三百二十五條 船内書類ニ關スル供述書ヲ整理シタルトキハ召喚狀ヲ發シテ利害關係人中船舶及載貨ノ沒收スベカラザル理由ヲ申請セントスル者ヲシテ二十日以内ニ之ヲ陳述セシムベキコトヲ通知スベシ而シテ何人ニテモ該告知狀ノ撤去前後ヲ問ハズ供述書ヲ以テ證明セル船舶若クハ載貨ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得

第三百二十六條 召喚狀ノ期限後及豫審終結後公判ヲ開ク、公判ニ於ケル唯一ノ證據ハ船内書類及規定ノ口頭訊問ニ對スル船長及乗組員ノ口供ナリトス捕獲者ハ特別ノ事情ナケレバ第一

審ニ於テ舉證スルコトヲ得ズ

(終)

(書式第一ヨリ第十五マデ之ヲ略ス)

書式第十六(第三百二十四條參照)

此訊問案ハ嘗テ露國ト戰爭ノ際捕獲シタル艦船ニ關スル豫審ニ於テ該艦船乗員ヲ證人トシテ訊問シタル事項ナリ

(註)此訊問案ハ數年前法律ノ需用ニ應ジテ規定シタルモノナレバ其諸項中既ニ無用ニ屬スルモノアリ故ニ今後英國ノ海戰ヲ行フニ當リテハ新ニ訊問案ヲ發布スルナラン

神命ヲ奉承シテ大貌列顛ノ女皇タリ且神命ヲ保護スル愛蘭女王タルウキクトリヤ皇帝ノ爲メウキクトリヤ皇帝陛下ノ艦船ガ戰利トシテ捕獲シ或ハ捕獲セントスル艦船若クハ艦船内ノ物品ニ關シ當戰爭中豫審ノ際證人トシテ該艦船内ニ認メタル艦長船長士官海員其他ノ人ニ對スル訊問案

各證人ニ左ノ事項ヲ訊問シ其答辯ヲ明瞭ニ且各別ニ記載ス可シ

(一)姓名、出產地名、已往七年間住セシ地名、現住地名及現住地ニ住セシ日數、現在ノ君名或ハ國名又嘗テ他ノ君或ハ國ノ臣民タリシコトアレバ其時并ニ君名又ハ國名、嘗テ何年頃誰

ニ對シテ如何ナル誓約(君臣ノ義)ヲ爲セシカ、何國ノ公民或ハ人民タルノ證狀ヲ受領セシヤ否ヤ請求セシヤ否ヤ、何國ノ保護ヲ受クベキ權利ヲ有スルヤ否ヤ、嘗テ市府ノ公民ト爲リシコトアリヤ否ヤ、公民權ヲ得シ時日及手續、公民權ヲ得シ後其地ニ住セシ日數、其後ノ住處、公民權ヲ得ルノ費額、結婚セシヤ否ヤ、妻及家族ノ居住地

(二) 證人ガ就テ訊問セラル、所ノ船、載貨其他ノ物品ハ逮捕ノ當時現場ニ在リシヤ否ヤ、證人ガ就テ訊問セラル、所ノ船ハ報復免狀ヲ有セシヤ否ヤ、報復免狀ノ文意之ヲ受領セシ時及所及之ヲ下付セシ人名

(三) 訊問中ノ船及載貨ノ逮捕セラレタル年月日及港名又ハ地名其經緯度及該船ノ方向及距離、如何ナル口實及理由ヲ以テ全部或ハ如何ナル部分ヲ逮捕セシヤ送致シタル港名又ハ地名、該船航海ノ初メ掲揚セシ旗、逮捕セラル、時掲揚セシ旗、該船内ニ他旗ノ有無若シ有ラバ其理由、嘗テ何時カ該旗或ハ他旗ヲ掲揚セシコトアルヤ、該船ハ逮捕セラル、トキ抵抗セシヤ、抵抗ノ種類及抵抗セシ人、抵抗ノ際如何ナル兵器ヲ使用セシヤ其方ハ何人ノ爲メ或ハ何艦船ノ爲メ捕ヘラレシヤ、其方ヲ捕ヘシ船ヲ軍艦ト思フカ又ハ委任ヲ受ケタル普通船ト考フルヤ、逮捕ノ當時視線内ニ如何ナル艦船アリシヤ

(四) 被捕船船長ノ姓名、船長ヲ知リシ以來ノ日數、現船長ヲ命ゼシハ何人ナルヤ、船長ノ船ヲ受取リシ地名年月、船ヲ船長ニ引渡セシ人名、引渡セシ人及船長ノ現住所及一定ノ居住地、

一定ノ居住地ナキトキハ最終ノ住所、從來通常住居セシ地名、該處ニ住セシ日數、其出產地名及所屬國名、結婚セシモノナレバ妻及家族ノ住所

(五) 該船ノ噸數、該船ニ乗組シトキノ水夫ノ數、其逮捕セラレシトキノ水夫ノ數、各水夫ノ所屬國名、水夫ハ皆同一ノ港ニテ乗組シヤ否サレバ各乗組シ諸港名、何人ガ何時何處ニテ何航海ノ爲メ彼等ヲ雇ヒシヤ

(六) 其方其他該船ノ士官水夫中該船或ハ其載貨ニ關シ利益ヲ有スルノ有無、利益ヲ有スル士官水夫ノ人名及利益ノ割合、該船ノ逮捕セラレシトキ其方ハ該船ノ乗組員ナリシヤ、若シ然リシトキハ如何ナル資格ヲ有セシヤ、該船ヲ知リシ以來ノ日數、該船ヲ初テ見シ時及所、該船ノ製造所名

(七) 該船ノ名、該船ノ其名ヲ稱セル日數、該船ハ他ノ名ヲ稱セシコトアリヤ若シ有ラバ其名并ニ之ヲ用キシ時日理由及日數、航海券ノ有無、之ヲ交付セシ人

(八) 該船ハ當航海中逮捕セラル、前何地ニ向テ航セシヤ、其起航地名及最終到着地名、該船ガ其方ノ之ヲ知リシヨリ逮捕セラル、マデニ爲シタル各航海ノ主旨及載貨ノ性質并ニ卸貨セシ港名、逮セララル、前該船ノ經由セシ港灣及時、特ニ最後ノ港ヲ發航セシ時、該船ハ其使用上常ニ何人ノ指揮ヲ受ケシヤ、該船或ハ其載貨ニ關シテハ其方ハ何人ト協議セシヤ

(九) 該船ノ最後航海起航ノトキ搭載セシ貨物及其逮捕セラレシトキ搭載シ居リタル特種ノ貨

物、其特種ノ貨物ヲ搭載セシ年月及所、載貨ノ種類及各種ノ數量

(十) 逮捕セラレシトキ該船ノ所有主、逮捕ノ當時其所有主タルヲ如何ニシテ知リシヤ所有主ノ出產地其住處、其妻及家族ノ住處、其居住日數、其以前ハ何處ニ住セシト考フルヤ、其國籍

(十一) 該船ノ所有主ハ賣渡證書又ハ之ニ類スル如何ナル書類ヲ受取リシヤ、何人ヨリ受取リシヤ、該證書調成ノ年月及之ニ參列セシ證人、該證書ヲ見シ最後ノ場所ハ如何又該書類ハ如何ニナリシヤ、賣渡證書面以外ニ賣渡ニ關シ如何ナル約束ヲ爲セシヤ、其約束ハ書面ニテ爲セシヤ又口頭ナルカ、若シ其書面ナルトキハ之ヲ最後ニ見シ場所ハ如何又其書類ハ如何ニ爲リシヤ

(十二) 貨物ハ一港ニテ一時ニ搭載セシヤ又數港ニテ數回ニ搭載セシヤ搭載セシ港名及時日、各港ニテ搭載セシ貨物ノ數量

(十三) 該貨物ノ積主所有主又ハ受託者ノ姓名、其國籍、其現住所及營業地、同地居住日數、前住處、該貨物ハ何人ノ利害ノ爲メ何處ニ陸揚スベキモノナルヤ、受託人又ハ積主ハ該貨物ニ關シ如何ナル利益ヲ有スルヤ、何故ニ其利益ヲ有スルヲ知ルヤ、該貨物ハ搭載ノ當時ト現在ト同一人ノ所有ニ係リ若シ放棄セラレ豫定ノ到着地ニ揚グルモ仍ホ同一人ノ有ニ歸シ他人ノ有ニ非ズト信ズル旨誓ヒ得ルヤ

(十四) 該船中ニ於テ差押ヘタル貨物ノ爲メ調印シタル船荷證券ハ幾枚ナルヤ、調印シタル船荷證券中偽リタルモノ又ハ該船ヲ逮捕シタルトキ船中ニ在リシ證書ト相違スルモノアリシヤ相違スル船荷證券ノ文意如何又其證書ハ如何ニ爲リシヤ

(十五) 該船及貨物ニ關スル船荷證券、送狀、書簡其他ノ書類ハ大貌列願ノ何處ニ在ルヤ若シ有ラハ其場所及占有者其處ニ送付セシ時及目的

(十六) 該船ノ逮捕セラレタル航海ノ爲メ調印シタル備船契約書アリシヤ、其契約書ハ如何ニ爲リシヤ、契約書ニ調印セシ時所及對手、其文意

(十七) 該船ノ逮捕セラル、前其最後港ヲ發セシ時如何ナル備船契約書船荷證券送狀書簡等ノ書類ヲ搭載シ居リシヤ、其書類中何レヲ燒却、毀壞、投水、變更、磨滅、隱蔽又ハ隱蔽セント企圖セシヤ又何人ガ何時何人ノ面前ニテ之ヲ爲セシヤ

(十八) 該船ハ嘗テ逮捕セラレ戰利品タル判決ヲ受ケシコトアルヤ、若シ之アラバ何時何處ニテ何人ニ逮捕セラレ何港ニ送致セラレ何人何官ニ何故ニ其判決ヲ受ケシヤ

(十九) 船舶載貨ヲ逮捕セラレ其方ノ損害如何、何ニ因リ其損失ヲ計算スルヤ、此逮捕及抑留ノ爲メ其方ノ蒙ル損害ノ幾分ニ對シ賠償又ハ賠償ノ約束ヲ受ケシヤ、若シ之アラバ何時何人ヨリ受ケシヤ

(二十) 船舶及貨物又ハ其幾分ハ保險ヲ契約シアルヤ、其保險ハ何航海ニ關シ何ノ危險ニ對シテ

契約セシカ、保險料、何時何人ガ何國ニテ保險ヲ契約セシヤ

(二十一) 其方豫定港ニ着シ其貨物ノ全部又ハ一部ヲ陸揚セバ右ハ直ニ受托者ノ所有ト爲ルヤ否
サレバ何人ノ所有ト爲ルヤ或ハ積主ハ其貨物ヲ賣却スルニハ市場ノ好機ニ乗ズル積ナリシ
ヤ

(二十二) 該船各載貨ノ產出地製作地ヲ明示スベシ

(二十三) 該貨物ヲ最初搭載スルトキ其全部又ハ如何ナル一部ヲ何時海岸ヨリ搭載セシヤ又ハ艇
「バーク」「ヴェツセル」或ハ「レツブ」ヨリ轉載セシヤ、如何ナル海岸、艇「バーク」「ヴェツセ
ル」或ハ「シツブ」ヨリ如何ナル海岸、艇「バーク」「ヴェツセル」或ハ「シツブ」マデ何時何處
ニテ轉載セシヤ

(二十四) 大貌列顛國以外ノ何國或ハ該船以外ノ船舶ニ於テ該船或ハ載貨ニ關スル書簡書類ノ存
在スルヲ知ルヤ信ズルヤ又ハ開キシヤ、該書類ハ如何ナル性質ナルヤ

其文面ハ如何、該書類ハ何人之ヲ所持スルヤ又船内書類ノ何レト相違スルヤ如何ナル點
ニ於テ相違スルヤ

(二十五) 該船ヨリ書類ヲ轉出セシコトアリヤ、若シ之アラバ其ノ授受セシ時及人、又該書類ハ
現在何人ノ保管又ハ所有ナリト信ズルヤ

(二十六) 當航海中又ハ該船ノ逮捕セラレシ後載貨ヲ解放セシコトアリヤ、之アラバ之ヲ解放セ

シ人及所、其命令者其目的及方法

(二十七) 該船ニ當航海ノ一部分ヲ限リ乗船セシ者アルヤ、之アラバ其航海區域及員數及姓名、
各人ノ國籍階級職業、其内ニ他ノ依託ヲ受ケ居ル者アリシヤ其依託人及受託人、依託用及
目的、此等船客中何人ヲ該船ノ逮捕セラル、トキ隱蔽セシヤ及其理由、此等船客ノ乗船セ
シ時及所、此等船客ノ各到着地及用事又其眞實ノ目的如何、此等船客ガ其乗船ノ爲メ何人
ニ何物ヲ拂渡セシヤ又拂渡ヲ約セシヤ、此等船客中何人ガ該船或ハ載貨ニ關シ間接直接ニ
如何ナル所有權關係或ハ權利ヲ有スルカ、當航海中士官陸兵水兵ヲ該船内ニ隱蔽セシコト
アリシヤ及其隱蔽ノ理由、大貌列顛國人民ヲ當航海中又ハ逮捕ノ當時隱蔽或ハ監禁セシコ
トアリヤ其隱蔽監禁ノ時間及理由

(二十八) 該船ニテ得シ總テノ通航券航海券儲船契約書賣渡證書船荷證券送狀其他該船及載貨ノ
所有權ニ關スル書類ハ眞正ナルヤ偽贋ナルヤ、其疑フ可キ事柄ヲ聞知スルヤ、通航券航海
券ヲ授受セシハ何人ナルヤ、該券ハ該船ノミノ爲メニ得シヤ又券面ニ記名スル人員ノ宣誓
ニ由テ得シヤ、又ハ實際宣誓或ハ確答ヲ爲サ、ルニ之ヲ爲セシ如ク券面上見ユル所ノ人ニ
或ハ其人ノ爲メニ之ヲ下附セシヤ、該券ノ有効期限如何、該券ニ對スル課稅又ハ手數料ヲ
拂ヒシヤ、尙ホ拂フベキ稅又ハ手數料アリテ之ヲ拂ヒ居ルヤ、書換ノ爲メ稅又ハ手數料ヲ
要スルヤ、該券ヲ幾回書換ヘシカ、又書換ノ爲メ稅或ハ手數料ヲ拂ヒシヤ、該船ハ通航券

航海券ヲ下附セラレシトキ其國ノ港灣ニ在リシヤ、若シ否ザレバ當時ハ何地ニ在リシヤ、乘員中通行免狀又ハ敵地通行券ヲ有スル者アリシヤ、其免狀又ハ券ハ何用ノ爲メ何人ヨリ受ケシヤ

(二十九)該船ニ關スル船荷證券送狀其他ノ書類ノ大貌列顛國以外ノ地ニ在ル場合ニハ其如何ニシテ此ノ如キ地ニ在ルヤヲ證人ニ訊問スベシ、其方ハ嘗テ該地ニ在リシヤ、在リシナラバ其時及用事、其書類ハ何人之ヲ所持スルヤ、其書類ハ如何ナル點ニ於テ該船内又ハ大貌列顛國ニ在ル書類或ハ他ノ地ニ在ル該船關係ノ他ノ書類ト相違スルヤ、其方ハ該船又ハ其載貨ニ關スル書簡又ハ書類ヲ書セシヤ或ハ之ニ署名セシヤ其文意如何其書類ノ宛名ハ何人ナルヤ何人ニ送付セシヤ又如何ニ爲リシヤ

(三十)該船ハ追躡逮捕セラレシ當初何地ニ向テ進行シ居リシヤ、該船ハ逮捕セシ艦船ヲ發見セシトキ或ハ其後如何ニ航路ヲ變ゼシヤ又其目的如何、該船ハ天候ノ許ス限リハ常ニ船内書類面上ノ到着地ニ向テ進航セシヤ、該船ハ其逮捕セラレシ時或ハ其前ニ書類面上ノ到着地ヲ遠ク隔リテ航行セシヤ或ハ之ヲ航過セシヤ、此ノ如クセシナラバ、其航路ト右到着地トノ距離如何、該船ハ何時如何ナル理由ニ因リ何地ニ向テ航路ヲ變ゼシヤ、該船ハ逮捕セシ艦船ヲ逃避セントシテ如何ナル企圖ヲ爲セシヤ、該船ノ逮捕艦船ヲ初テ見シ時及其距離、該船ハ之ヲ發見セシ時如何ニ其帆ヲ展縮シ速力ヲ増減セシヤ、逮捕者ノ該船ヲ停止シ之ニ

乗船セシ方法及時

(三十一)該船ハ嘗テ讓渡セシコトアリヤ讓渡セシ度數、受授人名時所及代價或ハ報酬、代價或ハ報酬ハ支拂濟ナルヤ、其金額ハ該船ニ適當ナリヤ、代金ノ支拂未濟ナルトキハ何人ガ如何ナル保證ヲ出セシヤ、抵當ヲ出セシ人ノ現住處、其方ハ此事ハ該船ニ關スル利益又ハ所有權ヲ庇護隱蔽スル爲メニ非ズシテ眞實讓渡ヲ爲セシモノト信ズルヤ、其方ハ今日該船ヲ放棄セバ該船ハ現ニ所有主ト定メラレタル者ノ所有ニ歸シ他人ニ屬セズト眞實ニ信ズルヤ、該船ヲ戰後或ハ其他何時前所有者ニ復歸セシムル何等カノ密約アルヤ

(三十二)該船ノ備砲其口徑載備ノ兵器彈藥ハ如何、斯ノ如ク兵裝ヲ爲スノ理由如何、他ノ大砲、白砲、榴彈砲、通常彈、榴彈、火箭、擲爆藥、旋條銃、小銃、拳銃、信管、鎗、刀、銃劍、小銃發火機、擊針、槳杖、革帶、藥莢、藥莢筐、胴亂、火藥、雷管、硝石、陣營需品、軍用器械、制服、兵員ノ服裝品、其他陸海軍用需品、汽機或ハ汽機ノ部分ヲ搭載セシヤ、上記ノ如キ軍用品ヲ逮捕ノ前或ハ當時船外ニ投棄セシヤ、上記ノ如キ軍用品ヲ書面上商品其他ノ名稱ヲ附シテ隱蔽セシヤ又現ニ隱蔽シ居ルヤ、此ノ如キ名義ヲ附シテ隱蔽スル貨物ノ記號ハ如何、上記ノ軍用品中該船寄航地ノ要塞兵營ノ用ニ供スルモノアルヤ又何種ノ物品ナルヤ、否ザレバ上記ノ軍用品又ハ其中ノ何品ハ實際何人ノ用ニ供シ何地ニ送致スルヤ、其方ハ該船ノ起航セシ或ハ物品ヲ搭載セシ邦國ニ上記物品ヲ私人ノ輸出スルヲ禁止スル法

律達令若クハ告諭アルヲ知ルヤ又ハ聞キシヤ、上記物品ハ官吏之ヲ搭載セシカ及何官吏ナルヤ、上記物品ヲ搭載セシ時所及人

(三十三)該船及載貨ノ逮捕セラレタル當時其眞實ノ所有主及到着地ニ關シ其方ノ知り或ハ信ズル所ヲ悉ク陳述スベシ

(三十四)該船ハ當航海或ハ其前何航海中如何ナル軍艦又ハ他ノ兵装セル船舶ノ護送ヲ受ケシコトアルカ、其護送ヲ受ケシ理由如何、護送艦船ノ兵力及所屬國如何、護送ヲ受ケタル各航海ニ於テ護送艦船ト共ニ駛航スルニ關シ如何ナル訓令ヲ何人ヨリ受ケシヤ、逮捕ニ抵抗シ或ハ之ヲ逃避スルコト又船内書類其他該船ニ在リシ或ハ有ルベキ何書類ヲ破毀或ハ隱蔽或ハ提出ヲ拒否スルコトニ關シ何人ヨリ訓令ヲ受ケシヤ、其訓令ノ大意及要點、其訓令又ハ其寫ヲ其方ハ所持スルヤ若シ所持セバ之ヲ訊問者ニ渡シ其誓書ニ附スベシ

(三十五)該船ハ當航海或ハ其前何航海中何交戰國ノ封鎖中ナル場所ヲ出入セント航行シ或ハ企圖セシ事アルヤ、此ノ如キコトアラバ該處ノ封鎖セラレシコトヲ初テ開知セシ時所及手續如何、其方ハ警告ヲ受ケシコトアルヤ又何時ナルヤ、其方ハ其封鎖地ヲ出デ或ハ入ル爲メ進行スベカラザルコト或ハ企圖スベカラザルコトノ警告ヲ何人ヨリ何處ニテ受ケシヤ、上記ノ事ニ關シ其方及警告者間ニ其他如何ナル會話通信ヲ爲セシヤ、警告ヲ受ケシ後其方ノ採リシ航路如何

(三十六)何封鎖地又ハ後日封鎖セラレベキ何地ニ關シ其方或ハ其他乗員中何人ガ如何ナル訓示ヲ何時何人ヨリ受ケシヤ、封鎖地或ハ封鎖セラレントスル地ニ關シ其方ハ如何ナル訓示ヲモ受ケザルコト又他ノ乗員ノ之ヲ受ケシヲ知ラズ且此ノ如キコトアルヲ信ゼザル旨ヲ宣誓シ得ルヤ

日佛通商航海條約抄

第十五條 兩締盟國ノ一方ノ保護ヲ受クル所ノ會社所有ノ船舶ニシテ郵便事務ヲ取扱フモノハ他ノ一方ノ諸港ニ於テ其向先ヲ變ジ又ハ差押、抑留出港禁止ノ處分ヲ受クベカラザルモノトス

第十六條 本條約ヲ適用スルニ方リ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルベキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト看認メ又佛蘭西國ノ國法ニ從ヒ佛蘭西國船舶ト看做サルベキ一切ノ船舶ハ之ヲ佛蘭西國船舶ト看認ムベシ

日獨領事職務條約抄

第十五條 總領事、領事、副領事及代辦領事ハ自由交通ヲ許サレタル本國船舶ニ自身ニ赴キ又ハ代理者ヲ派遣シテ乗組役員及海員ヲ訊問シ船舶書類ヲ檢閲シ航行ノ目的仕向地及航行中ノ事跡ヲ聞キ積荷目錄ヲ受領シ入港及出港手續ヲ爲スコトヲ幫助シ茲ニ通譯者又ハ附添者トシテ右役員及海員ニ附添ヒ駐在國ノ裁判所及行政官廳ニ出頭スルコトヲ得ベシ

兩國ノ一方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辦領事ノ駐在スル港ニ於テハ他ノ一方ノ官吏、公吏

ハ該領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ豫メ通知ヲ爲シタル後ニ非ザレバ普通ノ稅關上及衛生上ノ監督ノ外商船ニ赴キテ取調、引致、差押、搜索、訊問其ノ他各般ノ強制的處分ヲ施スルコトヲ得ザルモノトス

役員又ハ海員中ノ人員ヲシテ其ノ地ノ裁判所又ハ地方官廳ニテ證言又ハ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テモ領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ相當ノ時期ニ其趣ヲ通知スベシ而シテ右通知書ニハ之ヲ行フ爲メニ定メタル時刻ヲ記載スベシ若シ該領事官又ハ其ノ代理者出頭セザルトキハ裁判所又ハ地方ノ官廳ハ其ノ闕席ニ拘ハラズ直チニ之ヲ行フコトヲ得

普魯西國海上捕獲條例及捕獲事件審判手續裁可ニ關スル勅令

(千八百六十四年六月二十日發布)

著者曰ク普魯西ハ千八百八十五年法規ヲ改正發布セルコトホルツェンドルフニ明記セリ然ルニ本邦ニ其改正勅令ヲ見出ス能ハズ再版ノ節新令ヲ掲ケルコト、ナシ姑ク舊令ヲ掲ケ

朕本月十日附内閣上奏ニ據リ其上奏ト共ニ提出シタル海上捕獲條例并ニ海上捕獲事件審判手續ヲ裁可ス

(一) 海上捕獲條例

第一章 敵船若クハ嫌疑アル船舶ノ拿捕

第一條 敵船又ハ嫌疑アル船舶ヲ剋留シ及ビ拿捕スルハ王國軍艦獨リ其權ヲ有ス

第二條 敵國政府又ハ其人民ニ屬スル船舶(敵船)ハ凡テ之ヲ剋留シ拿捕スベキモノトス

第三條 中立國又ハ其人民ニ屬スル船舶(中立國船)ハ其積荷ノ何人ニ屬スルニ論ナク之ヲ拿捕スルヲ得ズ但シ第四條乃至第六條ニ列記シタル場合ニシテ其一ノ存スルトキハ此限ニアラズ

第四條 國籍ニ拘ラズ剋留スベキ船舶左ノ如シ

(一) 敵國又ハ敵國ノ一港ニ輸送スベキ戰時禁制品ヲ積載セル船舶但シ第七條第二號ノ場合ハ此限ニアラズ

(二) 剋留ニ強抗スル船舶

第五條 國籍ニ拘ラズ嫌疑アルモノトシテ剋留拿捕スベキモノ左ノ如シ

(一) 二様ノ航海諸證票ヲ有スル船舶又ハ偽造若ハ變造ノ疑アル航海諸證票ヲ有スル船舶

(二) 航海證票ヲ有セザル船舶又ハ航海證票ヲ拋棄シタル船舶殊ニ既ニ巡邏船ヲ見テ之ヲ拋棄シタル者

(三) 巡邏船ノ求メニ應ジテ其側ニ近寄ラズ又ハ進航ヲ止メザル船舶或ハ戰時禁制品又ハ航海證票ヲ藏匿セル嫌疑ノ諸室及諸器ヲ搜索スルヲ拒ム船舶

第六條 其所屬ノ國ヲ適當ニ證明シ得ザル船舶モ亦國籍ニ拘ラズ剋留拿捕ノ處分ヲ受ク
所屬國ヲ證明スルニ如何ナル證票ヲ要スルカハ其船舶所屬國ノ法律ニ依ル

第七條 捕獲物トスベキモノ左ノ如シ

(一) 敵船(第二條ニ載スル所ノ者)及其積貨但シ敵船ニ積載セル中立貨物ハ戰時禁制品ヲ除ク
ノ他ハ捕獲ヲ免ルベキモノトス

(二) 戰時禁制品ヲ積載セル船舶(第四條第一號ニ指ス所ノ者)及ビ其積載セル戰時禁制品
若シ僅カニ積載貨物ノ一部分ノミ戰時禁制品ナルトキハ船長ハ右戰時禁制品ヲ直チニ荷揚ゲシ又ハ最近港口ニ荷揚スルヲ得而シテ此場合ニ於テハ右船舶ハ拿捕ヲ免レ殘餘ノ貨物ヲ積載シテ妨ゲナク航行スルヲ得

(三) 剋留ニ強抗スル船舶(第四條第二號ニ指ス所ノ者)

(四) 嫌疑ノ爲メ拿捕セラレタル船舶ニシテ其嫌疑ノ解ケザル者

第八條 左ノ物件ニシテ敵ニ又ハ敵國ノ港口ニ輸送スベキ者ハ戰時禁制品ト見做スベシ

煩砲、臼砲、各種ノ武器、ボムベン彈、ガラナート彈、彈丸、雷管、火繩、硝藥、裝甲、軍裝諸品、鞍、轡、其他直接ニ戰鬪ニ用ウベキ物

前記ノ諸品ニシテ船舶ノ自由ニ供スノモノハ戰時禁制品ニ屬セズ

第九條 中立國ノ海上ニ於テ剋留拿捕ヲ行フヲ得ズ

第十條 自國ノ船舶敵ニ掠去セラレタルモノ再ビ之ヲ敵ヨリ取返シタル時ハ其船舶ハ回收捕獲物ト見做スベキ時ノ外ハ捕獲物トス

第十一條 船舶ヲ剋留シ臨檢搜索スルニ際シテハ巡邏船ノ指揮官左ノ順序ヲ守ルベキモノトス
指揮官ハ信號ヲ以テ船舶ニ命ズルニ巡邏船ニ近寄り又ハ進行ヲ止ムベキヲ以テス而シテ船長ニ命ジ諸證票ヲ携ヘ巡邏船ニ來ラシム此ノ如クニシテ別ニ恠シムベキ者ナキトキハ指揮官ハ其船舶ニ進航ヲ許ス之ニ反シ指揮官ニ於テ拿捕ヲ要スルノ嫌疑ヲ惹起スル理由アリトスルトキハ指揮官ハ尙詳細ノ事情ヲ探知スル爲メ士官ヲ其船舶ニ派遣ス士官ハ搜索ノ際閉鎖セル諸室、障屏、棚、箱、桶類其他器具ヲ自ラ開キ又ハ其封鎖ヲ破ルベカラズ搜索ヲ要スル船室等ハ船長ニ命ジテ之ヲ開カシムベシ又タ船中積載ノ貨物モ必ズ船長立合ノ上ニテ搜索スベシ

第十二條 中立國ノ軍艦ヲ以テ護送セラル、中立船ハ臨檢搜索ヲ受ケズ護送船ノ指揮官ヨリ其護送スル所ノ船舶ニハ航海諸證票整頓シ并ニ戰時禁制品ヲ積載セザル旨ノ説明アレバ之ヲ以

テ足レリトス

第十三條 船舶ヲ捕獲シタル巡邏船ノ指揮官ハ其積貨又ハ船舶所屬品ノ中一物タリトモ荷揚シ、賣卸シ、交易シ又ハ取除キ或ハ紛失スル等ノ事之レナキ様嚴ニ監視スベシ指揮官ハ捕獲セル船舶ノ船長或ハ水先案内者ヲシテ立合ノ上成ベキ丈ケ其積荷ヲ鎖鋼又ハ封印スベシ航海諸證票又ハ指揮官之ヲ自己及ビ拿捕セラレタル船長ノ記名セル目錄ト共ニ筐中ニ藏メ巡邏船ノ指揮官及ビ船長ノ印章ヲ捺シテ之ヲ封鎖スベシ

第十四條 巡邏船ノ指揮官ハ次デ夫々ノ措置ヲナスベシ即チ該船舶ヲ普魯西ノ港ニ押送スルガ爲メ又ハ其事行ハレ難キトキハ普魯西ト同盟セル國ノ港ニシテ軍備上ノ保護ヲ期スベキ所ヘ押送スル爲メ必要ノ場合ニ於テ士官一名ニ適當ノ人員ヲ付シ押送スベキ船舶ニ乗込マシム積荷ハ着港迄之ヲ開クヲ許サズ但右積荷ヲ保存スル爲メ之ヲ開クコトヲ船長又ハ其代理者ニ於テ承諾シタルトキハ此限ニアラズ

第十五條 右ノ船舶ヲ他港又ハ他ノ場所ヘ引致スルヲ許スハ只ダ暴風雨、食料缺乏等ノ爲メカ或ハ敵ノ追撃ニ遭ヒ又ハ其他ノ困難ニ遭遇シ不得已ノ場合ニ限ルモノトス此ノ如キ場合ニ於テモ該船舶ハ此等ノ事情ノ排除セラ、トキハ直ニ積貨ヲ開函スルコトナク第十四條ニ記セル港津ニ引致スベキモノトス

第十六條 若シ船舶破損ノ爲メ進行スベカラザルトキ或ハ其積荷腐敗シ易キ物品ナルトキハ巡

選船ノ指揮官又拿捕船ヲ指揮スル士官ハ船長并ニ若シ其場所ニ普魯西領事駐在セバ此領事立合ノ上船舶并ニ積貨ノ爲メ最モ利益アルベキ措置ヲ施スベキモノトス

第十七條 船舶ハ之ヲ第十四條記載スル港津ニ引致シタルトキハ直ニ其港津ノ警察廳或ハ海上捕獲審檢手續ニ關スル規定ニ從テ職權アル官吏ニ引渡シ而シテ右規則第八條及第三十九條ニ從テ取扱フモノトス

第十八條 拿捕セラレタル船舶ノ乗組人ハ事件ノ判決ニ至ルマデ官費ヲ以テ給養スルモノトス 捕獲物ノ判決ヲ終ルトキハ乗組人中敵國ノ人民ハ俘虜トシテ取扱ヒ交親國又ハ中立國ノ人民ハ該國ノ領事ニ引渡スモノトス

第十九條 捕獲物ヲ拿捕シタル巡邏船ノ指揮官ハ其拿捕ニ關シ詳細ノ報告ヲ其所屬官廳ニ呈出スベキモノトス

第二章 敵國ノ港口封鎖

第二十條 一艘又ハ數艘ノ軍艦ヲ以テ港津ヲ遮絶シ商船ヲシテ拿捕ノ虞ナク港口ニ入り又ハ港口ヲ出ルコトヲ得ザラシムルトキハ其港津ハ封鎖セラレタルモノト見做サル

第二十一條 封港ヲ實行スヘキ命ヲ受ケタル指揮官ハ封鎖スベキ場所ニ着シタル後該港駐在ノ各國領事ニ書面ヲ以テ封港ノ旨ヲ漏ナク通知スベシ且ツ同時ニ港内ニ碇泊スル中立國船舶ニ相當ノ期限内ニ同港ヨリ退航スベキ旨ヲ命スベシ右期限ハ各船長ノ意見ヲ聽取シタル後指揮

官ニ於テ定ムルモノトス

第二十二條 國籍ノ異同ヲ問ハズ封港ヲ破ラントシタル船舶ハ之ヲ拿捕スルヲ得ベク且ツ正常ノ捕獲物ト見做スヲ得尤モ第二十一條ノ期限内ニ封鎖セル港灣ヲ去航スル船舶ハ其封鎖ヲ破リタリトシテ之ヲ剋留拿捕スルヲ得ズ

第二十三條 中立國船舶ヲ見テ封港ヲ破ラントスルモノト認ムベキハ其船舶既ニ封港ノ行ハルルヲ知リタルトキニ限ル

第二十四條 該船ノ果シテ封港アルヲ知レルヤ否ヤハ其際ノ事情ニ依テ判定スベキモノトス即チ封港ノ告知以來經過シタル時日ノ長短ノ如キハ此判定ノ爲メニ殊ニ必要ナル件トス

封港艦ノ指揮官ニ於テ果シテ該船舶ハ封港ノコトヲ知ラザリシ者ト認定シタル場合ニ於テハ該船舶ニ封港アルコトヲ告ゲ其之ヲ告ゲタル趣ヲ航海諸證票殊ニ其船籍ノ所屬ヲ證スベキ證票并ニ航海日誌ニ記入シ其船舶ヲシテ之ヨリ退カシメ進航ノ方向ヲ轉ゼシムベシ

第二十五條 封鎖セル港津ヘ向ツテ出港シタル事或ハ封鎖セル港津ニ向ツテ進航スル事ハ未ダ以テ封鎖ヲ破ラントスルモノトハ視ルベカラズ

第二十六條 封港ヲ破リタルガ爲メ船舶ヲ拿捕スル場合ニ於テ此他ノ取扱方ハ第一章ノ規程ニ遵フ

シエルスヘスチムンダ
後 則

第二十七條 軍艦ノ指揮官及ビ士官ハ丁寧ニ本條例ノ諸則ヲ遵守スベシ若シ之ニ違背シタルト

キハ其責ニ任ズベク且ツ條例ニ違背シタル措置ニ於テ生ジタル損害ノ賠償ヲ命ゼラルベシ

第二十八條 本條例ハ必ず一部ヲ各巡邏ヲ行フ軍艦ニ備ヘ置クベキモノトス

(二) 海上捕獲審檢手續

第一章 海上捕獲會議ノ組織

第一條 海上捕獲ノ事件ヲ裁判スル爲メ別ニ一ノ官廳(海上捕獲議會)ヲ設置シ之ヲ伯林ニ開設ス

第二條 海上捕獲會議ハ議長一名ト他ノ僚員六名ヲ以テ成ルモノトス

海上捕獲會議ニ檢事一名ヲ置ク檢事ハ公共ノ利害ノ點ヨリ海上捕獲事件ヲ取扱ヒ海上捕獲會議ニ在テ必要ノ意見ヲ提出スルモノトス

第三條 捕獲會議ノ僚員及其檢事ハ王之ヲ勅任ス

第四條 海上捕獲會議ノ議長ハ高等裁判官タルベキ資格ヲ有スルモノトス他ノ僚員中ニハ海軍

上長官一名海軍省書記官一名外務省書記官一名及ビ裁判官ノ職ニ在ル者二名ナカルベカラズ

第五條 海上捕獲會議ノ僚員及其檢事ハ俸給ヲ與ヘズ

第六條 海上捕獲會議ハ司法大臣ノ裁判所ニ對スル監督權ノ規則ニ據リ外務海軍司法三大臣ノ共同ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 海上捕獲會議ハ議長ヲ加ヘテ五名ノ僚員出席シ始メテ議決ヲ爲スコトヲ得

第二章 海上捕獲事件裁判手續

第八條 捕獲物ヲ押送シタル船艦ノ指揮官右捕獲物ヲ海上捕獲條例第十四條ニ掲ゲタル内國ノ港口ニ引致シタルトキハ直ニ海上法事件擔當ノ裁判所若クハ右ノ裁判所ナキ所ニ在テ該港ヲ

管轄スル第一審ノ通常裁判所ニ押送ヲ行フニ至リタル事情ヲ記述セル書面ヲ提出スベシ右ノ書面ニハ殊ニ押送ヲ行フタル理由并ニ其押送ヲ行フタル物ヲ捕獲物トシテ判決スルヲ正當ト

スルニ適スル一切ノ事實ヲ掲載スベシ一切ノ書籍、諸證票、航海免狀、雇船證票、船積證書、書翰其他ノ文書ニシテ拿捕ノ際又ハ拿捕ノ後受取リタル者又ハ船中ニ於テ發見シタル者ハ悉ク右ノ供述書ニ添テ差出スベシ(海上拿捕條例第十三條ニ記シタル者)

該港若シ「ゲリヒッス、デフタチヨーン」又ハ「ゲリヒッス、コムミッシヨーン」ノ裁判管轄區域内ニ在ルトキハ其支廳ヲ以テ管轄裁判所ト看做スヲ得

第九條 裁判所ハ直チニ巡邏船指揮官又ハ捕獲物ヲ引致シタル者并ニ拿捕セラレタル船舶ノ船長ノ目前ニ於テ其呈出シタル諸文書ヲ開封シ其目錄ヲ調製スルモノトス同時ニ裁判官ヲシテ書記ヲ率ヒテ拿捕セラレタル船舶ノ船長及其乘組員ヨリ拿捕ノ事情并ニ拿捕ニ關スル事實ノ供述ヲ聽カシム若シ又事情ヲ詳悉スルニ必要トセバ拿捕ニ與カレル人員及ビ拿捕セラレタル船舶乗客ノ供述モ亦此際併セテ聽クベシ此諸人ノ供述、指揮官或ハ捕獲物ヲ拿捕セル者ヨリ

出セル書面ノ供述ト重要ノ點ニ於テ齟齬スルトキハ其齟齬ヲ辨明セシムル爲メ指揮官又ハ捕獲物拿捕者ヲ訊問スベシ又裁判所ハ審問手續ノ規則ニ從ヒ現在ノ證據ヲ擧ゲ其捕獲物ハ果シテ正當ノ順序ニ據テ拿捕セラレタルヤ而シテ該拿捕物ハ全ク捕獲物ト判決スベキヤ又ハ其一部分ヲ捕獲物トスベキヤ全ク放免スベキヤ其判決ヲ下スニ必要ナル事實ヲ可成速ニ確定スベキモノトス

然ル後裁判所ハ指揮官或ハ捕獲物拿捕者ノ供述并ニ拿捕ニ關スル一切ノ審問書類ヲ海上捕獲會議ノ檢事ニ送付ス

第十條 檢事ハ其受取リタル一切ノ書類ヲ自己ノ意見書ニ添ヘ海上捕獲會議ニ提出ス檢事其審問書ヲ審査スルニ際シテ捕獲物ノ放免セザルベカラザルヲ見ルトキハ其即時放免ヲ發議スベシ捕獲會議ニ於テ其發議ヲ正當トスルトキハ別ニ他ニ審問等ヲナスコトナク放免ノ判決ヲ下ス判決ノ書面ハ其他ノ書類ヲ添ヘテ之ヲ檢事ニ送致ス檢事ハ即チ捕獲物ヲ放免スルニ關シテ必要ノ手續ヲ爲ス

檢事ハ自己ノ意見書ヲ捕獲會議ニ出スノ前ニ於テ適當ノ官廳ニ照會シテ事情ヲ審査スルノ權アリ

第十一條 檢事若シ即時放免ヲ不當トスルトキハ凡ソ捕獲物トシテ判決セラレザル事ヲ利トスル關係者ヲシテ訴願ヲナスヲ得ベキ公告ヲ捕獲會議ニ求ム此ノ場合并ニ檢事ヨリ提出セル即

時放免ノ請求ヲ捕獲會議ニ於テ不當トスル場合ニ於テハ捕獲會議ハ前記ノ諸關係人ニ公告シ其ノ未ダ訴願ヲナササルモノハ十四日以内ニ書面ヲ以テ訴願ヲナサシム右公告ハ一回官報ニ掲載スベキモノトス而シテ其公告ニ應シテ出願セザル者ハ其權利ヲ失フ旨ヲ記載スルヲ要セズ

其期限前又ハ其期限内出願者ナキトキハ右期限經過後檢事ノ告發狀ニ從ヒ捕獲會議ニ於テ別ニ其他ニ審問等ヲナスコトナク判決ヲ下シ而シテ第十條ノ規程ニ從テ之ヲ檢事ニ通知ス

捕獲會議ハ出願者ナキ時ト雖モ其物ヲ捕獲物ト判決スルヲ以テ不當ト認ムルトキハ放免ノ判決ヲ爲スコトヲ得又捕獲物ト判決シタル場合ニ於テモ書面ヲ以テ訴願ヲ出サマリシ諸關係人ヲシテ其權利ヲ全ク失ハシムルヲ要セズ(審者案判決ノ場合ニ特ニ之ヲ明言スルヲ要セズトノ意ナラン)

第十二條 訴願ヲ提記シタル者アルトキハ左ノ規程ニ從テ之ヲ處分ス

第十三條 訴願ハ捕獲會議公告ノ前ニアルト後ニアルトニ論ナク書面ヲ以テ捕獲會議ニ差出スベキモノトス右書面ニハ代言付ノ記名ヲ要ス訴願書ニハ訴願ヲ確ムベキ爲メノ書類ヲ添ヘ并ニ其他ノ證據ヲ記載スベシ

第十四條 訴願ハ口審ニ基テ捕獲會議之ヲ判決ス但此際檢事及ヒ訴願者ノ口頭ノ陳述ヲ聽クベキモノトス

訴願者召喚ハ訴廷召喚ノ規則ニ從フ而シテ其召喚ニ應ゼザルモノモ權利ヲ失フ者トスルヲ要ス

セズ右召喚ハ訴願書ニ記名シタル代言人ニ宛ツルモ妨ナシ

訴願者ハ望ニ依リテ出廷期限前從來ノ審問書類ヲ閱覽シ又ハ其謄本ヲ得ベシ出廷ノ時ハ委任ヲ與ヘタル代言人ヲシテ代理セシムルヲ得

檢事ニハ開廷期限ノ通知ト共ニ書類ヲ示スベシ

第十五條 口審ハ捕獲會議ノ僚員ヨリ先ツ事件ノ現狀ヲ口述シテ之ヲ開ク之ヨリ訴願者及檢事ノ口述ヲ聽取スルモノトス此際ニ於テハ訴願者及檢事ニ新規ノ事實及證據ヲ提出スルヲ許ス第十六條 口審ヲ終結シタル後捕獲會議ハ判決ヲ爲シ及之ヲ宣告ス尤モ捕獲會議ハ之ヲ延期スルノ權アリ此場合ニ於テハ直チニ裁判宣告ノ期日ヲ定メ之ヲ檢事及訴願者ニ示スベシ右期日ニ當ツテ或ハ檢事ノミ或ハ訴願者ノミ出廷スル事アルモ其レガ爲メ宣言ヲ延期スルコトナシ雙方共ニ出廷セザル時ハ此際採録スル所ノ調書(第十九條ニ載ス所ノ者)ヲ以テ宣告ニ換ユ判決書ノ謄本ハ望ニ依リ檢事并ニ訴願者ニ附與スルヲ得

第十七條 捕獲會議若シ判決ノ前ニ於テ尙證據調ヲ必要トスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ命ズ檢事ハ職權アル官廳ニ照會シテ此ノ判決ヲ施行スルモノトス此ノ決定施行ノ後更ラニ口審ノ爲メ出廷期限ヲ定メ第十四條ノ規則ニ從ヒ訴願者ヲ召喚シ并ニ訴願者ニ證據調ノ謄本ヲ送附ス此口審ニ於テモ檢事及訴願者ハ新ニ事實及證據ヲ提出スルコトヲ得

第十八條 訴願者口審ノ期限ニ出廷セザルモ辯論及判決ハ式ノ如ク執行ス原狀回復ハ之ヲ許サ

ズ但シ捕獲會議ニ於テ或ハ相當ノ申立ニ依リ或ハ職權ニ依リ其事件ノ審問ヲ延期スルハ固ヨリ此限ニアラズ

第十九條 捕獲會議ニ於ケル審問ハ公行セズ

捕獲會議ニ於ケル凡テノ審問ハ誓言セル書記ヲシテ調書ニ採録セシム右調書ハ檢事及訴願書ノ説明意見ニシテ重要ナル者、捕獲會議ノ決定、判決及裁判宣告ノ事ヲ採録シ其中檢事及訴願者ノ意見及説明ヲ記載セル箇所ヲ檢事及訴願者ノ面前ニ朗讀シ其補フベキハ補ヒ改ムベキハ改メ而シテ後捕獲會議議長及書記之ニ署名ス

第二十條 捕獲會議ノ判決ニ對シテハ高等海上捕獲會議ニ控訴スルヲ得

第二十一條 高等海上捕獲會議ハ議長上等裁判所長若クハ副長一名之ニ首席シ左ノ僚員ヲ以テ成ルモノトス

海軍省中ノ「ブレイゼス」一名

外務省中ノ局長一名

商務省中ノ工務局長

上等裁判所僚員三名

高等海上捕獲會議議長及其他該會ノ僚員ハ王之ヲ任ズ

第五條ノ定期ハ高等捕獲會議僚員ニモ適用スベキモノトス

第二十二條 控訴ハ檢事ニ於テモ訴願者ニ於テモ之ヲナスコトヲ得

第二十三條 控訴期限ハ十日間トス控訴期限ハ裁判宣告ノ日ヨリ始マル而シテ宣告ノ當日ハ期限内ニ算入セズ

第二十四條 控訴ハ書面ヲ捕獲會議ニ呈出シテ之ヲ爲シ其書面ハ訴願ノ趣旨ヲ記載シ詳細ニ其理由ヲ述フベキモノトス

訴願者ノ控訴狀ハ代言人一名ノ記名ヲ要ス

檢事ノ控訴狀ハ捕獲會議之ヲ訴願者ニ示シ訴願者ノ控訴狀ハ之ヲ檢事ニ示シ十日ノ不變期間内ニ答辯ヲナサシム訴願者ノ答辯ハ代言人一名ノ記名ヲ要ス

答辯期ヲ經過シタル後又ハ答辯書ヲ呈出シタル後捕獲會議ハ書類ヲ高等捕獲會議ニ送致ス

第二十五條 高等捕獲會議ハ右書類并ニ僚員中ノ報告委員ヨリ差出シタル意見書ニ基キ控訴中更ラニ有効トナリタル事實及證據ヲ參照シ裁決ヲ下スモノトス

高等捕獲會議ニ於テ尙詳細ノ調査ヲ要スルモノト認ムルトキハ書類ヲ捕獲會議ニ返附ス此時ハ檢事其調査ノ事ヲ措置スルコト恰モ捕獲會議ニ於テ之ヲ命ジタルトキノ如クス(第十七條ニ掲グル者)右調査ニ關スル書類ハ再ビ一切ノ書類ヲ高等會議ニ送附スルノ前ニ於テ訴願者ニ示スベキ者トス

高等捕獲會議ノ判決ハ捕獲會議ヨリ其謄本ヲ製シテ檢事及訴願者ニ宣告スルモノトス

第七條ノ規則ハ高等捕獲會議ニモ適用スベシ

第二十六條 第十條第十一條ノ場合ニ於テモ檢事ハ捕獲會議放免ノ判決ニ對シ判決ノ當日ヲ除キ其日ヨリ十日間ノ期限内ニ第二十四條ノ規則ニ從テ控訴ヲ爲スコトヲ得既ニ控訴ヲナシテヨリ後ノ手續ハ第二十四條第二十五條中其訴願者ニ關スル規則ヲ除キ其他ノ規則ニ據ルモノトス

捕獲物ト判定シタル判決ニ對シテハ第十一條ノ場合ニ於テ適當ノ期限内ニ書面ヲ以テ捕獲會議ニ出願セザリシモノハ控訴ノ道ニヨルモ歎願ニヨルモ再審ヲ請求スルヲ得ズ

第二十七條 高等捕獲會議ノ判決ヲ以テ最終決トス

第二十八條 捕獲會議及高等捕獲會議ハ其判決ニ理由ヲ附スベシ

第二十九條 捕獲會議及高等捕獲會議ハ其判決ニ當テ一定ノ證據規則ニ據ルヲ要セズ一ノ事實ハ幾分迄證據立テラレタルヤ否ヤヲ判定スルハ審問及證據物全體ヨリ得タル自己ノ心證ニ據ル一ツノ事實又ハ文書ニシテ其説明ナキモノ幾分迄ハ承認スベキヤヲ判定スルモ亦其ノ事件ノ狀態ニ應ジテ判定ス

法理上ニ關スル判決ノ規程ハ既ニ發令セラレタル海上捕獲規則ニ據リ其中若シ據ルベキ者ナキトキハ萬國公法ノ原則ニ據ル但シ中立國ト締結シタル條約ヲ願照シ及ビ適當ノ場合ニ於テ報復ヲ行フコトハ固ヨリ此限ニアラズ

第三十條 他國領事又ハ理事官ノ意見并ニ注意ハ唯ダ檢事ヲ經テ捕獲會議及高等捕獲會議ニ達スベキモノトス

第三十一條 訴願數件ナルトキハ同時ニ審問シ判決ス

第三十二條 捕獲會議及高等捕獲會議ハ損害及費用賠償ノ義務殊ニ捕獲條例第二十七條ノ場合ニ關シ判決ヲ下スノ權ナシ

第三十三條 捕獲事件裁判ニ於テハ裁判費用及ビ消印稅ヲ要セズ

捕獲物トシテ判決アリタル場合ニ於テ其實費ハ捕獲物代價ヲ以テ之ヲ支辨スルモノトス

第三章 假處分并ニ判決執行

第三十四條 押送シタル船舶ハ捕獲條例第十七條ニ從ヒ指揮官又ハ押送者ヨリ港口警察廳ニ引渡シタル後警察廳ハ船舶及積貨ノ保護并ニ乗組員ノ監視給養ニ必要ノ處分ヲ施スベシ警察廳ハ又必要ト認ムル場合ニ於テハ港口ノ軍事ノ官廳ニ協議シテ之ヲ取計フベシ船舶及積荷ニ關シテハ其事ニ諳練ナルモノヲシテ誓言ヲナサシメ之ヲシテ立會ハシメ警察廳ニ於テ目錄ヲ製ス此ヲ製スルハ可成之ニ關スル船舶ノ證票ヲ基礎トス而シテ封鎖若クハ閉遮セル船室モ其際開鎖ヲ必要トスルトキハ之ヲ開カシム

船長及乗組人員ハ第九條ノ審問ヲ終リ次第隨意ニ陸上ト交通スルヲ許ス乗客ハ即時ニ放還スベキモノトス

第三十五條 捕獲會議ノ判決ヲ終ル迄ハ左ニ列記スル所ノ外ニ現狀ヲ變更スベキ措置又ハ第三十四條ニ適セザル措置ヲ施スベカラズ

(一)積貨一切又ハ其一部分ヲ捕獲物トスベカラザルコト確カナルトキニ於テハ右積貨又ハ其捕獲物トスベカラザルコトノ確カナル部分ハ即時ニ放還ス船舶モ亦然リ其船舶ハ捕獲物トスベカラズ唯ダ積貨ノミ捕獲物トスベキコト確カナル場合ニ於テハ船舶ハ即時放還スベキモノトス

(二)積貨ノ性質甚ダ腐敗シ易キモノニシテ其儘ニ放置スルトキハ巨大ノ損失ヲ醸スベキモノナルトキ此損失ヲ避クルニ必要トセバ積貨ヲ悉ク又ハ一部分丈ケ陸揚ゲシ之ヲ倉庫ニ貯ヘ又ハ賣却シ而シテ其賣却代金ヲ裁判所ニ於テ保管スルヲ得

(三)船舶修繕ヲ要スベキモノニシテ若シ修繕ヲ加ヘザレバ巨大ノ損傷ヲ生ズルカ又ハ價ヲ減ズルガ爲メ其ノ儘久シク繫留スベカラザルトキハ修繕ヲ加フ又其船舶殊ニ修繕ニ堪ヘザルカ或ハ修繕スルニ足ラザルトキハ之ヲ賣却シ其代價ヲ裁判所ニ保管ス

(四)損害ヲ免ル、爲メ事情ニ依テハ尙其他ノ措置ヲ施スヲ得

(五)乗組人ヲシテ審問後隨意ニ陸上ト交通セシムルヲ以テ危險ナリトスル場合ニ於テハ全ク其交通ヲ遮絶シ又ハ幾分ヲ制限スルヲ得

以上列記フル措置ハ港口警察廳若シクハ第三ノ關係人ヨリノ申立ニ依テ唯ダ第八條ニ掲ゲタ

ル裁判所ヨリ命ズルヲ得ルモノトス該裁判所ハ若シ危險ナシトスルトキハ判決ノ前ニ於テ其事件ノ關係アル者ヲ審問シ并ニ捕獲會議檢事ノ意見ヲ聽クヲ得裁判所ノ判決ニ對シ不服ナルモノハ捕獲會議ニ訴願シ其判決ヲ求ムルヲ得

第五項ノ措置ハ裁判所其職權ヲ以テ之ヲ命ズルコトヲ得此場合ニ於テモ其處分ニ對シテ捕獲會議ニ訴願ヲ呈出スルヲ得

第三十六條 捕獲物ハ檢事ノ申立ニ依リ捕獲會議ニ於テ判決ヲ下シタル後港口警察廳ニ於テ之ヲ公賣ニ附ス

其代價ハ費用ヲ引去リテ殘餘ヲ國庫ニ納ム捕獲物ヲ押送シタル軍艦ノ士官及ビ乘組人ハ賣却代價純額三分ノ一ヲ享クベキモノトス而シテ其各自配當ノ等差ハ海軍大臣ヨリ達スベキ條規ニ遵フ

第三十七條 捕獲會議ニ於テ捕獲物トスベキ判決ヲ爲シタルトキハ其判決就中乘組人ノ處分及其給養ニ關スル判決ハ假執行ヲナスコトヲ得(捕獲條例第十七條ニ載ス所ノ者)但シ捕獲會議ニ於テ假執行ヲ爲ササル旨ヲ決定シタル場合或ハ其事件高等捕獲會議ニ移サレタル後高等捕獲會議ニ於テ假執行ヲ爲ササル旨ヲ決定シタル場合ハ此限ニアラズ訴願者其執行ヲ免ル、ハ訴願者ヨリ裁判所ニ現金又ハ內國ニ於テ相場ヲ有スル有價證券ヲ以テ保證金ヲ納メ其裁判執行ニ依テ生ズベキ費用及損害ヲ保證スルトキノミトス有價證券ノ價ハ其時ノ相場ニ據ル

保證金ニ要スル金額ハ捕獲會議ノ隨意ノ認定ニ依テ之ヲ定メシム

捕獲會議放還ノ判決ハ控訴期限ヲ經過シタル後又ハ控訴棄却セラレタル後始メテ執行スルヲ得ベシ

後 則

第三十八條 前諸條ノ規則ハ船舶ヲ拿捕セズシテ其積貨ノミ港口ニ押送シ又ハ船舶或ハ積貨ノ賣却代價ノミヲ港口ニ押送シタルトキ(捕獲條例第十六條)モ亦之ヲ適用スベシ

然レドモ敵國軍艦ヲ掠取シタル場合ニ於テハ此規則ヲ適用セス

第三十九條 拿捕シタル船舶ヲ普魯西同盟國ノ港口ニ引致シタルトキハ(捕獲條例第十四條ノ場合)前諸條中裁判所及港口警察廳ノ施行スベキ事務ハ外務大臣及海軍大臣ヨリ特ニ命ズル所ノ官吏之ヲ行フ

日本帝國捕獲審檢令

明治二十七年八月二十日勅令第四百四十九號ヲ以テ發布セラレ明治三十七年勅令第五十號(三月二月ノ官報)ヲ以テ左ノ通り改正セラレタルモノナリ

第一章 捕獲審檢所 高等捕獲審權所組織及職權

第一條 捕獲審檢ハ第一次ニ於テ捕獲審檢所第二次ニ於テ高等捕獲審檢所之ヲ檢定ス

第二條 各捕獲審檢所ニ長官一人及評定官八人ヲ置ク

長官ハ勅任判事ヲ以テ之ニ補ス

評定官ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ補ス

(一)判事(二)海軍將校(三)海軍省參事官及主理(四)法制局參事官(五)外務省參事官、外務書記官、外交官及領事官

第三條 高等捕獲審檢所ニ長官一人及評定官八人ヲ置ク

長官ハ樞密顧問官ヲ以テ之ニ補ス

評定官ノ中一人ハ樞密顧問官二人ハ海軍將官三人ハ大審院ノ判事一人ハ法制局長官一人ハ外務局長ヲ以テ之ニ補ス

第四條 捕獲審檢所長官及高等捕獲審檢所長官ハ各其審檢所ノ事務ヲ總理シ自カラ審檢ノ首席

トナリ故障アルトキハ各其審檢所ノ評定官ニ首席ヲ命ズルコトヲ得

第五條 各捕獲審檢所ニ檢察官三人高等捕獲檢察官二人ヲ置ク

檢察官ハ主理檢事及高等行政官ノ中ヨリ之ニ補ス

第五條ノ二、高等捕獲審檢所ニ事務官一人ヲ置キ高等行政官ヲ以テ之ニ補ス

第六條 捕獲審檢所及高等審檢所ノ長官評定官及檢察官并ニ捕獲審檢所事務官ハ内閣總理大臣ノ上奏ニヨリ之ニ補ス

第七條 各捕獲審檢所及高等捕獲審檢所ニ書記ヲ置ク

書記ハ判任官ノ中ヨリ各長官之ヲ命ズ

第八條 各捕獲審檢所ノ審檢ハ首席及評定官ヲ併セテ五人以上列席會議ヲ要ス但シ内二人ハ判事ヨリ補セラレタル者タルベシ

高等捕獲審檢所ノ審檢ハ首席及評定官ヲ併セテ七人以上ノ列席會議ヲ要ス

第九條 捕獲審檢所ノ開閉ハ臨時勅令ヲ以テ之ヲ定ム高等捕獲審檢所ハ之ヲ東京ニ置ク

捕獲審檢所ノ位置ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二章 捕獲審檢手續

第十條 拿捕ヲ行ヒタル艦船ノ指揮官ハ拿捕シタル船舶ヲ捕獲審檢所所在ノ港内ニ引致シ又ハ代理士官ヲ其船内ニ乗込マシメ同港ニ廻港ヲ命ジ到達ノ上供述書ヲ添ヘ之ヲ審檢所ニ引渡ス

ベシ但其ノ船舶ヲ引致シ難キ事由アルトキハ供述書ノミヲ提出スルコトヲ得

供述書ニハ拿捕ヲ行ヒタル理由并ニ其行爲ノ正當ナルヲ證スベキ一切ノ事實ヲ記載シ之ニ拿捕シタル船舶ノ船長若クハ海員ヨリ受取り又ハ其船内ニ於テ發見シタル一切ノ帳簿及書類ヲ添附スベシ

第十一條 捕獲審檢所長官第十條ノ供述書ヲ受取りタルトキハ其事件ニツキ評定官ノ一名ヲ指名シテ擔任評定官トナスベシ

擔任評定官ハ直チニ指揮官又ハ代理士官并ニ拿捕セラレタル船舶ノ船長ノ面前ニ於テ提出書類ヲ開封シ其目錄ヲ調製スベシ

擔任評定官前項ノ手續ヲ了ヘタルトキハ拿捕シタル船舶及其ノ搭載物件ヲ臨檢シテ船長ヲ立會ハシメ詳細ナル物件目錄ヲ調製スベシ

前條第一項但書ノ場合ニ於テハ前項ニ依ラザルコトヲ得

第十二條 擔任評定官ハ拿捕セラレタル船舶ノ船長及海員ノ申供ヲ聽取リ又必要ト認ムルトキハ拿捕ヲ行ヒタル艦船ノ乗員并ニ拿捕セラレタル船舶ノ乗客ノ申供ヲ聽取リ書記ヲシテ筆記セシムベシ

第十二條ノ二、擔當評定官必要ナリト認ムルトキハ鑑定人ヲ命ジ事項ヲ指定シテ之ヲ鑑定セシムルコトヲ得

第十三條 擔任評定官拿捕ノ全部若クハ一部ヲ捕獲トスベキカ又ハ解放スベキカラ檢定スルニ必要ト認ムル事實ノ調査ヲ了ヘタルトキハ其調査書ヲ作り之ニ第十條ノ供述書及ビ其附屬書類ヲ添ヘ捕獲審檢所檢察官ニ送附スベシ

第十四條 檢察官ハ檢定ニ關スル意見書ヲ作り其送附ヲ受ケタル一切ノ書類ヲ添ヘ捕獲審檢所ニ提出スベシ

檢察官意見書ヲ作ル爲ニ必要トスルトキハ事項ヲ指定シテ其調査ヲ擔任評定官ニ求ムルコトヲ得

第十五條 檢察官ノ意見書ニ於テ拿捕シタル物件ヲ即時解放スベキ旨ヲ主張シ捕獲審檢所ニ於テモ亦之ヲ正當ト認ムルトキハ捕獲審檢所ハ即時解放ノ檢定書ヲ作り之ヲ檢察官ニ送附スベシ

第十六條 檢察官ノ意見書ニ於テ捕獲ト檢定スベキコトヲ主張スル場合并ニ捕獲審檢所ニ於テ檢察官ノ即時解放ヲ主張スル意見書ヲ不當ト認ムル場合ニ於テハ捕獲審檢所ハ公告ノ手續ヲ爲スベシ

前項ノ公告ニハ利害關係人ハ公告ノ翌日ヨリ起算シテ三十日以内ニ書面ヲ以テ訴願スルコトヲ得ル旨ヲ記載シ之ヲ官報及帝國内ニ於テ外國語ヲ以テ發刊スル二種ノ新聞紙ニ掲載スベシ
前項ノ期間内ニ訴願書ヲ差出ス者ナキトキハ捕獲審檢所ハ直ニ審檢ノ手續ヲ爲スベシ但檢察

官ノ申請アルトキハ別ニ審問ノ手續ヲナサズ直ニ檢定ヲナシ檢定書ヲ檢察官ニ送附スベシ

第十七條 訴願書ニハ訴願ノ要旨ヲ述ベ其證據トナルベキ書類物件ヲ添附スベシ

訴願人ハ帝國ノ辯護士ニ限り之ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第十七條ノ二、訴願人又ハ其ノ代理人捕獲審檢所所在地ニ住所ヲ有セザルトキハ書類ノ送達ヲ受クル爲其ノ所在地ニ假住所ヲ定メ捕獲審檢所ニ届出ヅベシ

前項ノ届出ヲ爲サザルトキハ書類ノ送達ハ郵便ニ付シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ本令ノ定メタル期間ハ郵便ニ付シタル日ヨリ起算ス

第十八條 訴願期間内ニ訴願書ヲ差出シタル者アルトキハ日時ヲ指定シテ口頭審問ヲ開キ檢察官及訴願人ヲシテ陳述ヲナサシム但訴願人許可ヲ得ズシテ缺席シタルトキハ缺席ノ儘審問ヲ開クコトヲ得

口頭審問ヲ了ヘタルトキハ檢定書ヲ作り直ニ又ハ日時ヲ指定シテ之ヲ宣告スベシ但シ訴願人出席スルヲ必要トセズ

第十九條 捕獲審檢所ニ於テ檢定ニ至ルマデノ間更ニ證據調査ヲ必要トスルトキハ其調査ヲ擔任評定官ニ命ズルコトヲ得

檢察官及訴願人ハ檢定ニ至ルマデノ間新ナル事實及證據ヲ提出スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ於テ捕獲審檢所ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ口頭審問ヲ開クコトヲ得

第二十條 前數條ノ外捕獲審檢所ノ審檢ノ手續ニ關スル規程ハ同審檢所之ヲ定ム

第二十一條 檢察官及訴願人ハ捕獲審檢所ノ檢定ニ對シ高等捕獲審檢所ニ抗議ヲナスコトヲ得

第二十二條 抗議ノ期間ハ檢定宣告又ハ檢定書送附ノ翌日ヨリ起算シテ二十日トス

第二十三條 抗議ハ抗議書ヲ捕獲審檢所ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

抗議書ニハ抗議ノ要旨ヲ述ベ其理由ヲ詳記スベシ

訴願人ノ抗議書ニハ帝國ノ辯護士ノ記名ヲ要ス

第二十三條ノ二、捕獲審檢所ハ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタル抗議ハ之ヲ却下スベシ

方式ニ違ヒタル場合ニシテ年月日宛名其他重要ナラザル事項ニ付テハ捕獲審檢所ハ補正ヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 捕獲審檢所ハ前條ニ依リテ却下スベキ場合ヲ除クノ外檢察官ノ抗議書ハ其ノ謄本

ヲ訴願人ニ送達シ訴願人ノ抗議書ハ之ヲ檢察官ニ示シ十日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシム

前項訴願人ノ答辯書ニハ帝國ノ辯護士ノ記名ヲ要ス

第二十四條ノ二、捕獲審檢所必要アリト認ムルトキハ第十六條第二十二條及第二十四條ノ期間

ヲ延長スルコトヲ得

第二十五條 答辯期間ノ經過シタルトキハ捕獲審檢所ハ抗議ノ書類ヲ高等捕獲審檢所ニ廻送ス

ベシ

高等捕獲審檢所ニ於テ更ニ事實若クハ證據ノ調査ヲ要スト認ムルトキハ前項ノ書類ヲ捕獲審檢所ニ返送シテ調査ヲ命ズ

捕獲審檢所ハ擔任評定官ヲシテ前項ノ調査ヲ爲サシメ其書類ハ之ヲ高等捕獲審檢所ニ提出スル前ニ檢察官及訴願人ニ示スベシ

第二十六條 高等捕獲審檢所ハ書類ニヨリ檢定ヲ爲シ檢定書ノ謄本ヲ原檢定シタル捕獲審檢所ノ檢察官及訴願人ニ送付スベシ

第二十六條ノ二、捕獲審檢所及高等審檢所ノ檢定確定シタルトキハ其ノ要旨ヲ官報ニ掲載スベシ

第二十六條ノ三、捕獲審檢所及高等捕獲審檢所ニ於テハ日本語ヲ用フ

日本語ニ通セザル者ヲ取調ブルトキハ通事ヲ用フルコトヲ得

第二十七條 高等捕獲審檢所ノ審檢ノ手續ニ關スル規程ハ同審檢所之レヲ定ム

第二十八條 捕獲ト檢定セラレタル物件ハ國ノ所得トス

第二十九條 捕獲審檢所拿捕シタル船舶及貨物ノ保管ヲ檢定執行ニ至ル迄ノ間海軍軍衙ニ委託スベシ

海軍軍衙ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ前項ノ船舶及貨物ヲ保管スベシ

第三十條 檢定ノ執行ハ捕獲審檢所ノ檢察官之ヲナス

捕獲審檢所ノ檢察官檢定ノ執行ニ關シ海軍軍衙ノ援助ヲ求メ及警察吏ヲ使用スルコトヲ得

第三十一條 本章ノ規程ハ特別ノ事情ニ依リ船舶ヲ引致セザル場合ニ於テモ施行シ得ベキ範圍ニ於テ之ヲ準用ス

附則

第三十二條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

日本帝國捕獲規程

此規程ハ明治二十八年ノ役ニ Instruction 訓令トシテ海軍將校ニ發シタルモノナリ今回日露戰爭ノ新規程ハ他日發表ノ上之レト引替ヘ掲載ス

日本帝國捕獲規程

今般捕獲規程別冊之通制定候條此旨心得可シ

明治二十七年九月七日

大本營

捕獲規程

第一章 船舶ノ拿捕

第一條 帝國軍艦ハ敵船若クハ嫌疑アル船舶ノ進航ヲ止メ之ヲ拿捕スルコトヲ得

第二條 左記ノ船舶ハ敵船トシテ拿捕スルコトヲ得

- 一 運送船トシテ敵國政府ノ備入レタル船舶其ノ備入敵國政府ノ脅迫ニ依レル時亦同シ
- 二 敵國ノ旗章及通航券ヲ有スル船舶
- 三 敵國政府ノ免狀ニ依リ航海スル船舶
- 四 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハズ敵國軍艦ノ保護ノ下ニ航海スル船舶

五 假令船舶書類面ハ帝國臣民若クハ同盟國若クハ中立國ノ船ナルモ一部若クハ全部敵ノ所有ニ係ル船舶

六 外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ其ノ船舶ハ出港後ニ敵ヨリ買受ケタルモノニシテ尙ホ進航中ニアリテ未ダ其ノ人ノ占有ニ歸セザルモノ

七 外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ若シ其ノ所有者開戦後若クハ開戦前豫メ開戦ヲ慮リテ該船舶ノ所有權ヲ敵ヨリ得タルモノナルトキハ取引ノ善意ニシテ且ツ既ニ完了セル證明充分ナラザルモノ

第三條 左記ノ敵船ハ拿捕スベカラズ

一 沿海漁船

二 學術、慈善、教法ノ爲ニ航行スル船舶

三 病者、負傷者ヲ輸送スル船舶

四 燈臺用船

第四條 中立國若クハ其ノ臣民ノ船舶ハ其ノ荷物ノ何人ニ屬スルヲ問ハズ第五條第六條ニ記載セル場合ヲ除キ拿捕スルコトヲ得ズ

第五條 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハズ左記ノ船舶ハ拿捕スルコトヲ得

一 敵ノ陸海軍若クハ敵國ノ津港ニ寄航シ若クハ到着スベキ船舶ニシテ戰時禁制品ヲ搭載ス

ルモノ

二 暴力ヲ以テ臨檢ニ抵抗スルモノ

第六條 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハズ左記ノ船舶ハ嫌疑アリトシテ拿捕スルコトヲ得

一 船舶ノ書類ニ様々有シ又ハ偽造若クハ變造書類ヲ備フルモノ

二 初ヨリ船舶ノ書類ヲ備ヘザルカ又ハ之ヲ隱匿シ若クハ毀棄シタルモノ

三 軍艦ヨリ信號アルニモ拘ハラズ進航ヲ中止セズ臨檢ヲ免レントシタルモノ

四 暴力ヲ以テ搜索ニ抵抗スルモノ

五 國籍ヲ證明スル書類ヲ提供シ能ハザルモノ

第七條 左記ノ船舶及貨物ヲ以テ適法ノ捕獲ナリトス

一 敵船及其ノ搭載セル貨物但中立國貨物ハ假令敵船ニ搭載シアルモ戰時禁制品ヲ除クノ外ハ之ヲ捕獲ト爲スコトヲ得ズ

二 戰時禁制品

三 戰時禁制品若クハ戰時禁制品ヲ運搬スル船舶

四 暴力ヲ以テ臨檢ニ抵抗セル船舶

五 嫌疑アリトシテ拿捕セラレ該嫌疑ヲ終ニ説明シ得ザル船舶

六 封港犯

第八條 戰時禁制人トハ敵兵其ノ他敵國ノ軍事ニ從フ者ヲ云フ

第九條 戰時禁制書トハ敵國政府ノ官吏間ニ往復スル一切ノ公文書類ヲ云フ但敵國外交官及領事官ト本國政府トノ間ニ往復スル公文書類ハ戰時禁制書ト爲スコトヲ得ズ

第十條 左記ノ物品ヲ以テ戰時禁制品トス

一 兵器、彈藥、爆發物、硝石及硫黃其ノ他總テ單ニ戰爭ノ用ニ供スル物品

以上ノ物品ハ敵國ノ津港ニ寄航シ若クハ到達スベキ又ハ敵ノ陸海軍ニ到達スベキ一切ノ場合ニ於テ戰時禁制品トス

二 糧食及飲用品、通貨、電信架設ノ材料(線、白金、硫酸亞鉛「ボーラス、カッブス」)鐵道布設ノ材料(鐵條、枕木等)石炭、材木等

以上ノ物品ハ敵ノ陸海軍ニ到達スベキ場合又ハ敵國ノ津港ニ到達スルモノニシテ其ノ到達地如何ニ依リ敵ノ陸海軍用ニ供スルモノト認ムベキ場合ニ限リ戰時禁制品トス

一、二、列記ノ物品中ノ分量及性質ニ依リ特ニ該運搬船舶ノ自用ニ供スルコト明カナルトキハ戰時禁制品トスルコトヲ得ズ

第十一條 中立國領海ニ於テ臨檢搜索及拿捕スルコトヲ得ズ

第十二條 艦長ハ船舶進航ノ中止ヲ命ジ臨檢及搜索ヲ爲スニ當リ左ノ規定ニ從フベキモノトス

一 艦長ハ船舶ノ拿捕スベキ疑アル場合ニ限リ臨檢員ヲ指命シ臨檢ヲ行フモノトス

二 進航ノ中止ハ信號旗及汽笛ニ依リ之ヲ命ズルモノトス但シ天候ノ爲信號旗ヲ以テ臨檢ノ意ヲ船舶ニ通ジ得ザル時若クハ該信號ニ應ゼザル時ハ空砲二發ニ依リ之ヲ命ズルモノトス

之ニテモ止マザルトキハ實彈ヲ打ツモノトス

三 臨檢員ハ先ヅ船舶ノ書類ヲ點檢スベシ書類其他ノ點ニ於テ疑ナシト斷定スルトキハ直ニ放免スベシ

四 臨檢員疑アリト思考スルトキハ船内ヲ搜索シ疑ナキトキハ直ニ放免スベシ

五 搜索ハ船長若クハ其ノ代理者立合ノ上之ヲ爲スモノトス

六 閉鎖シタル場所及器具ハ船長若クハ其ノ代理者ヲシテ之ヲ開カシムルモノトス拒ムトキハ臨檢ノ取計ヲ爲スベシ

七 臨檢士官ニ於テ戰時禁制品ノ積荷ナキ事ヲ認ムルトキハ之ヲ該船舶ノ航海日誌ニ記載シ次回臨檢スル士官ノ參考ト爲スベシ

八 船長ノ臨檢及搜索ニ異議ヲ唱ヘタルヤ否ヤラ該船舶航海日誌ニ記載シ異議ヲ唱ヘタルトキハ異議ノ理由ヲ記載スベシ

第十三條 臨檢及搜索ニ因リ艦長若シ該船ニ嫌疑アリト思考スルトキハ船長ニ說明ノ便ヲ與フベシ船長說明ノ後尙ホ拿捕スベキ證據アリト信ズルトキハ該船ヲ拿捕スベキモノトス

拿捕すべき證據トハ 一、船ノ性質、艙裝及積荷 二、該船ノ書類 三、船長及水夫ノ證言等ヲ云フ

第十四條 艦長若シ該船ヲ拿捕スベキモノト決定スルトキハ船長ニ拿捕ノ理由ヲ告ゲ士官一名ト下士卒數名ヲ該船舶ニ派遣シ之ヲ占有スルモノトス若シ天候若クハ他ノ事故ノ爲メ士官及下士卒ヲ派遣スルコト能ハザルトキハ該船舶ヲシテ旗章ヲ撤シ艦長ノ命ニ從ヒ進航セシムルモノトス

第十五條 船舶ヲ拿捕シタルトキハ艦長ハ主トシテ船舶内ニ現存スル一切ノ書類特ニ船舶及積荷ニ關スル書類ヲ保管スルコトヲ務ムベシ但各書類ニ番號ヲ附シテ封緘シ之ニ艦長及船長ノ印章ヲ捺シ第一號若クハ第二號形式ノ書類ヲ添フベシ

第十六條 船舶ヲ拿捕シタルトキハ艦長ハ該船ノ通貨及有價物ヲ點檢シ第三號形式ノ明細表二通ヲ製シ一通ヲ船長ニ附與スベシ

第十七條 船舶ヲ拿捕シタル後艦長ニ於テ拿捕ノ不當ナル事實ヲ確知シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ放免スベシ

第十八條 拿捕シタル船舶ハ艦長速ニ之ヲ捕獲審檢所所在港若クハ捕獲審檢所最近ノ港ニ引致スベシ

臨機必要ト認ムル場合ニ於テ艦長ハ第十四條ニ依リ乘込マシメタル士官ニ委任シ又ハ別ニ士

官ヲ乘込マシメ委任シテ拿捕船舶ヲ前項ノ港ニ廻航セシムルコトヲ得

第十九條 艦長ハ糧食缺乏、天候等止ヲ得ザル事由アルトキニ限り拿捕シタル船舶ヲ最近ノ港ニ引致スルコトヲ得

前項ノ事由消滅シタルトキハ艦長ハ直ニ該船舶ヲ第十八條ノ港ニ引致スベシ

第二十條 拿捕船舶若シ船體ニ破損等アリテ第十八條ノ港迄進航ニ堪ヘザルトキ若クハ艦長、該船舶ヲ進航セシムルニ充分ナル下士卒ヲ乘込マシメ能ハザルトキ若クハ其ノ積荷第十八條ノ港ニ到達スルノ前腐敗等ノ虞アルトキハ艦長ハ該船舶ヲ最近ノ港ニ引致シ適宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ艦長ハ軍艦乗組員ノ中ヨリ最モ適任ナル鑑定員ヲ選ミ事實ヲ鑑定セシメ調書ヲ製シ并ニ一切ノ手續ヲ詳記シ之ヲ捕獲審檢所ニ送附スベシ但腐敗シ易キ貨物ヲ賣却シタルトキハ第四號形式ノ書類ヲ其ノ他ノ場合ニ於テハ第五號形式ノ書類ヲ添フベシ

前項ノ場合ニ於テ艦長ハ該船舶ノ敵ニ屬セザルコト明瞭ナルトキハ戰時禁制品沒收ノ後之ヲ放免スベシ

第二十一條 中立港ニ於テ前條ノ處分ヲ爲ストキハ其ノ地方官署若クハ官吏ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

第二十二條 敵國政府ノ船舶ニシテ第十八條ノ港ニ引致スルコト能ハザル事由アルトキハ艦長ハ水夫、書類及若シ得ベクンバ積荷ヲ移シタル後該船舶ヲ破壞スベシ但水夫、書類及積荷ハ

第十八條ノ港ニ回送スベキモノトス

第二十三條 中立船舶中立國ノ軍艦ニ護送セラル、トキハ護送軍艦ノ艦長該中立船舶内ニ戰時禁制品ナキコト及船舶書類ノ總テ完備セルコト、ヲ申立ルトキハ臨檢及搜索ヲ爲サルモノトス

第二十四條 拿捕船舶ノ船長以下乗組員ノ給養及扶助等ハ拿捕審檢所ノ檢定アル迄ノ間海軍大臣ノ指揮スル所ニ依ル

第二十五條 拿捕ヲ行ヒタル軍艦ノ艦長ハ司令長官及海軍大臣ヘ拿捕ニ關スル報告ヲ爲スモノトス

第二章 船舶書類

第二十六條 船舶書類トハ左記ノ書類ヲ云フ

- 一 船籍證明書 (The Certificate of Registry) 船舶ノ名稱、噸數、所屬港名、船長ノ氏名、登記所有者ノ氏名ヲ記セルモノニシテ所屬港登記官吏ノ捺印セル證書
- 二 通航券 (Passport) 政府ニ於テ船舶乗組員貨物及商品ガ障碍ヲ受ケズシテ通行シ得ルコトヲ到着地及航路ニ當ル諸國ニ請ヘルモノニシテ通常船長ノ氏名、住所、船舶ノ名稱、構造及到着地ヲ記入ス
- 三 航海券 (The Sea-letter or sea-brief) 船舶機裝港ノ官吏ノ發シタルモノニシテ船長ニ其ノ

所屬國ノ旗及通航券ニ依テ航海スルノ權利ヲ附與セルモノニシテ積荷ノ性質及分量、所有權及到着地ヲ記載ス

- 四 備船契約書 (Charter Party) 備主ト船舶所有主又ハ船長ノ間ニ船舶ノ一部或ハ全部ノ備用ニ關シテ締結スル契約書ニシテ書中ニハ通常船長ノ氏名、船舶ノ名稱及其ノ構造、契約當時ノ碇泊港、備主ノ氏名及住所、積荷ノ性質、荷積セル港、到着地及運賃ヲ記入ス
- 五 航海日誌 (Official Log-book) 艦長ガ船舶所屬國ノ法規ニ從ヒ存置スベキ日誌
- 六 船内日誌 (Ship's Log) 船長カ船舶所有主ニ報告ヲ爲ス爲メニ存置スベキ日誌
- 七 造船者ノ契約書 (Builder's Contract) 竣功後所有主ニ變更ナキ船舶ノ必ズ存置スベキモノニシテ通航券又ハ登記證書ナキ場合ニハ船籍ヲ證明スルノ用ヲ爲ス
- 八 賣渡證書 (Bill of Sale) 船舶所有權ノ買主ニ移轉スルコトヲ證明ス
- 九 船積證書 (Bills of Lading) 荷物積入ノ際船長ヨリ荷主ニ付與スル正副二通ノ證狀ナリ荷主ノ氏名、積荷セル港及其ノ時日、船舶ノ名稱、到着地、積荷ノ運賃、數量及性質ヲ記入ス
- 十 送狀 (Invoices) 必ズ貨物ニ附隨スベキモノニシテ各貨物ノ性質、價額、運賃、關稅其ノ他負擔ノ費用、荷主及買受人ノ住所氏名ヲ記入ス
- 十一 積荷目錄 (Manifest) 荷主及買受人ノ氏名、各相ノ番號及記章、各相中貨物ノ數量及船

積證書ニ對照スベキ運賃ノ計算ヲ記入シ稅關ニ於テ船舶ノ出港ヲ取扱ヘル船舶仲立人及船長ノ署名スルモノ

十二 出港證書 (Clearance) 船舶ノ通過シ來リタル最後ノ港ノ稅關吏ノ付與セル證狀ニシテ海關稅ヲ支拂ヒタルヲ證シ且ツ積荷及其ノ到着地ヲ記入ス

十三 乘組員名簿 (Master Roll) 各乘組員ノ氏名、年齢、職務、住所及出生地ヲ記載ス

十四 乘組員傭入契約書 (Shipping Articles) 各乘組員自ラ被傭期間及航海區域ヲ詳記シ之ニ署名ス

十五 健全證書 (Bills of Health) 船舶ノ傳染病ノ流行ナキ地ヨリ來リ且ツ出港ノ當時乘組員中傳染病ニ罹リシ者ナキヲ證ス

前掲ノ書類ハ國ニ依リ異ナル所アリテ必シモ茲ニ列記セル十五種ヲ具備セズ

第三章 敵港ノ封鎖

第二十七條 封鎖ハ軍艦ノ一若クハ數多ヲ以テ敵港ヲ閉ヂ危險ヲ冒スニアラザレバ船舶ヲシテ出入シ能ハザラシムルヲ以テ有効トス

第二十八條 敵港ヲ封鎖スルノ命ヲ受ケタル艦長ハ該港ニ到着セルトキ該港在留ノ各國領事ニ封鎖ノ通知ヲ爲シ同時ニ相當ノ期限ヲ定メ港内一切ノ船舶ニ其期限内退去スベキコトヲ通知スベシ

第二十九條 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハズ封鎖ノ通知ヲ受ケ若クハ封鎖ノ事實ヲ知テ封鎖ヲ破

ラントスル船舶ハ之ヲ拿捕スベシ此場合ニ於テハ其ノ船舶ヲ以テ適法ノ捕獲ナリトス

第三十條 封鎖ノ通知ヲ實際通知及推測通知ノ二種トス

實際通知ハ其ノ方法ノ如何ヲ問ハズ船長ガ實際封鎖ヲ知レルコトノ判然タル場合即チ軍艦ヨリ直ニ通知ヲ得タルカ若クハ他ノ方法ニ依リ通知ヲ得タル場合ヲ云フ

推測通知ハ船舶所屬國外交官若クハ領事官等へ通知ヲ爲シ該國政府ガ自國臣民ニ通知ヲ與フルニ充分ノ時日經過セルトキハ其ノ實際通知ノ達シタルト否トヲ問ハズ通知ヲ得タルモノト推測スル場合ヲ云フ

封鎖シタル港口ニ侵入セントスル船舶ニシテ封鎖ノ事實ヲ知ラザリシモノト認定スベキトキハ艦長ハ該船舶ニ封鎖ノ事實ヲ告ゲ之ガ國籍ヲ證明スル證書及航海日誌ニ記入シ歸航セシメ若クハ他方へ航路ヲ變ゼシムベシ航海日誌ニハ第六號形式ノ書入ヲ爲スベシ

第三十一條 封鎖港ニ向テ進航スル出港證書ヲ有スル事由ヲ以テ直ニ封鎖ヲ破ルノ充分ノ證據ナリト爲シ拿捕スルコトヲ得ス

第三十二條 封鎖ヲ破ラントシタル船舶ヲ拿捕スル他ノ手續ハ第一章ノ規定ニ依ルベシ

附則

第三十三條 此ノ規程ノ正寫ハ各軍艦ニ備へ置クベキモノトス

第一號書式

拿捕ノ際受領シタル船舶書類ニ關スル證明書

船名 船長名

- 帝國軍艦何々乗組何々(官名)某左ノ三項ヲ證明ス
- 一 余ハ年月日帝國軍艦何々ガ前顯ノ船舶何々ヲ拿捕セル際現場ニ在リタリ
- 二 茲ニ添附スル第何號乃至第何號書類ハ該船舶拿捕ノ際船内現存ノ書類ニシテ受領シタルモノナリ
- 三 該船舶書類ハ番號記入ノ外ハ受領當時ノ儘ニシテ毫モ變更シタルコトナシ

年月日

艦長若クハ代理者何々署名

第二號書式

拿捕ノ際毀棄シタル船舶書類ニ關スル證明書

船名 船長名

- 帝國軍艦何々乗組何々(官名)某左ノ三項ヲ證明ス
- 一 余ハ年月日帝國軍艦何々ガ前顯ノ船舶何々ヲ拿捕セル際現場ニ在リタリ
- 二 拿捕數分間前余ハ該船舶ノ舷孔(Port hole)ノ一ヨリ書類ニ包ヲ水中ニ投棄セルヲ實視セリ依テ直ニ端艇(Cutter)ヲ卸シタリ該書類ノ一包ハ終ニ沈没セルモ他ノ一包ハ端艇水夫拾ヒ上ゲタリ
- 三 茲ニ添附スル書類第一號乃至第何號ハ拾ヒ上ゲタル書類ニシテ番號記入ノ外ハ總ベテ當時ノ儘ニシテ毫モ變更シタルコトナシ
- (二、三ハ其事例ノ一ヲ示シタルモノニシテ例ヘバ棄損ニ係ル場合并ニ水中ニ投棄シテ之ヲ拾ヒ上ゲザル場合等ニハ其實實ヲ詳記スベシ)

年月日

何々署名

第三號書式

拿捕ノ際在船ノ通貨及有價物ニ關シ艦長ノ作成スベキモノニシテ寫一冊ヲ必ズ船長ニ渡スベキ證明書

船名 船長名

- 帝國軍艦何々乗組何々(官名)某左ノ事項ハ年月日余ノ拿捕セル船舶内ニ存在セル一切ノ通貨及有價物ノ正確ナル計算書ナルコトヲ證明ス
- (物件及通貨ヲ隨意受渡シセルカ若クハ隠匿セルヲ發見セルカヲ記入スベシ)
- 何々
- 何々

年月日

軍艦何々署名

(記入)余ハ年月日余ノ署名セル此ノ證明書ノ寫一通ヲ船長ニ渡シタルコト及云々(船長故障ヲ唱ヘタルトキハ其ノ故障ノ性質ヲ摘要)

年月日

軍艦何々署名

第四號書式

積荷賣買擔當士官ノ證明書

船名 船長名

- 帝國軍艦何々乗組何々(官名)某左ノ證明ヲ爲ス
- 一 年月日軍艦何々艦長經度何々緯度何々ニ於テ前顯何々船ヲ拿捕セリ
- 二 年月日該艦長ハ拿捕船舶ノ積荷ノ鑑定ヲ命ゼリ
- 三 本證添附甲號證ハ該鑑定ヲ爲セル鑑定報告ナリ
- 四 此ノ報告ノ結果トシテ艦長ハ余ニ命ズルニ直ニ何々港ニ進航シテ積荷ヲ公賣ニ付スルコトヲ以テセリ
- 五 年月日該港ニ積荷ヲ送付シ何某及何某ハ最モ評價ニ熟練ナル者ナルヲ以テ同人ヲシテ積荷ヲ評價セシメタリ

國際法規提要 戰時 海戰之部 日本帝國捕獲規程

- 六 評價前該某々ハ不公平ナラザルコトヲ宣誓シタリ即チ本證添附乙號證ハ其ノ宣誓書ナリ
- 七 本證添附丙號證ハ該某々ノ爲セル評價ナリ
- 八 年月日何處何處ニ於テ該積荷ヲ公賣ニ付スルコトヲ命ジタリ本證添附丁號證ハ何々ニ於テ爲セル公賣ノ公告ナリ
- 九 年月日ニ於テ公告ノ公賣ヲ執行シ余ハ臨場シ積荷ノ賣渡ヲ實視セリ
- 十 本證添附ノ戊號證ハ該積荷ノ賣渡後雜費支拂殘額金何々圓ノ計算書ニシテ余ノ受取りタルモノナリ
- 十一 年月日ニ於テ余何某ニ該何圓ヲ拂渡シタリ

年月日

何々署名

第五號書式

檢定スマキ拿捕船ヲ最近港ニ回航セシムル事ニ關シ擔當士官ノ爲セル證明書

船名 船長名

- 帝國軍艦何々艦長何々(官名)某左記ノ事項ヲ證明ス
- 一 年月日軍艦何々艦長某某經度何々緯度何々ニ於テ前照船船ヲ拿捕セリ
- 二 年月日該艦長ハ拿捕船船ノ經度ヲ命ゼリ
- 三 本證添附甲號證ハ該艦定員ノ爲セル報告ナリ
- 四 該報告ノ結果トナシ艦長ハ余ニ命ズルニ何々港迄拿捕船船ヲ進航セシムルコトヲ以テセリ
- 五 該命令ニ從ヒ余ハ何々港ニ進航シ年月日該港ニ到着シ拿捕船船ヲ何々ニ引渡シタリ

年月日

何々署名

第六號書式

封鎖ノ宣言

余ハ去ル何月何日何處ヨリ何處迄經度何々緯度何々ニ至ル間ヲ帝國軍艦ノ充分ナル兵力ヲ以テ封鎖シタルコト并ニ封鎖ヲ破ラ

ントスル總ノ船舶ヲ國際法及帝國ト中立國間ノ各條約範圍ニ於テ實行シ得ル一切ノ手段ニ依リ處分スルコトヲ茲ニ宣言ス

帝國軍艦何々ニ於テ記ス
軍艦何々艦長署名

國際法規提要終

增補 第一 無線電信ト國際公法

(國際公法一般雜誌、千九百六年第一號
所載ルイ、ロルラン氏論說)

序 論

ロルラン氏ハ先ヅ無線電信ニヨル通信方法ヲ略說シ次ニ其特質トシテ通信距離ノ限定セララル、
コト、通信攪亂ノ虞アルコト及通信ノ秘密ガ充分ニ保タレザルコトヲ擧ゲタリ、而シテ氏ハ更
ニ進ンデ普通ノ郵便及電信ト無線電信トノ間ニ於ケル異同ヲ論ゼリ蓋シ氏ハ郵便電信ニ關スル
法制ハ國際法ニ既ニ一定セラレ其一部ノ如キハ國際間ノ協約トモナリ居ルヲ以テ事情ノ許スル
リ之ヲ應用シテ無線電信ニ關スル法制ヲ定メントセルナリ、曰ハク
普通通信書ノ場合ニ於テハ其輸送ガ事實上ノ行爲トシテ行ハル、ヲ以テ隨時隨所ニ之ヲ抑止スル
コトヲ得可ク獨リ其出發點若クハ到達點ニ於ケルノミナラズ其輸送ノ途上ニ於テモ之ヲ妨害ス
ルコトヲ得可シ然ルニ無線電信ノ場合ニ於テハ出發地若クハ到達地以外ニ於テハ之ヲ抑止スル
コトヲ得ズ或ハ此點ハ普通電信ニアツテモ同様ナル觀アレドモ普通ノ電信ニ於テハ固定セル裝
置アリテ一ノ電信局ト他ノ電信局トノ間ニ通信ガ交換サレ其電流ハ架設セラレタル線路以外ヲ
往來セズ故ニ此電線ヲ切斷スレバ通信ハ妨害セラル、ナリ

尙無線電信ノ場合ニ於テハ國家ガ空中ニ對シテ有スル法權ノ性質及程度ヲ知ラザル可カラズ此問題ハ其起源古シト雖ドモ問題ノ發生セル當時ニ於テハ現今ノ如ク實益ナカリシヲ以テ其研究ハ精密ナラザリキ、然ルニ輓近輕氣球ノ問題アリ又此ニ無線電信ノ問題ヲ生ジタルヲ以テ順序トシテ先ヅ之ヲ論ズ可シ

地球ヲ圍繞セル大空ノ中ニ於テ其性質簡單ナルモノニツアリ其一ハ吾人々類ガ全ク侵入シ得ザル部分ニシテ之ニ就テハ何等ノ問題ヲ生セズ其二ハ比較的ニ土地ニ接着セル部分ニシテ國家ハ之ニ對シテ、其領土ニ對スルト同ク所有權及主權ヲ有ス、蓋シ此論ハ空氣ヲ以テ必ズシモ土地ノ從物トナスニ非ザルモ空氣ト土地トハ一體ヲ爲スモノニシテ之ヲ分離スルコト難ク土地ハ空氣ニ附着シ之ヲ支持スルモノト稱スルコトヲ得ケレバナリ

凡ソ國權ノ及ブ所ハ地上即チ空中ニ於テ發生セル事實ニシテ地中ノ事實ヲ以テ目的トスルコトナシ、故ニ國家ハ土地ノ所有者タリ又主權者タリト稱ス可クンバ、之レト同理ニ於テ國家ハ土地ニ密着セル空中ノ主權者タリ又所有者タルコトヲ忘ル可カラズ、而シテ國家ガ斯クノ如ク其主權又ハ所有權ニ服從セシムルコトヲ得ル空間ハ人類ガ實質的ニ占領シ得ル距離ニ至ル迄ヲ包含スルモノニシテ現今ハ大約之ヲ地上三百三十「メートル」ト決定スルコトヲ得可シ此計算ハ目下ノ最高建築物ガ三百「メートル」ニ達セルト且ツ其上部ニ高サ三十「メートル」以内ノ無線電信柱ヲ立ツルヲ得ルヲ豫想シテ之ヲ定メナルナリ、但シ如上ノ推論ハ空氣ヲ以テ土地ト一體ヲ爲

スモノトスルニ基ケルヲ以テ國家ガ事實上建築物ヲ設ケテ此距離ニ至ル迄ノ空中ヲ占領スルコトヲ必要トセズ則チ地上三百三十「メートル」ニ至ル迄ノ空中ハ土地ト一體ヲ爲スモノトシテ之ニ國家ノ主權又ハ所有權ヲ行ハシムルナリ、

以上二種ノ空中以外ニ尙他ノ空中ノ存スルアリ即チ地上三百三十「メートル」以上ニシテ吾人ノ生棲ニ堪ユル部分はレナリ今此部分ト領土國トノ關係ヲ論ズルニ先テ少シク海上ノ空中ヲ論ズル必要アリ、

公海上ノ空中ハ公海ガ自由ナルガ故ニ隨テ自由ナリ、即ハチ各國ハ此部分ノ空中ニアリテハ公海上ニ於ケルト同様ナル權利ヲ有ス此場合ハ彼ノ空中ノ法制ハ海上ノ法制ノ擴張ニ過ギズトノ原則ノ一例トモ見ル可キカ、而シテ此看念ハ又之ヲ領海上ノ空中ニ關シテモ應用スルコトヲ得可シ或ハ此點ニ關シ領海ノ性質如何ヲ研究スルノ必要アランモ今暫ク此難問ニ入ルヲ避ケテ唯吾人ノ信ズル所ニテハ領海ナルモノハ其性質公海ト同ジク沿岸國ノ之ニ對シテ主權ヲ行使シ得ザルヲ以テ國家ノ安寧ヲ保護シ其獨立ヲ維持スルガ爲メノ保護ノ制度ナリト見ルノ外ナキコトヲ述ベ置カントス、故ニ沿岸國ガ領海上ニ有スル權利ハ其目的以外ニ亘ルコトヲ得ズ隨テ領海上ノ空中ニ關シテモ國家ハ獨リ此種ノ權利ヲ有スルノミ、

前ニ記シタル第三種ノ空中ノ領土國トノ關係ハ此領海上ノ空中ノ看念ヲ移シテ之ヲ説明スルヲ得可シ即領土國ハ此部分ノ空中ニ對シテ主權又ハ所有權ヲ享有セザルモ其獨立安寧ヲ維持スル

程度ニ於ケル權利ヲ有ス以上ノ所論ヲ經テ無線電信ニ關スル問題ヲ考察スルニ左ノ如キ一般原則ヲ生ズ可シ則ハチ若シ無線電信ノ電波ガ地上三百三十「メートル」以下ノ空中ヲ通過スル時ハ領土國ハ其發受ヲ監督シ又其全部若クハ一部分ニ就テ通信ノ禁止ヲ命ズルコトヲ得可ク又若シ電波ガ領海上ノ空中又ハ地上三百三十「メートル」以上ノ空中ヲ通過スル時ハ領土國ハ自國ノ公安ヲ保護スルノ理由ニ基イテ其通信ヲ監督スル權利ヲ有ス

無線電信ニ關スル法規ハ事情ノ許ス限リ普通電信ノ法規ヲ應用ス可キコトハ前ニ已ニ之ヲ述べタリ而シテ今又空中ヲ通過スル電波ニ對スル國權ノ關係ヲ明カニセルヲ以テ是レヨリ如上ノ諸大原則ノ實際上ノ適用ヲ述ブ可ク之ニ就テハ問題ヲ平時ノ通信ト戰時ノ通信トニ別ツテ便宜トスルニ似タリ

平時ニ於ケル通信

無線電信ノ平時ニ於ケル法制ヲ研究スルニ當リ先ヅ注意ヲ要スル事ハ普通ノ電信ニ關シテハ既ニ千八百七十四年ノ露都條約アリテ數個ノ一般の原則ガ國際間ニ決定セラレ居ルコトナリ而シテ元來無線電信ノ用ハ海上ノ船舶ト沿岸地トノ通信ヲ主トスルヲ以テ此點ニ於テハ普通ノ電信ヨリ國際的ノ性質ヲ帶ブルコト多ク斯クノ如キ約定ヲ促スノ必要一層大ナルモノト云フ可シ千九百三年八月ニ於テ無線電信ニ關フル豫備的國際會議ガ伯林ニ開會セラレタルハ實ニ此事實アル結果ニシテ同會議ハ各國政府ノ參考ノ爲メ一ノ宣言書ヲ決議セリ、(參考資料無線電信第十八

號)而シテ此目的ヲ以テ確定的ニ國際條約ノ草案ヲ作成セシガ爲メ其次年即チ千九百四年九月ニ同會議ヲ再開スル豫定ナリシガ、又之ヲ千九百五年三月ニ變更シ遂ニ同會議ハ無期ニ延期セラル、コト、ナレリ斯クノ如ク開會ノ滯留セル理由ハ固ヨリ多々アル可シト雖ドモ其主ナルモノハ無線電信ノ方式ガ種々ニ別ル、結果之ヲ國際的ニ一定スルノ困難アルガ爲メニシテ學術上之ヲ統一スルコトノ難キト同時ニ又各方式ノ無線電信ヲ經營セル商業會社ノ利害ガ一致セザルニ起因セリ

平時ニ於ケル無線電信ノ法則ハ之ヲ二點ニ別テ研究スルヲ便トス其一ハ各國ガ其領土内ニ於テ傳達若クハ受領スル信書ニ對シ如何ナル權利ヲ有スルヤノ點ニシテ其二ハ各國ガ通信ナル事實ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルヤノ點ナリ而シテ此第二者ハ其研究ノ困難ナルノミナラズ又無線電信ニ就テ特別ナル事情アルヲ以テ今ハ順序ヲ轉倒シテ先ヅ之ヲ前ニ論ズ可シ

普通ノ電信ノ場合ニアリテハ通信ナル事實ニ對スル各國ノ權利ヲ知ルハ甚ダ容易ナリ又此點ハ露都條約ニテ稍精細ナル規則ヲ定メタリ即チ其第八條ニ於テ

各國政府ハ若シ必要ト認ムル場合ニ於テハ或ハ一般的ニ或ハ特別的ニ或線路ヲ限リ又ハ特ニ或種類ノ通信ヲ限リ不確定ノ時期ノ間、國際間ノ電信ヲ停止スルノ權能ヲ留保ス、但シ此場合ニ於テ直チニ之ヲ各締約國政府ニ通知ス可シ

ト規定セリ、此權能ハ或ハ各國ニヨリ濫用セラル、虞アルモ固ヨリ其正當ナルハ爭フ可カラズ

故ニ無線電信ニ就テモ之レト同種ノ權能ヲ認ム可キハ勿論ナリ況ンヤ此場合ニハ尙特別ナル理由アリ即チ現今ニ於ケル無線電信機ノ不完全ナル結果トシテ一ノ電信機ヨリ發シタル電波ガ一定ノ距離内ニアル他ノ電信機ニ感應シ爲メニ通信ノ混亂ヲ來ス場合アルヲ以テナリ尙之ニ關シ一部ノ論者ノ言ニヨレバ無線電信ノ電波ハ普通ノ電信電話ニモ妨害ヲ及ボスト謂フ然ラバ各國ガ無線電信ノ發信ヲ停止スル權能ヲ有ス可キハ勿論ノ事ナリト信ズ此點ニ於テ無線電信ト普通ノ電信トノ間ニ何等ノ差違アルノ理ナシ是レ各國ハ電信機ヲ備ヘツク可キ土地又ハ建物ノ上ニ主權ヲ有スレバナリ而シテ一國ノ公有船又ハ私有船ハ之ヲ國家固有ノ領土ト同視スルヲ得可ク國有輕氣球又ハ私有輕氣球モ之ニ同ジカル可シ

此ニ一言ス可キハ無線電信ヲ備ヘタル外國船又ハ外國輕氣球ニ對スル領土主權ノ關係如何ノ問題ナリ、此問題ハ普通ノ電信ノ場合ニ於テハ發生セズ然レドモ前述セル空中ニ關スル國權ノ原則ヲ適用セバ容易ニ之ヲ解決スルコトヲ得可シ、則チ國家ハ空中ニ於テ少クモ公安保護權ヲ有スルヲ以テ無線電信ノ發信ガ一定ノ距離内ニ於ケル其電信事業ヲ妨害スル虞アル時ハ之ヲ禁止スルコトヲ得ルヲ以テ、電波ガ單ニ空中ヲ通過スル場合ニ於テモ之ヲ停止スル權利アリ此點ハ地上三百三十「メートル」以下ノ空中タルト、夫レ以上ノ空中タルト又領海上ノ空中タルトヲ問ハザルナリ

無線電信通過ノ禁止權ハ國家電話事業ニ妨害アル高サ迄之ヲ及スコトヲ得、故ニ其結果トシテ

絶對ニ電波ノ通過ヲ禁止スルモ可能ナリ、或ハ斯クノ如キ權能ヲ認ムルハ國際交通ニ多大ノ障害ヲ加フルノ觀アルモ既ニ彼ノ露都條約ニ於テ或ル線路ヲ限テ通信ヲ禁止スル權能ヲ認メタルガ故ニ之レト同理ナリト云フベシ

以上論ゼシ所ハ或ハ少シク理論ニ僻シタルノ疑アル可シ則チ領土内ニ於ケル發信ニ對シテハ國家ハ其禁止權ヲ尊重セシメ得可キモ其他ノ場合ニ於テハ通信ヲ妨害スル事實的ノ手段ニ缺クルノ觀アレバナリ然レドモ一方ニ於テ此妨害方法ハ之ヲ絶無ト稱ス可カラザルト同時ニ他方ニ於テハ斯クノ如キ禁令ヲ設クレバ無線電信業者ハ之ヲ遵奉スベキ義務ヲ負擔スルヲ以テ其違犯ニ就テハ責任ヲ有ス可シ故ニ必ズシモ之ヲ机上ノ空論ト稱ス可カラズ

戰時ニ於ケル通信

戰時ニ於ケル無線電信ニ就テモ事情ノ許ス限リ普通電信ノ法理ヲ應用セサル可カラズ而シテ又國家ガ空中ニ關シテ有スル權利ヲモ基礎トシテ論ズ可キコト勿論ナリ、交戰國相互間ノ通信關係ヲ決スルハ甚ダ容易ナリ、則チ其發信ニ就テハ普通電信ノ場合ノ如ク國家ニ妨害權アリ又其通信ノ受領若クハ傳達ヲ爲ス個人ニ就テモ普通電信ノ傳達者ト區別スルノ理由ヲ見ズ又占領軍ガ敵ノ無線電信ニ對シテ有スル權利ニ就テモ普通電信ノ場合ニ異ナルコトナシ
交戰國ト中立國トノ通信關係ハ少シク趣ヲ異ニス、則チ國家ガ空中ニ對シテ有スル權利ノ問題ハ此ニ大ニ其効用ヲ生ズ今先ヅ之ヲ左ノ三段ニ別テ論ズ可シ

第一、無線電信ガ交戦國ノ權内ニアル場所ヨリ發セラルル場合

此場合ニハ交戦國ハ原則トシテ通信禁止權ヲ有ス其發信者ノ交戦國人タルト中立國人タルト問ハザルナリ則ハチ交戦國ハ其權内ニアル場所ニ於テハ國家ノ安寧ヲ維持スルニ必要ナル手段ヲ取ルノ權利ヲ有スレバナリ

但シ此原則ニ對シテ唯一ノ例外アリ則ハチ中立國ノ外交上ノ通信ハ其性質上交戦ト無關係ナルヲ以テ之ヲ自由トスルヲ原則トスルコト是レナリ、然シナガラ此自由ハ絶對的ニ之ヲ認ム可カラズ則ハチ露都條約第八條ニ於テハ中立國ノ公信モ其文意漠然タル時ハ交戦國ニ於テ之ヲ抑留スルカ又ハ一層正確ナル文字ニ訂正スルコトヲ要求スルノ權利ヲ認メタルアリ吾人ハ之ヲ抑留電信ニモ應用シテ可ナリト信ズ

交戦國ノ權内ニアル場所トハ交戦國ノ領土及領土上三百三十「メートル」ノ空中ノミナラズ、交戦國ノ領海、領海上ノ空中、竝ニ地上三百三十「メートル」以上ノ空中ヲモ包含ス此種ノ空中ニ於テハ交戦國ハ危險ノ虞アリト認ムル場合ニハ無線電信ノ發信ヲ禁止スルコトヲ得ルナリ此禁止ハ中立國ノ公私船及公私輕氣球ニ適用スルコトヲ得、此點ハ或ハ中立國ニ對シテ苛酷ナルヤノ疑アレドモ交戦國ノ軍機ノ秘密ヲ保護スルニハ已ムヲ得ザル事タラン

交戦國ノ權利ハ尙此範圍以下ニ之ヲ擴張スルノ必要ナキカ、則ハチ其領海ヲ超エテ公海ノ一部

又ハ全部ニ通信禁止權ヲ及ボス可カラザルカ、此問題ニ就キテバーギニ一氏ガ交戦國ハ其作戰行動ヲ妨害スル中立船ニ退去ヲ命ズル權利アリト論ゼルハ甚ダ正鵠ヲ得タリ、而シテ既ニ中立船ヲ退去セシムル權利ヲ有ストスレバ之ニ對シテ一定ノ行爲ヲ禁止シ得キヤ勿論ナラン、但シ之ヲ及ボス可キ範圍ノ問題ハ之ヲ絶對的ニ決スルヲ得ズ否斯クノ如キ範圍ハ交戦國ヲシテ豫メ之ヲ定メシムルコトヲ得ザラン此範圍タルヤ絶エズ時ト場合トノ情況ニ由テ變化スベケレバナリ固ヨリ此通信禁止權ハ交戦國ノ作戰行動ノ範圍内ニ限ルモノナルコトハ明カナルモ、此範圍ヲ決定スルハ一ニ交戦國ノ意思ニ依ル然ラバ中立國ガ交戦國ニ對シテ要求シ得ル所ハ唯其正當ナル權利ヲ尊重ス可キコトニ止マランノミ

以上ノ説明ニヨリ交戦國通信禁止權ノ存在ハ明瞭ナルモ之ニ制裁ヲ設クルニ非ザレバ此權利ハ有名無實ニ終ル可シ此點ニ就テ發信者ガ交戦國人タル場合ニハ國內法ノ所罰ヲ加ヘ得キヲ以テ何等ノ困難ヲモ生ゼズ唯中立國人ノ場合ニ於テ問題ヲ生ズ

此問題ハ日露戰爭ノ際ニ發生セリ則ハチ千九百四年四月ニアレキセーフハ新聞通信用タル無線電信機ヲ供ヘタル船舶ガ露國海軍ノ作戰範圍内ニ侵入スルヲ禁止セントシテ宣言ヲ發シテ曰ハク未ダ國際協約中ニ規定ヲ設ケザル機械ヲ備ヘテ敵ト通信スル新聞社員ヲ乗セタル中立船ハ之ヲ拿捕シ戰利品トシテ之ヲ抑留ス可ク又該新聞通信員ハ之ヲ間牒ト看做ス可シト、露國ノ此宣言ハ大ニ批難ス可キ點アリ、則チ新聞社員ガ無線電信ニ依リテナス通信ヲ常ニ敵ト

ノ間ニ行フモノトナスハ甚ダシキ誤謬ノ推定ナリ又恣ニ間牒ノ觀念ヲ擴張セルモ不法ナリ、故ニ此問題ハ未ダ何等ノ解決ヲ經ザルモノト稱シテ可ナリ、此禁令違反ノ制裁トシテ確定セル點ハ斯クノ如キ中立人ハ之ヲ必然的ニ間牒ト稱ス可カラザルコトナリ則ハチ間牒トハ一方ノ交戦者ニ通知スレノ意思ヲ以テ他ノ一方ノ作戦地帯内ニ於テ陰密ニ行動シ又ハ虚妄ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若クハ收集セントスルモノナリ、無線電信ニ依ル通信ハ常ニ陰密ナラズト雖ドモ時ニ虚妄ノ口實ヲ構フルコトハアル可シ新聞通信員ガ其本社ノ爲ニスルト稱シテ交戦國ニ通信スル場合ノ如キ即チ是ナリ而シテ凡テ以上ノ條件ヲ供フルノ外尙間牒タルニハ之ヲ現行犯ニ於テ發見スルヲ必要トス斯クノ如キ事ハ無線電信ノ場合ニハ殆ンド之ヲ想像スルコトヲ得ズ其發信ノ方向ヲ知ルヲ得ザレバナリ、

又無線電信ノ通信者ハ之ヲ戰時禁制品輸送ヲ以テ罰スルコトヲ得ズ此場合ニハ輸送ナル事實ナク唯單純ナル信書ノ送達アルノミニシテ信書ハ之ヲ商品ト稱ス可カラザレバナリ然レドモ既ニ交戦國ニ於テ通信禁止ヲ命令セル以上ハ中立人ヲシテ之ヲ尊重セシメザル可カラズ又之ニ對シテ必要ナル手段ヲ取ラザル可カラズ故ニ若シ其作戦線内ニ於テ無線電信ヲ備ヘタル新聞通信員又ハ普通ノ私人ニ出會セル時ノ交戦國ハ之ヲ追放スルコトヲ得ルカ又ハ追放ガ充分ナル効果ヲ生ゼズトスレバ其人及電信機ヲ相當ノ期間抑留シテ可ナリ若シ又此中立人ガ例ヘバ敵國ニ使役セラレテ敵ノ爲メニ通信セル者ナレバ交戦國ハ敵ニ援助ヲ與フルモノトシテ之ヲ

俘虜スルコトヲ得可ク電信機ハ之ヲ沒收シテ可ナリ

此ニ無線電信ニ就テ疑問トナルコトアリ即チ通常ノ敵ノ通信ノ輸送ノ場合ニ於テハ其制裁トシテ信書及船舶ヲ沒收シ唯郵便船ニ對スル特權ヲ認ムルニ過ギズ又海底電信ノ場合ニ於テモ交戦國ハ電線ガ自國領内ニアル時ハ之ヲ斷切スルカ若クハ其使用ヲ制限スルコトヲ得、其他封鎖或ハ禁制品ノ場合ニ於テハ敵國ニ到達スル電線ハ之ヲ切斷スルノ權利ヲ有ス

無線電信ニ關シテモ之レト同様ノ法規ヲ設定シテ可ナル可シ即チ先ヅ臨檢セラレタル船舶ガ無線電信ニヨリテ禁止セラレタル通信ニ從事スル時ハ交戦國ハ之ヲ一定ノ場所以外ニ驅逐スルコトヲ得可ク更ニ又其電信機ヲ沒收スル權利カ少クモ之ヲ抑留スル權利ヲ有ス可キモノト信ズ斯クノ如クセバ一方ニ禁令ニ制裁ヲ附スコトヲ得又他方ニ將來ノ安全ヲ保護スルコトヲ得可シ此點ハ通常無害ノ通信ニ對シテ之ヲ行フ可キモノニシテ若シ通信ガ一方交戦國ニ對スル時ハ其船舶ハ云ハバ敵ノ役務ニ服スルモノナルガ故ニ交戦國ハ其通信文、通信機及船舶ヲ沒收スルコトヲ得可シ

但シ此場合ニ於テハ郵便船ニ對スル例外ハ之ヲ認メザル可カラズ即チ此場合ニハ交戦國ハ唯其電文ヲ沒收シ船舶ニ退去ヲ命ズルコトヲ得ルニ過ギズ

第二、無線電信ガ中立國ノ權内ニアル場所ヨリ發セラルル場合

普通ノ通信ノ原則ハ甚ダ簡單ナリ即チ中立國ハ交戰國ニ援助ヲ與フ可キ信書ノ發送ヲ禁止スル義務ヲ有スルモ其一般ノ通信事業ニ妨害ヲ加ヘラルル義務ナシ故ニ中立國ハ一般私人ノ通信ニ對シテハ檢閲ノ義務ヲ負擔セズ之ヲ無害ナルモノト推定ス然レドモ同一交戰國ノ二ツノ地點間ニ於ケル通信ヲ取扱フコトハ之ヲ禁止セリ、但シ交戰國ノ駐外公使ノ通信ハ之ヲ妨害スルコトヲ得ズ是レ斯クノ如キ通信ハ交戰ニ關係セザレバナリ

無線電信ノ場合モ之レト同様ナリ其發信セラレタル場所ノ船舶タルト地上タルト又輕氣球上タルトニ關シテ何等ノ區別ナシ

無線電信ハ普通ノ電信ノ如ク多ク國家ノ經營スル所ニシテ又其嚴密ナル監督ノ下ニ置カル故ニ多クノ場合ニ於テハ國家ハ無線電信ノ發送ニ關係アリト云フヲ得可キモ全ク此關係ヲ存セザル例モ想像スルニ難カラズ例ヘバ全ク其法權ノ及バザル公使館内ノ如キ所ヨリ發信スルカ又ハ交戰國若クハ他ノ中立國所屬ノ船舶又ハ輕氣球ガ一中立國ノ領海又ハ之レト類似ノ空中ヨリ發信スル場合ノ如キ是レナリ、

普通ノ發信ニ關シテハ斯クノ如キ事例ヲ發生セズ唯土耳其古ノ如ク國內ノ電信事業ガ外國ノ手ニヨツテ經營セララルル稀有ノ例アルニ過ギザルナリ

然レドモ公使館内ノ無線電信ハ先ヅ之ヲ以テ本國トノ間ニ行ハル、外交上ノ通信ニ供スルモノト見ルヲ得可ク又領海内ノ船舶ハ一般ノ私信ヲ取扱フモノトス可キヲ以テ此兩者ハ之ヲ無害ノ

通信ニ從事スルモノト推定スルコトヲ得ルナリ、但シ中立國ハ交戰ニ關與セザル義務及ビ其領土ヲ交戰國ノ作戰根據地トシメザル義務ヲ有スルヲ以テ若シ斯クノ如キ他ノ中立國ノ船舶若クハ交戰國船舶ガ軍事ニ關係スル通信ヲ爲スカ又ハ公使館内ノ無線電信ガ包圍セラレタル場所トノ間ノ通信ヲ目的トスルコト明瞭ナル場合ニハ該中立國ハ此通信ヲ禁止セザル可カラズ但シ此最後ノ論斷ヲ下スニハ明白ニ其通信ガ軍事ニ關係スルコトヲ必要トス然ナガラ實際上斯クノ如キ類例ハ少ナカル可キヲ以テ若シ其通信ノ性質若クハ目的ニ少シニテモ曖昧ナル點アラバ之ヲ平和用ト推定セザル可カラズ故ニ此場合ニハ中立國ニ禁止義務ヲ發生セザルナリ而シテ又中立國ハ無線電信ノ發信ガ眞實ニ其領土ヲ利用シテ作戰根據地トナセル場合ノ外ハ此義務ヲ負擔セザルナリ

第三、無線電信ガ交戰國又ハ中立國ノ權内ニアラザル場所ヨリ發セララルル場合

公海又ハ公海上ノ空中ヨリスル發信ハ此場合ナリ普通電信ノ例トシテハ殆ンド之ヲ想像スルヲ得ザルヲ以テ一般ノ原則ニ從テ之ヲ解決セザル可カラズ而シテ現今ノ國際法上ノ原則ニ從ヘバ交戰國ハ公海上ニ於テ通信ヲ檢査スル權利ヲ有セリ又中立船舶ガ交戰ニ關與スルハ其義務ノ違犯タリ故ニ此場合ニ於ケル通信ハ之ヲ戰時禁制ノ通信輸送ト同視シテ取扱フコトヲ得可シ則チ交戰國ハ臨檢權ヲ有ス可ク若シ臨檢ノ結果禁制海運ニ從事スルコト明白ナレバ電文、電信機

及船舶ヲ沒收スル權利ヲ有ス可シ然レドモ船舶ガ郵便船ナル場合ニハ之ニ對シテ沒收又ハ拿捕ヲ行フコトヲ得ズ

之ヲ要スルニ此場合ノ問題ハ甚ダ簡單ナリ唯無線電信ノ發受ニ關シテ一般通信ノ原則ヲ應用ルニ過ギザルナリ

增補 第二 伯林無線電信會議議定書

(千九百三年タイムス)

無線電信國際法規ニ關シ本年八月伯林ニ於テ開催セル豫備會議調書及ビ最終議定書ハ外交文書ヲ以テ發表セラレタリ本會議ノ目的ハ將來開催スベキ商議ノ基礎ノ材料ヲ供センガ爲メニ茲ニ參列セル諸國ノ感想ヲ明確ニセントスルニ在リキ、本會議結果ノ概要ハ左ニ掲グル最終議定書ニ詳ナリ

最終議定書

無線電信ニ關シ豫備會議ニ參列シタル國ハ左ノ如シ

- 獨逸 埃太利 西班牙 北米合衆國
- 佛蘭西 匈牙利 露西亞

左ニ記載シタル規定ニ付テハ右諸國ノ代表者ハ他日國際會議ノ議案ト爲スノ目的ヲ以テ之ヲ各所屬政府ノ詮考ニ付スベキヲ同意セリ

第一條

公衆ノ電信ヲ接受スル海上船舶及沿岸無線電信局間ノ通信交換ハ左ノ規定ニ從フモノトス

第一項 沿岸無線電信局ト稱スルハ無線電信ノ有効距離ガ海上ニ及ブ總テノ電信局ヲ謂フ

第二項 沿岸電信局ハ海上船舶ガ使用スル無線電信ノ法式如何ヲ問ハズ其船舶ガ發信又ハ受信スベキ電報ヲ受付ケ及ビ送致スルノ義務ヲ有ス

第三項 締盟國ハ沿岸電信所及ビ海上船舶間ノ通信ヲ容易又ハ迅速ナラシムベキ技術上ノ事項ヲ公ニスベシ

但締盟國ハ其便宜ト認ムル範圍内ニ於テ自國ニ在ル電信局ニ對シ種々ノ設備又ハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ許可スルコトヲ得

第四項 締盟國ハ海上船舶及ビ國際電信局間ニ於テ交換スル電報ノ料金ヲ定ムルニ付テハ左ノ基礎ヲ採用スルコトヲ宣言ス

右電報ニ付キ徵收スル總料金ハ一字毎ニ之ヲ課シ左ノ二種ヲ含ム

(a) 電信局ノ電線通過ニ關スル料金

右料金ハ聖彼得堡條約ニ附屬セル現行國際電信規定ノ定ムル所ニ依ル

(b) 海上通過ニ關スル料金

右料金ハ前號ノ如ク字數ニ依リ之ヲ定ム字數ハ前號ニ引用セル國際電信規定ニ依リ之ヲ定ム

右料金ハ左ノ二種ヲ含ム

第一、沿岸電信局料金

右ハ該電信局ニ歸スベキ分

第二、船上料金

右ハ船上電信ニ歸スベキ分

沿岸電信局料金ハ該電信局所屬國ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ船上料金ハ船旗ノ表スル國ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

右二種料金ハ總テ電信事務取扱ノ多少ニ依リ公平ナル基礎ニ依リ之ヲ定ムベシ

第二條

新ニ締結スベキ協約ニハ附屬規約ヲ設ケ以テ沿岸電信局及ビ船上電信間ノ通信交換ニ關スル規則ヲ定ムベシ

右附屬規約ノ條項ハ何時ニテモ締盟國ノ主務官憲間ノ共同一致ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

第三條

聖彼得堡電信條約ノ條項ハ新ニ締結スベキ協約ト牴觸セザル限り無線電信通信事項ニ適用セラレベシ

第四條

無線電信局ハ船舶ヨリ發信セル救難ノ請求ハ第一位ニ之レヲ接受スベキモノトス但事實上不能(impossibilité matérielle)ノ場合ニハ此限ニアラズ

第五條

無線電信局ヲ設置セントスルトキハ成ルベク他ノ電信局ノ通信事業ヲ妨害セザル方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六條

各締盟國政府ハ無線電信局ヲ其所屬國內ニ設置スル企業家ニ對シ其人ニ屬スル他ノ總テノ電信局ニ於テ新ニ締結スベキ協約ノ條項ヲ遵奉セシムル目的ヲ以テ締盟國間ニ特別ノ取極ヲ爲スベキ權ヲ留保ス

第七條

新ニ締結スベキ協約ノ條項ハ公衆ノ用ニ供セザル國立無線電信局ニハ之ヲ適用セズ但第四條及第五條ノ條項ハ此限ニアラズ

第八條

新ニ締結スベキ協約ニ加入セザル國ハ請求ニ依リ之ニ加入スルコトヲ得

一千九百三年八月十三日

伯林ニ於テ

議定書ニハ獨逸、埃太利、西班牙、合衆國、匈牙利及露西亞ノ代表者調印セリ

英國ノ代表者中央郵便局ノラム氏グヱキー氏及マツケー氏海軍大尉ヒース、海軍中尉ベーン并ニ陸軍大佐ヒツビスリハ左ノ重要ナル留保ヲ爲セリ是レ第一條第二項即チ沿岸電信局ハ海上船舶ガ使用スル法式如何ヲ問ハズ其船舶ヨリ發信スル電報ハ總テ之ヲ受付ケ且發送スベシトノ規定ニ關スルモノナリ

「英國代表者ハ以上ノ案件ヲ自國政府ノ詮考ニ付スルコトヲ約シタルコトニ關シ英王國ニ行ハルル無線電信ノ現今ノ状態ニ鑑ミ茲ニ一般的留保ヲ爲サザルベカラズ右留保ハ殊ニ第一條第二項ノ件及第五條ノ規定ヲ第七條ニ掲ゲタル電信局ニ適用スル件ニ關ス」

伊太利國代表者ハ左ノ留保ヲ爲セリ

第一條第二項ニ關シテ

代表者ハ左ノ追加ヲ爲スノ條件ヲ以テ本條ノ規定ヲ承認スベシ

「但右法式ガ通信ノ到達距離、其構造完備及通信ノ正確ニ關シテ相互ノ通信上良好ノ作用ヲ爲スコトノ保證ヲ與ヘタル場合ニ限ル

第一條第三項ニ關シテ

代表者ハ本項ノ前段ニ承認ヲ與フルコトヲ得ズ何トナレバマルコニー氏ト締結セル條項中政府ハ設備ノ細目ニ付キ之ヲ秘密ニ付スベキコトヲ約シタレバナリ

第六條ニ關シ

代表者ハ本條ニ承認ヲ與フルヲ得ズ唯自國政府ニ於テハ出來得ベクンバマルコニー氏ト締結セル條約ニ對シテ希望セラレタル趣意ノ變更ヲ加フベキコトヲ宣言スルニ止ム

增補 第三 觸發水雷

ガン市ニ開催セラル可キ萬國々際法學會ノ第四調査問題タル「公海ニ於ケル觸發水雷ノ沈設ニ關スル國際規程」ニ就テ

ケベチイ氏ノ豫備報告

萬國々際法學會ハ千九百四年ノ「エディンブル」會期ニ於テ「公海ニ於ケル觸發水雷ノ使用ニ關スル國際規程ノ問題ヲ調査事項ト決定シ吾人ニ其報告ヲ附託セリ、本問題ニ關スル確定報告ヲ編成スル以前ニ於テ調査委員諸君ガ此困難ナル問題ニ對スル各自ノ意見ヲ發表セラレテ報告員ノ事業ニ協力セラレントハ吾人ノ熱望スル所ナリ余ハ此目的ヲ以テ此ニ豫備報告ヲ呈出シ

該問題ノ概要ヲ叙説スルノ光榮ヲ有ス就テハ本問題ノ調査ハガン市會期前ニ結了ス可ク且ツ此報告ノ結果新ニ諸君ノ意見ヲ參考スルノ必要ヲ生ズ可キヲ以テ來ル千九百零六年四月十五日迄ニ此報告ニ對スル諸君ノ回答ヲ受領スルヲ得バ幸甚ナリ

觸發水雷又ハ機械水雷ノ沈設ノ危險ナルコトハ最近二個年間ニ於テ屢々世上ニ論ゼラレタル所ニシテローレンス氏ノ著書「極東ニ於ケル戰爭及局外中立」中ニモ此問題ニ就テ稍々精細ナル研究ヲ掲ゲタリ（同書第九十二頁乃至第一百一頁參照）

此危險ノ發生ヲ防グニ足ル可キ國際規程ヲ制定スルノ必要アルハ之ヲ謀々スルヲ俟タズ而シテ水雷沈設ニ關スル國際規程ハ二種ノ危險ニ對應スルガ爲メ別テ二部ト爲サザル可カラズ

第一ハ 中立國ハ公海ノ使用ニ於テ交戰國ト對等ノ權利ヲ有スルヲ以テ公海ニ於ケル水雷ノ沈設ハ之ヲ禁止ス可キコトナリ、是レ交戰國ハ公海ニ於テ戰鬪行爲ヲ行フヲ得ルモ其行動ハ公然タラザル可カラズ又危害ヲ豫期シ難キ中立人ヲシテ不測ノ災ヲ蒙ラシムル如キ設備ヲ施スコトヲ得ザレバナリ、千八百九十四年ノ巴里ニ於ケル本學會ノ決議ハ此點ニ關シテ亦公海ノ起線ヲ定ムルノ標準タルヲ得ベシ

第二ハ 沈設水雷ハ往々ニシテ浮游スルコトアリ、之ヲ交戰國領水内ニ沈設スルモ公海ニ於テ危害ヲ發生スルコトアリ又斯クノ如キ災害ハ戰爭終結後ニモ生ズルコトアルヲ以テ各國ヲシテ沈設水雷ニ關シテハ其水雷鐘ガ繫索ト連結セル間ノミニ限リテ爆發力ヲ有スルコトトシ一度繫

索切斷セラレレバ直チニ爆發スルカ又ハ爆發力ヲ失ハシムルガ如キ裝置ヲ爲サシメンコトヲ發議スル者アルニ至レリ

斯クノ如キハ獨リ法學者又ハ博愛論者ノミナラズ又實際家ノ希望ニモ合スルモノニシテ吾人ハ其一例證トシテ千九百零五年一月廿五日ニ於ケル佛國海軍協會委員會ノ意見ヲ舉グルコトヲ得可シ

輿論已ニ斯クノ如キガ故ニ本問題ハ之ヲ專門家ノ研究題目ト爲スニ於テ成熟セルガ如シ、而シテ之ニ關スル國際規程ヲ制定スルハ獨リ人道ノ爲メナルノミナラズ又世界ノ平和ニ貢獻スル所以ナリローレンス氏ノ如キハ公海ニ於ケル水雷ノ沈設ヲ不法ナリトシ之ガ爲メ損害ヲ蒙レル中立國ハ交戰國ニ對シテ懲罰的賠償ヲ請求スル權利ヲ有スト謂ヘリ然ラバ此點ニ關シ中立國ノ權利ヲ擔保シ隨テ甚ダシク交戰國ノ權利ヲ縮少セズシテ中立國ノ不滿ヲ避クルヲ得ルニ至ル可キカ

但シ此問題ガ近キ將來ニ於テ彼ノ千八百六十八年ノ爆發物ニ關スル協約又ハ千八百八十四年ノ海底電線ニ關スル協約ノ如ク國際間ノ合致ヲ得ルノ能否ハ暫ク措クモ以上論述セル所ニ依テ此問題ヲ研究スルノ機會ノ既ニ到來セルコトハ明カナリ

曩キ千九百零四年九月二十八日ノ會議ニ於テ本問題ヲ調査事項トスルコトニ關シテビエール、アレトニイ氏及ホルランド氏ガ反對說ヲ主張セルハ吾人ノ了解スル能ハザル所ナリ、右二氏ノ

所論ノ詳細ハ同年ノ學會年報ニ掲ゲタルガ吾人ハ今茲ニ一言之ニ對スル答辯ヲ試ミントス
蓋シ反對論ノ要項ハ左ノ二點ニ歸着スルモノノ如シ

(一) 本問題ヲ論議スルノ時機未ダ熟セズ如何トナレバ問題ノ日未ダ淺キヲ以テ之ニ關スル國
際規程ノ提案ハ例ヘバ國際間ノ協約ノ如キニ由テ國際制定法トナルノ見込少ナケレバナ
リ

(二) 本學會ハ未ダ充分ナル専門的智識ヲ有セザルヲ以テ本問題ヲ審議スルモ其利益少ナシ
以上二個ノ反對論ニ對シテ先ヅ同一ノ駁撃ヲ加フルコトヲ得可シ即チ國際間ノ規程又ハ協約ノ
成立ノ能否如何ヲ知ルガ爲メニ少ナクモ本問題ノ研究ヲ試ムルニ就テハ何等ノ障害ヲモ存セザ
ルコトナリ

反對論ノ第一點ハ屢々本學會ニ於テ論議セラレタル根本的問題ニシテ國際法學會ガ純粹ナル學
理ノ問題ノ爲メニ其時日ヲ徒費スルカ又ハ實際各國ニ採用セララルルノ機會ナキ規程ヲ提案ス可
カラザルコトハ吾人モ之ヲ知悉ス然レドモ吾人ハ學會ノ事業ノ範圍ヲ以テ直チニ實現シ得ラル
可キモノニ限ル可シトハ思惟セザルナリ既ニ此點ニ關シテハ學會ハ屢々相當ナル範圍ヲ發見セ
ルニ非ズヤ而シテ本問題ヲ調査事項トスル說ニ賛成シタル學會員諸君ハ又此問題ガ一見之ヲ吾
人ノ研究ヨリ除斥ス可キモノト性質ヲ異ニセルコトヲ認メタルナリ

本學會員ノ大部分ガ此問題ニ關スル専門的智識ヲ缺クノ非難ニ就テハ假リニ其事實ノ真正ヲ許

ストスルモ吾人ハ之レガ爲メ研究ヲ阻止ス可キ性質ノモノトハ信ゼズ吾人ガ専門家ニ就テ特ニ
必要ナル専門的智識ヲ獲得スルニ對シテハ何等ノ障害ヲモ存セザルナリ蓋シ専門的分子ヲ包含
スル法律問題ハ凡テ之ヲ排斥ス可シト定ムル如キハ不當ニ吾人ノ活動ノ範圍ヲ縮少スルモノト
云ハザル可カラズ

千九百五年十二月

ベルヌニ於テ

ケベヂイ

增補 第四 戰時禁制品ニ關スル日露兩國法

(國際公法一般雜誌千九百四年第一號所載)

クリーン氏論說)

今回ノ戰爭ニ際シテ日露兩國ガ發布セル戰時禁制品ニ關スル勅令ハ中立諸國ノ最モ正當ナル且
ツ争フ可カラザル權利ヲ甚ダシク侵害セリ斯クノ如ク世界ノ平和的通商ニ妨害ヲ加ヘタル奇怪
ナル主張ハ前世紀ノ半頃ニ於テモ既ニ其跡ヲ絶テル所ニシテ恰モ其初期即チ彼ノ慘憺タル戰爭
ノ相次デ行ハレタル佛國第一帝政時代ニ遡レルノ思アラシム

今、日露兩國法ノ列舉セルモノヲ見ルニ(此間ニ、露國二月二十八日ノ「日本ト交戦ノ準據法
第六號及我國海上捕獲規程第十三條第十四條ノ品目ヲ列舉セルモノヲ畧ス)一トシテ正當ニ戰

時禁制品タル可キ物品ナシ、而シテ其中ノ或物ノ如キハ既ニ古クヨリ世界各國ニヨリ排斥セラレタルモノニシテ現時之ヲ復活スルガ如キハ其時勢ニ遅レタル實ニ驚クニ堪エタリ、譬ヘバ食糧品及貨幣ノ如キ其一例ナリ

蓋シ戰時禁制品トシテ食糧品ノ如ク紛議ヲ生ジタルモノハ稀ナラン是レ其一般ノ用途及非軍事ノ性質ガ之ヲ禁制品トナスニ反對スレバナリ、食糧品ニ對スル反對ハ既ニ第十八世紀ニ於テ諸大海國就中米國ニヨリ激烈ニ主張セラレ其當時反對ノ地位ニ立チシ英國モ遂ニ之ニ屈シテ禁令ヲ取消シ且ツ拿捕ニヨリ私人ノ被ムレル損害ヲ賠償セリ事情斯ノ如キガ故ニ食糧品ヲ禁制品トスル事ハ殆ンド絶對的ニ廢止セラル可キ筈ナリシガ、其後モ時々交戰國ノ之ニ反對セルアリ、而シテ曩キニ中立國タリシ時熱心ニ廢止ヲ主張セシ諸國モ交戰國タルニ及ンデ之ヲ認容シタル例アリ但シ最近千九百年ノ南亞戰爭ニ於テ英國ガ食糧品ヲ搭載セル中立船ヲ拿捕シタリシ時ニハ米國ノ抗議ニ遇ヒテ遂ニ拿捕物ヲ返還シ又千九百四年ニ於テモ米國ハ依然食糧品ノ自由ヲ唱ヘタリ、斯クノ如ク、二世紀半以來ノ國際間ノ實例、各國ノ國內法及國際條約ハ皆食糧品ノ特權ヲ認メタリ而シテ此點ニ關スル學說ハ少シク實際ニ遲レタレドモ近世ノ學說トシテ最モ有力ナルモノニシテホウキトン、オルトラーン、ブルンチユリイ、カルヴオー、フヒオレー其他各國ノ學者ハ多少程度ノ差コソアレ皆其禁止ニ反對セリ、案ズルニ食糧品ヲ禁制品トナスノ不當ナルハ其根本ノ理由即チ敵ヲ飢餓ニ陥ラシムルコトノ不當ナルニヨル、固ヨリ交戰國ガ敵國

ヲ困敗セシメントスルニハ其方法ノ如何ハ之ヲ問フ所ニアラズ、然レドモ中立國ハ決シテ此交戰國ノ企圖ヲ援助スルノ義務ナキナリ、又其他ノ理由トシテ交戰國ノ糧食缺乏ヲ舉グルモノアリ、即チ此說ニヨレバ交戰國ガ中立貨ヲ拿捕シ其友邦ノ財ヲ奪テ自國ヲ給養セントスルヲ許スナリ、吾人ハ此點ニ關スル交戰國ノ意思ヲ明瞭ニセズト雖ドモ唯若シ斯クノ如ク中立國ニ於テ交戰國ヲ給養セザル可カラザルモノトセバ所謂中立ナルモノハ存在セザルコトヲ一言シ置カン

ノミ、
貨幣及金銀塊ノ輸送禁止モ食糧品ト其理由相似タリ即チ一ハ飢餓ニ由テ敵國ヲ降伏セシメントシ他ハ貨幣ノ缺乏ニ由テ之レト同果ヲ收メントスルナリ、此種ノモノハ數世紀ノ間或ハ禁制品トナリ或ハ自由品トナリ、各國隨時ノ政策ニ由テ左右セラレ殆ンド一定ノ主義ナカリシガ、日本ハ現時之ヲ以テ條件附禁制品ト宣言セリ、蓋シ此宣言ハ米國ガ最近ノ二戰爭ニ於テ行ヘル所ニ倣ヘルモノナランガ、近世ノ最モ勢力アル學說ニ從ヘバ斯クノ如キ禁令ノ不當ナルハ明カナリ、固ヨリ如何ナル戰爭モ貨幣ナクシテハ之ヲ行ヒ難キモ此唯一ノ事情アルガ爲メ貨幣ヲ以テ「ミニニシヨ、ド、ゲール」トナスコトヲ得ズ

露國ガ綿花ヲ以テ禁制品トナセルハ國際法上ノ一新例ナリ、古代ニ於テハ稀ニ織物ヲ以テ禁制品トナセル事アリキ然レドモ織物ノ製造材料タル綿花ノ如キモノハ最古ノ條約ニ之レヲ自由品ト宣言セル以外ニ於テ未ダ戰時禁制品ノ歷史上ニ顯ハレタルコトナシ、蓋シ露國ノ意思ハ日本

ガ軍隊ノ給養ニ就テ綿花ノ缺乏ヲ感ズ可シト推測シタルモノト見ルノ外之レヲ説明スルコトヲ得ズ

日本ガ戰時禁制品トセル造船材料ナルモノハ彼ノ國際法史上ニ有名ナル Naval stores and materials 中ニ包含ス可キモノニシテ此種ノ物品ニ關シテハ中立國ト交戰國トノ間ニ屢々大ナル紛議ヲ生ジ爲メニ戰爭ヲ惹起セルコトモアリキ而シテ此名目ノ下ニ含マル、物品ハ其種類雜多ニシテ實用的ノモノ甚ダ多ク且ツ戰爭の性質ヲ帶バシムルノ困難ナルモノ少ナカラズ故ニ之ガ禁止ニ對シテ反對ヲ生ジタリ、獨逸ノ普通法ハ既ニ其自由ヲ規定シ又殆ンド全歐洲大陸諸國ノ國內法モ之レト同主義ヲ認メ、國際法ノ諸大家モ之ニ贊同セリ(例ヘバクリューベル、オートフイユ、フヒオレー)

其他兩交戰國ガ禁制品トセル或種類ノ機關及器械ニ就テモ吾人ハ前同様ノ說ヲナスコトヲ得可シ、就中露國ガ禁制品トセル船用ノ汽鐘及器械、及日露兩國ノ禁令ニ舉ゲタル電信、電話、及鐵道建設ノ材料ノ如キハ批難ヲ價ス可キモノニシテ是レ等ノ物ハ戰爭トノ關係ノ甚ダ間接的ナル到底斯クノ如キ禁止ヲ正當トスルコトヲ得ズ

硝石及硫黃ヲ舉ゲタルハ少シク恕ス可キ所アリ勿論戰時禁制品ノ材料及部分ハ其單純ナル結合ガ禁制品ヲ作製スルニ充分ナルコトヲ要ストノ原則ヲ嚴格ニ此場合ニ適用スレバ是レ等ノモノハ之ヲ除外ス可シト雖ドモ此二種ノ物品ハ他ノモノヨリモ多ク「ミュニシヨン、ド、ゲール」ニ用キラル、コトヲ必要トスレバナリ

石炭ヲ禁制品トセルハ英國ノ例ニ依レルモノナランガ、佛國、普國、埃國、伊國及第二等諸國ハ之レト反對ノ主義ヲ取レリ米西戰爭ノ際ニハ西班牙モ亦之ヲ自由トセリ

又グステル、カルヴオー、及フヒオレーノ如キ學者ハ斯クノ如キ禁令ハ世界ノ平和的利益ヲ侵害スト論ゼリ、況ンヤ露國ガ獨リ石炭ノミナラズ凡テノ燃料殊ニ石油ヲモ禁制品トナセルハ實ニ許ス可カラズ

露國ガ馬匹及馱獸ヲ以テ禁制品トセルハ最モ驚ク可シ是レ露國年來ノ主義ニ背反スレバナリ、從來西歐諸國ガ馬匹ヲ禁制品トセル場合ニハ露國ハ常ニ堅ク之ニ反對セリ、例ヘバ千七百六十六年ノ宣言ノ如シ而シテ千七百八十年ノ武裝中立ハ露國ノ主張ノ下ニ成立セルモノニシテ、爾來、諸國ノ條約、國內法及學者ハ皆此禁止ニ反對ヲ唱ヘタリ按フニ今回露國ガ此宣言ヲ爲スニ至リタルハ日本馬匹ノ劣等ナルト韓國ノ道路ノ嶮惡ナルトニ依ルナラン嗚呼國際法ニ定則ナシ常ニ狀況ニ由テ左右セラル嘆ゼザル可ケン哉、日本ハ馬匹以外ノ馱獸ハ禁制品トセザリシガ、

接近セリ故ニ普、伊兩國法ノ如ク之ヲ除ケル最新ナル立法例アリト雖トモ、尙模範的國法ニ於

テ之ヲ禁制品トセルモノモ少カラズ、其他ノ兵器彈藥ノ製造材料(就中、鉛)ニ就テハ前二者ノ

如キ事情モナク又各國法モ之ヲ認メザル方普通ナルガ日本ハ全部之ヲ禁制品トセリ但シ近世ノ

學說ハ之ニ反對ス其理由ハ禁制品ノ觀念トシテ物品ニ何等ノ加工ヲ施サズ其現狀ノマ、戰爭ニ

用キラル、コトヲ必要トスレバナリ

石炭ヲ禁制品トセルハ英國ノ例ニ依レルモノナランガ、佛國、普國、埃國、伊國及第二等諸國

ハ之レト反對ノ主義ヲ取レリ米西戰爭ノ際ニハ西班牙モ亦之ヲ自由トセリ

又グステル、カルヴオー、及フヒオレーノ如キ學者ハ斯クノ如キ禁令ハ世界ノ平和的利益ヲ侵

害スト論ゼリ、況ンヤ露國ガ獨リ石炭ノミナラズ凡テノ燃料殊ニ石油ヲモ禁制品トナセルハ實

ニ許ス可カラズ

露國ガ馬匹及馱獸ヲ以テ禁制品トセルハ最モ驚ク可シ是レ露國年來ノ主義ニ背反スレバナリ、

從來西歐諸國ガ馬匹ヲ禁制品トセル場合ニハ露國ハ常ニ堅ク之ニ反對セリ、例ヘバ千七百六十

六年ノ宣言ノ如シ而シテ千七百八十年ノ武裝中立ハ露國ノ主張ノ下ニ成立セルモノニシテ、爾

來、諸國ノ條約、國內法及學者ハ皆此禁止ニ反對ヲ唱ヘタリ按フニ今回露國ガ此宣言ヲ爲スニ

至リタルハ日本馬匹ノ劣等ナルト韓國ノ道路ノ嶮惡ナルトニ依ルナラン嗚呼國際法ニ定則ナシ

常ニ狀況ニ由テ左右セラル嘆ゼザル可ケン哉、日本ハ馬匹以外ノ馱獸ハ禁制品トセザリシガ、

馬具、馬糧、以外尙車輛ヲモ之ニ加ヘタリ

或ハ曰ハン日本捕獲規程ハ以上ノ物品ノ條件付禁制品トシタリト然レドモ同規程ノ示ス所ニヨレバ條件付禁制品ナルモノノ要素ハ他國法ト異ナリテ殆ンド通常ノ禁制品ト大差ナシ例ヘバ米國海戰法規並慣例ニヨレバ條件付禁制品ハ敵ノ軍港要港又ハ陸海軍ニ到達スルヲ必要トストノ嚴格ナル條件ヲ設ケアリテ少クモ商店又ハ通常ノ敵港ニ向フ貨物ヲ自由トセルモ日本ノ規程ニヨレバ敵ノ陸海軍ニ到達ス可キ場合ノ外尙敵地ニ到達シ其到達地ノ如何ニ依リ敵ノ陸海軍用ニ供スルモノト認ム可キ場合ニ於テ條件付禁制品ノ存在ヲ認メタリ、若シ斯クノ如クンバ如何ナル艦長モ此認定ヲ下ス可ク客觀的標準ナキノ結果常ニ交戰者ノ隨意ニ之レヲ決定スルヲ得可キナリ

要スルニ此兩國法ハ今回ノ戰爭ノ特種ノ情況ニ應ジテ禁制品ヲ定メタルナリ此點ハ兩國ノ新舊二法ヲ比較スル時ハ明カナラン日露兩國ハ互ニ戰爭ノ特種ノ狀況ニ依リ敵國ノ利益トナル貨物ノ輸送ヲ禁止セルモノニシテ是レ等ノ物品ガ國際法上禁制品タルヤ否ヤニハ頓着セズ又他國ニ損害ヲ蒙ラシムルヤ否ヤモ懸念セザリシナリ嗚呼第二世紀ハ來ルモ戰爭法規ノ進歩ノ何ゾ遲々タルヤ、而シテ全世界ガ此兩國ノ行動ニ對シテ沈黙ヲ守レル如キ豈驚カザル可ケンヤ、今ヤ交戰國及中立國間ノ法律關係ノ大部分ガ警ヘ各國ノ協定ニ依ル條規トナルノ運ニハ至ラズトスルモ尙個々ノ國家個々ノ戰爭ヲ離レテ一般的規則トナレル時ニ於テ獨リ此戰時禁制品事項ノミ

ハ交戰國ノ任意ニヨリ決定セラレツツアリ、各戰爭ニ際シテ交戰國ハ其必要トスル戰時禁制品ヲ布告シ諸中立國則ハチ交戰國以外ノ世界全國ハ唯々トシテ之ニ服從セリ凡ソ國際法ノ原則トシテ國家ハ皆平等ノ權利ヲ有スルガ故ニ今日大強國ノ行フ所ハ他日少弱國モ之ヲ行フコトヲ得可ク若シ偶然ニモ「モロッコ」及「モンテネグロ」ノ兩國ガ干戈相見ユル事アラバ彼レ等モ亦全世界ニ命令ヲ下スコトヲ得可ケン歐米及亞細亞ノ八大強國モ亦之ニ服從セントスルカ

斯クノ如キ事態ガ幾何ノ間繼續ス可キヤ、吾人ノ之ヲ知ラズ、唯其持續スルニ從テ禍害ハ益々増大セン既ニ現今ニ於テモ其弊ニ堪エ難キモノアリ則ハチ近來ハ交戰國ハ宣戰ノ義務ヲ免カレタルヲ以テ交戰ノ開始ハ之ヲ中立國ニ告グズ海上ニ於ケル捕獲ニ由テモ行フコトヲ得ルナリ、然ラバ平和的通商ニ從事スル無數ノ船舶ハ絶對的無害ノ貨物例ヘバ石油、食品、鑛產物及林產物ノ如キモノヲ搭載シテ海上ニ出ツルニ當テモ俄然其友邦タル軍艦ノ攻撃ヲ蒙リ偶々前日ニ於テ該國ト某國トノ間ニ交戰ノ開始セラレタル理由ニ依リ是レ等ノ貨物ヲ禁制品トシテ沒收セララルノ危險ニ瀕セルモノト云フ可シ而シテ所謂禁制品ハ交戰國ノ任意ニ決定スル所ニシテ如何ナル船長モ之ヲ知レル明瞭ナル普通一般ノ法律ノ規定ニ於テ必ズシモ之ヲ禁止スルコトヲ必要トセズトセバ大ニ驚カザルヲ得ズ、斯クノ如キ行動ト海賊トノ間ニ何ノ選ブ所アル可キヤ、斯クノ如キ弊害ヲ除カントスレバ禁制品事項ヲ定ムルニ國際條規ヲ以テスルニ如カズ吾人ハ千八百九十九年海牙萬國會議ニ於テ海戰法規及中立法規ヲ陸戰法規ト等ク國際的ニ決定セントノ

希望ヲ表明セル諸國カ其決意ヲ眞面目ニ實行センコトヲ切望ス而シテ他ノ一般ノ中立諸法規ヨリ禁制品事項ハ此必要ヲ感ズルコト切實ナリ、或ハ曰ハン戰術上ノ發明續出シテ攻撃防禦ノ方法ガ絶エズ、進歩スル今日ニ於テ斯クノ如ク永久的ニ禁制品ノ品目ヲ決定スルガ如キハ到底不可能ノ事タリト然レドモ吾人ハ必ズシモ詳細精密ニ物品ヲ列舉セル法則ヲ求ムルニ非ズ個々ノ物品ノ名稱、形狀及程度ノ如何ニ拘ハラズ概括的ノ稱號ノ下ニ禁制品トス可キ物品ヲ定メタル宣言又ハ國際規程ヲ得レバ足レリ彼ノ國際法學會ノ規程ノ如キニテモ既ニ充分ナリト信ズ

現在ノ戰爭ガ終了スレバ斯クノ如キ一般的、不偏的ノ法規ヲ制定スルノ時機到來ス可キカ、此法規ノ制定ハ實ハ甚ダ容易ナル事業ナルモ各國ノ好意の合致ヲ必要トスルガ故ニ吾人ハ寧ロ事ノ反對ニ出ヅルヲ恐ルルナリ、實ニ近世ニ至テ禁制品ノ法規ハ甚ダシク退步セリ千八百七十七年ニ於テハ尙其千七百六十六年ノ主義ヲ固守シ、狹義ニ於ケル兵器彈藥ノ外ニハ硫黃及硝石ノミヲ禁止シタル彼ノ露國ガ千九百四年ニ於テハ此以外ニ尙多數ノ平和的物品种ヲ加ヘタルコトハ前述ノ如シ若シ各國ノ方針此方向ニ進マンカ吾人其停止スル所ヲ知ラザルナリ

增補 第五 中立問題ニ關スル佛國政府辯明ノ要點

(日露開戰以降)

（千九百五年五月十二日「ル、タン」一六〇三

三號

第一、中立問題ニ關スル佛國政府立論ノ基礎

ロヂエストウエンスキ艦隊ノ一部ガシエルブル港ヘノ碇泊一條ニ付在巴里日本公使本野氏ガ第一ノ抗議ヲ申込ミタル以降佛國政府ハ日本政府ニ對シテ中立條規ノ適用ニ關スル佛國政府ノ意見ヲ理論ニ照シ事實ニ證シテ再三再四知照シタリ

右佛國政府ノ意見ヲ説述スレバ左ノ如シ

(一) 中立法規ノ嚴守

佛國政府ハ世界ニ國際公法典ナルモノノ發布セラレザル限りハ各國ハ中立條規トシテハ何レモ自國固有ノ規則以外ニ拘束セラレザルベキモノタルヲ認ム佛國固有ノ規則タル現戰爭前米西戰爭ノ當初ニ於テ詳細ニ制定セラレタルモノナレバ今更何人モ之ニ對シテ疑ヒヲ懷クベキ筈ナクスルガ故ニ千九百四年二月ニ當リテ此規則ニ對シテ何等ノ抗議ノ提起セラレザリシヤ

當然ト云フベシ而シテ其中ノ重ナル條文ヲ擧グレバ左ノ如シ

「交戦國ハ如何ナル場合ト雖モ戰爭ノ目的ヲ以テ武器、彈藥ヲ積込シ爲メ若クハ修復ヲ口實トシテ戦闘力ヲ増加スヘキ工事ヲ行フ爲メニ佛國ノ港ヲ使用スルコトヲ得ズ但捕獲船ヲ伴ハザル交戦國軍艦ノ碇泊期間ハ制限セラレズ

交戦國ニ供給シ得ルモノハ其ノ乗組員ノ生存ト其ノ航海ノ安全ニ必要ナル糧食及修繕用品ニ限ル

故ニ日本政府ガ佛國領海内ニ於ケル露國艦隊ノ碇泊乗組員ニ對スル糧食ノ供給石炭ノ購入(殊ニ石炭購入ノ事ハ敢テ問題ト爲スニ足ラズ)ニ關シテ中立違反トシテ抗議セル佛國ノ態度ハ不法ノ行爲ニアラズ從ツテ佛國政府ハ此ニ付キ全然責任ナキモノト云フベシ

(二) 中立ノ勵行

管ニ辭令ニ於ケルノミナラズ誠心中立ノ眼目タル公平ノ義務ヲ盡サンコトニ慎重ナル佛國政府ハ一方ニハ露國艦隊ノ主力ガ數週日來最後ノ戰場ニ接近スルト共ニ更ラニ特別ノ義務トシテ印度支那殖民地官憲ニ明白ナル訓示ヲ送リ佛國主權ノ完行セラレンコトヲ期セリ

第二、印度支那海到著前佛國領海内ニ於ケル露國艦隊ノ碇泊

露國艦隊ノ佛國領海ニ碇泊スルヤ其碇泊期間内毫モ戰闘準備ニ關スル所爲ヲ取リタルコトナク此點ニ付キテ吾人ニ責任ヲ負ハシムルハ既ニ其立論ニ誤謬アリト云フベシ

石炭ノ供給

露國艦隊ハ佛國ノ港ニ於テ石炭ヲ供給セラルルノ方法ヲ取リタルコトナク其之アルハ唯二隻ノ驅逐艇カアルヂエーニ於テ五十七噸ヲ搭載セシニ過ギズ其他露國艦隊ノ石炭供給ヲ繼行セシハ英國若クハ獨逸ヨリ購入セル石炭ヲ搭載セル英國船若クハ獨逸船ニシテ其石炭モ英國産ニアラザレバ獨逸産ナリ此點ニ付テハ佛國ノ中立義務ナルモノヲ斯カル廣義ノ解釋ニ服從セシメントスル日本政府ニ對シテ英國若クハ獨逸ニ對シテ何故ニ同一ノ要求ヲ提供セザリシヤ又露國全艦隊ノ航行中到ル處同艦隊ニ必要ナル石炭ヲ充分ニ供給シタリトノ事實ハ東京内閣ニ取ツテハ抗議ヲ提起スルノ價值ナシトスルヤ反省セシムベシ以上ノ助力ハ糧食若クハ清水ノ購入ニ付佛國ノ與ヘタル助力ニ比スレバ一層直接ノ利害ヲ有スルモノニアラザルカ

(二) 佛國領海ト戰略的行爲

佛國領海ハ露國艦隊諸艦ノ合同地ニ使用セラレタルコトナシ露國艦隊ガ之ニ隨伴セル給炭船ヨリ石炭ヲ搭載シタルノ事實ニ付日本政府ハ其調査綿密ヲ缺ケリシエルブール、ダカール、ヂブチイ、ノツシバイニ於ケル露國艦隊石炭搭載ハ領海外ニ行ハレタリ而シテ此等ノ行動ニ付テ實驗ヲ有スル者ハ海岸三海里内ト均シク五海里乃至六海里ノ外ニ在リテモ容易ニ搭載シ得ベキコト並ニ露國艦隊ハ佛國領海内ニ入ルモ何等ノ利益ヲ有スルコトナキヲ知レリ

ノツシバイニ在テハ露國艦隊ノ或一部ハ此ニ二ヶ月間ヲ費シ間々海岸ニ近ヅカザリシニアラ

ズ又艦隊ト海岸トノ間ニ交通往來ノ事ナキニアラザリシモ其交通往來ハ軍事的ノ性質ヲ有スルモノニアラズシテ亦佛國領海ガ戰闘ノ目的ニ使用セラレタルコトナシ彼ノノツシツベ一珈琲店ニ露國士官ノ開ヲ遣リシガ如キハ如何ニ嚴格ニ判斷スルモ中立違反ト見做スベキ節ナシ

(三) 軍艦ノ修復

露國艦隊ガシエルブル及マヂユンガニ於テ爲シタル應急修理ハ何レモ極メテ迅速ニ竣工ヲ了リテ國際條規ノ認ムル處ニ違ハズ從ツテ此點ニ付テハ日本政府モ抗議スル處ナシ

第三、印度支那海ニ於ケル露國艦隊

前段説述シタル中立嚴守ノ旨趣ヲ勵行セン爲メ佛國政府ノ露國艦隊カ戰場ニ接近スルニ從ヒテ一層其監視ヲ嚴重ニ爲シタリト信ズレドモ日本ハ全ク誤解シテ抗議ヲ爲セリ今其理由ヲ以下ニ開陳セン

(一) 豫行監視ノ困難ナリシコト

日本政府ハ其豫行監視ガ其要求通り公平ニ實行セラレタルヲ認ムト雖ドモ唯前キニハ露國艦隊ヲシテカムラン灣ニ入ラシメ後ニハダヨ一灣ニ碇泊セシメタルヲ遺憾ナリト爲ス然レドモソハ難キヲ人ニ求ムルモノナリ

露國艦隊ヲシテ如上ノ地ニ碇泊セシメザランガ爲メ間斷ナク監視ヲ行ハントセバ假令パロヂエストウエンスキ一艦隊ニ幾十倍セル艦隊ヲ以テスト雖ドモ確保シ難ク其區域プレスト、シエル

ブル間ノ如キ短距離ニシテ本國ノ領海内ニ行フベシト云ハバ爲シ能ハザルニハアラザレドモ柴棍海防間ニ之レヲ求ムルハ全然困難ナリ而カモ通信機關設備ノ不完全ニシテ迅速ニ確實ナル報道ヲ得ル能ハザルアリ故ニ佛國政府ハ力ノ能フ限リヲ盡シタルモノニシテ其以上ハ克ク爲シ能フ所ニアラザリシナリ

(二) 柴棍及カムランノ石炭供給問題

日本政府ハ露國艦隊ニ護衛セラレタル運送船ガ柴棍ニ在リテハ露國商人ノ倉庫ヨリ又カムラン灣ニ在リテハバルテルミ一侯爵ヨリ石炭ヲ購入シタルコトヲ非難ス佛國政府ハ之レニ答フルニ(一)此等ノ石炭購入高ハ至リテ少額ナルコト(二)佛國政府ハ一個人間ノ賣買契約ニシテ且ツ第三者ノ損得ニ關スル契約ノ履行ニ迄モ干渉スルヲ得ザル旨ヲ以テセリ知ラズ日本政府ハ此等ノ給炭船「ガーデフ」炭商ヨリ多量ノ石炭ヲ購入シタル場合ニ於テモ猶抗議ヲ申込ムノ勇アリヤ否ヤ佛國政府ハ特ニ一般ニ承認セラルル慣習ニ從ヒ最近ノ訓示中ニ石炭ノ供給高ハ最近ナル露國ノ港ニ達スルニ必要ナル額以內ヲ超過スルコト能ハザルコトヲ定メタリ換言スレバ浦鹽斯德港迄ニ達シ得ベキ額ニシテ痾德沙迄ノ額ヲ供給セザリシナリ

右ノ訓示ニヨリ露國軍艦ハ印度支那ニ在リテハ充分ニ石炭ノ搭載ヲ爲スコト能ハズ從ツテ露國艦隊中ノ一軍艦ト雖ドモ其載炭量丈ケノ分量ヲ購入セザリシナリ

(三) 印度支那沿岸ハ露國艦隊ノ根據地トシテ利用セラレザリシコト

カムラン灣モツアン、フホン灣モ露國艦隊ノ爲メニ根據地トシテ利用セラレザリシハ英國ノ著者スラ公言スルニアラズヤ曰ク「根據地トノ斷定ハ繼續的ニ使用セラルルノ特徴アルヲ要ス唯偶然一艦隊ノ碇泊トナリ其艦隊ガ此地ニ再タビ入港セザル場合ノ如キ根據地ノ名ヲ附スベカラズ」ト

此定義ハ萬國國際法調査會書記官シャルル、ヂュビユイ氏ガ所謂英國派ノ海戰權トシテ其著書ニ引用セル所ニ係リ露國艦隊當時ノ場合ニ適用シテ遺憾ナシト云フベク從ツテカムラン又ツアン、フホンハ根據地トシテ利用セラレタリト云フベカラズ

(四) 「チャナ」事件

以上ノ外佛國ノ公平ヲ失ハザルノ他ノ例證ハ「チャナ」ノ處分ニ徴スルモ明カナリ此露國巡洋艦ハ千九百四年八月十日ノ海戰後柴根港ニ遁竄セルモノニシテ同艦ノ入港スルヤ佛國ハ國法ニヨリ同艦ニ對シテ慣例ノ許ス限リノ應急修理ヲ了リテ出港スルカ果タ又武裝ヲ解除シ大修理ヲ加フベキカニ付テ照會スル所アリ「チャナ」艦長ハ第二ノ方ヲ擇ビタルニヨリ同艦ヲ港ニ留マラシメ定規ノ如ク其主要ナル砲及機械ヲ揚陸セシメ同艦ヲ以テ航行ニ堪ユル能ハザルノ状態トナシタリ數週日前柴根軍港司令官ガ場所ノ都合ニヨリ「チャナ」ノ碇泊地ヲ變更セシメタル際ニハ一度機械ヲ同艦ニ引渡シタレドモ新碇泊位置ニ至ルト同時ニ再ビ之レヲ揚陸セシメ中立義務ハ依然嚴格ニ保持セラレタリ

第四、日本政府皮相ノ見解

日本政府ノ抗議ガ其見解ニ誤謬アルニ付テ佛國政府ハ前上以外ニ猶ホ幾多ノ理由ヲ有ス其理由ノ主要ナルモノヲ舉クレバ左ノ如シ

(一) 佛國政府ノ無私不偏ナルコト

露國艦隊ハ印度支那海ニ滯留スルノ利益ヲ受ケ日本艦隊ガ同一ノ利益ニ均霑セザリシ東郷提督ガ會戰地點ヲ選擇シタルノ結果ニシテ佛國政府ハ因テ以テ責任ヲ免カルコトヲ得ベシ若シ今ヨリ三ヶ月以前ニ於テ東郷提督ガ黄海ノ門戸ニ露國艦隊ヲ要撃スルノ手段ヲ擇ビ且ツ日本艦隊ニシテマダガスカル附近ニ淹留シタリシナラバ彼此其位置顛倒シテ日本ガ今ヤ佛國ニ對シテ批難スル處ノ利益ハ舉ゲテ同國ノ得ル所トナリタリシナラン

(二) 日本ハ印度支那海ニ於ケル露國艦隊ノ行爲ヲ非難シツツ自カラ比律賓及蘭領印度ニ同一ノ行動ヲ取レルコト

日本艦隊ハロヂエストウエンスキー艦隊到着以前滿二ヶ月間新嘉坡ボルネオ馬尼拉沿岸ヲ來往シタルガ此ノ間陸上トノ交通ヲ必要トシタルヤ明ニシテ其碇泊ハ避クベカラザルニ出テタリ此等ハ日本人自身ニ於テモ正當ト認ムル所何ゾ露國艦隊ニ對シテノミ非議スベケンヤ

(三) 日本ハ獨リ佛國ニ對シテノミ抗議スルナク猶其他ノ強國ニモ同様ノ抗議ヲナサザルベカラザルコト

印度支那海到達前露國艦隊ハ麻拉加半島ニ沿フテ英國ノ領海ヲ過ギ各所ニ碇泊セリ給炭船ハ艦隊ニ合同シ海岸ノ遠距離若クハ近距離内ニ於テ補給ヲ受ケ猶陸上ヨリ糧食ヲ購入シタリサレド日本ハ倫敦ニ向ツテ何等ノ抗議ヲモ申込ミタルヲ聞カズ

(四) 調査ノ結果佛國側ノ理由ハ英國政府ニヨリテ承認セラレタルコト

日本ノ抗議ニ對スル最後ノ有力ナル理由ハバルブホワー氏及ランスタウン卿ガ佛國ノ處置ヲ論查シタル後ニ英國議會ニ之レヲ説明シテ満足ヲ表シタルノ點ニアリ英國政府ノ意見タルヤ兩様ノ意味ニ於テ緊要ナリ一方ヨリ云ヘバ開ハ日本同盟國ノ意見ナルヲ以テ日本ハ之ニ對シテ信用セザルベカラザルコトト又他ノ一方ヨリ云ヘバ理ノ當否ハ楮置キ世人ヲシテ所謂英國派ノ中立義務ナルモノガ如何ニ狹隘ニシテ嚴格ナルカヲ了知セシメタルニアリ

第五、佛國政府聲明ノ結論

以上辯明ノ諸點ヲ綜合シテ佛國政府ハ左ノ如ク論結ス

(一) 佛國政府ハ法律上自國局外中立規定ノ精神ヲ完全明確ニ解釋セリ

(此中立規定タルヤ刻下ノ戰爭ニ向ツテ特ニ規定セラレタルモノニアラズ又之ニ對シテハ先ヨリ日本ハ何等ノ抗議ヲ爲サザリシナリ)

(二) 其實行ニ至ツテモ佛國政府ハ其主權ヲ完全ニ行使シ既ニ局外中立ノ通牒ヲ發シタル上ニ自

國ノ公平ヲ確實ナラシメンガ爲メニ種々ナル手段ヲ盡シタリ

(三) アルヂエー港ニ於テ少量ノ石炭ヲ供給シタル以外ニ其他佛領港灣ニ在リテ直接ニ石炭ノ購入セラレタルコトナキハ事實ナリ

一箇人タル佛國人ト艦隊附屬ノ商船トノ賣買ノ如キハ問題外ト云ハザルベカラズ之ニ反シテ此等ノ船舶ハ英國若クハ獨國ヨリハ購入シタリシモ之ニ付テハ何等ノ抗議モ提供セラレザリシ

印度支那ニ於ケル佛國官憲ノ監視ハ本國トノ遠隔及其他ノ事情ノ存スルニ拘ハラズ出來得ベキ丈ケ實行セラレタリ

(四) 露國艦隊ガ佛領海岸ニ碇泊シテ其得タル利益ハ(戰鬪準備ニ於ケル利益ニ非ラズ)若シ日本艦隊ニシテ退守スルコトナク攻勢ヲ取リシナラバ露國艦隊同様ニ與ヘラルル所ナリ而シテ露國艦隊ハ日本艦隊ガ蘭領印度若クハ比律賓ニ於テ得タル利益以上ノ利益ヲ得ザリシナリ

(五) 要スルニ佛國政府ハ當ニ辭令ニ於テノミナラズ誠心有ラユル手段ヲ以テ其中立義務ヲ遂行シタリト云フベシ

増補

第六 中立法規ニ關スルトーマス、ケベヂー

博士ノ四拾箇ノ提案

(Law magazine and Review) 一九〇六年二月

第卅一卷三三九號

第一、第二、近時ノ戰爭ノ區域

第三、抑留(インターメンメント)及「レッチテルク」號事件

第四、第五、第六、「ビーターズバーク」「スモレンスク」ノ巡航ニ適用スベキモノナリ中立國ハ曩キニ交戰國ガ其ノ中立ヲ侵シテ捕ヘタル捕獲物ノ其ノ領内ニ來レル場合ニ於テ之ヲ回復スルヲ得ルヤノ問題ハ「トウエー、ゲブレール」事件ニ關シテストウエル卿ノ論アリ卿ハダーダテルスノ特例ヲ取りテ單ニ中立水路ノ單純ナル通航ハ(特種ノ獲物ヲ追及スルニ非ラズシテ)其許可ナキ場合又ハ虛偽表示又ハ有意的企計ノ暗示ニ依リ許可セラレタル場合ニ非ラザレバ爲ニ其後爲セル拿捕ヲ無効トスルモノニ非ラザルコトヲ論結セリ

第七乃至第十二、中立國船舶ノ擊沈

第十一、特ニ北海事件ニ關スルモノ

第十六、護送問題ニ關スルモノニシテ英國慣行ト相反セル立案ナリ

第十八、封鎖ニ關スルモノニシテ佛國ノ例ニ倣ヒタルモノ

第二十一、第二十八、戰時禁制品及敵國政府若ハ其軍ニ宛テタル貨物ニ關スル巴里宣言ノ地位、

以下 中立國政府ガ交戰國ノ軍隊、軍艦、士卒、材料ノ供給ニ關シ其ノ領域内ニ於テ負フベキ義務

提案

第一、交戰國ハ第三國ノ局外中立ヲ以テ一定ノ範圍ニ限局セラレタルモノトスルノ權利ヲ有セズ

第二、交戰國ノ一方ガ其相手方ニ對シ直接攻撃ヲ加フル目的ヲ以テ軍隊ヲ展開スルガ爲メ第三國ノ領土ヲ使用スル場合ニハ攻撃ヲ受クル國ハ中立領土内ニ於テモ尙防衛ニ必要ナル強行的手段ヲ取ル事ヲ得但シ中立國ガ其強迫軍ヲ防止シ以テ其安全ヲ擔保スルノ地位ニ在ラザル事ヲ承認スル場合ニ限ル此承認ナキ場合ニ於テハ對手國ノ中立領土ニ侵入スルコト(カウンター、インヴェーシヨン)ハ開戰ノ理由タルモ中立國ニ對スル行動ニ非ル限リハ戰闘(ベラム)

ニアラズ

第三、右ノ原則ハ交戦國ガ中立港及ビ其ノ領水ヲ使用セル場合ニ之ヲ適用ス但シ其ノ適用ノ程度ハ左ノ理由ニヨリ大ナル變更ヲ受ク

(一) 軍隊ノ領土占領(中立國ノ管轄權ヲ排除スルモノタリ)ト軍艦ノ領水内碇繫(中立國ノ管轄權ト全ク兩立スルモノナリ)トノ間ニハ本質上ノ差異アル事

(二) 編成軍隊ガ他國領土内ニ存在スル時ハ其ノ害意ナキコトヲ説明スル事能ハズ、然レドモ艦隊ハ(殊ニ一隻ノ軍艦ニテハ)正當ナル意思ヲ以テ或港ニ派遣スルコトヲ得、其意思ニ關シテ第三國ヲ裁判官タラシムハ正當ナラザルベシ

中立領海内ニ於ケル兵力ノ行使ハ敵ヨリ襲撃ヲ受ケタル事實アルトキニ限り正當ノ行爲タルベシ然レドモ右ノ事實アリタル場合ノ外敵ニ對スル自衛上ノ必要ヨリシテ中立領海内ニ於テ兵力ヲ行使スルヲ得ズ中立國ガ其敵國ニ對シテ不正不公平ノ援助ヲ與ヘタル場合ニ於テモ亦同ジ

第四、交戦國ハ中立港内ニ於テ船舶ニ任務ヲ與ヘテ之ヲ軍艦トナスコトヲ得然レドモ該中立國ハ其軍艦ガ本國港若ハ同盟國港ニ入ル以前ニ於テ船舶ヲ拿捕シタル場合ニ其捕獲ヲ有効ト認ムルコトヲ拒ムコトヲ得中立國ハ此ノ如キ場合ニ於テ該軍艦ニ對シ敵國軍艦タル待遇ヲ與フルコトヲ拒絶スルコトヲ得

第五、交戦國軍艦ニシテ條約上禁止セラレタル領海ヲ巡航スルモノハ正當ナル交戦者ト看做スヲ要ス然レドモ條約當事國ニ對シテハ其軍艦ハ當事國ノ港ニ於テ軍艦タル任務ヲ與ヘラレタルモノト同一ノ地位ニアルモノトス

第六、沒收ノ檢定アリタル前中立領内ニ入港セル拿捕船ニシテ

(一) 其中立領内ニテ拿捕セラレタルモノナルトキ

(二) 其中立領海内ニテ軍艦ノ任務ヲ與ヘラレ又ハ之ヲ根據地トシ若クハ許可ナクシテ之ヲ使用セル軍艦ニヨリ拿捕セラレタルモノナルトキ

ハ中立國ハ相當ノ手續ニ由リ之ヲ差押ヘタル上解放スルコトヲ得

第七、中立捕獲物ノ擊沈破壞ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得ズ但絕對的戰時禁制品ハ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ他船ニ移載スルカ又ハ投棄スルコトヲ得

第八、敵軍ニ對スル軍事行動上緊急ノ必要アルトキハ公海ニ於テ中立船ヲ破壊スルコトヲ許サルベシ然レドモ左ノ事情アルコトヲ理由トシテ之ヲ行フコトヲ得ズ

(甲) 該中立船ガ結局敵國ニ到達スルコトアルベキ通信ヲ輸送スルノ危険アルトキ

(乙) 該中立船内ノ貨物が敵軍ニ至大ノ用ヲ爲スノ危険アルトキ

(丙) 可然の若クハ假設の危険アルトキ但シ自艦ノ不可避破壞ヲ免ル、唯一ノ手段ハ中立船ヲ乘沈ムルノ外ナキガ如キ場合ヲ除ク此ノ如キ場合ニ於テハ其中立者ニ對シテ充分ノ賠償

ヲ爲シ又直ニ其辯明ヲ爲スベシ

第九、然レドモ中立者ガ交戦者ニ接近シ又ハ相當ノ注意ヲ以テ之ヲ避ケズシテ任意ニ戦闘ヲ妨害シタルトキハ中立者ハ自カラ爲ニ生ゼル危険ヲ負擔セザルベカラズ

第十、交戦國ハ中立船舶ガ敵國政府敵國軍又ハ敵國臣民ト一致ノ行動ヲ爲スニアラザル限リハ其ノ交戦行爲ヲ妨害シ或ハ其行動ヲ報告セントスルノ故ヲ以テ公海ニ於テ之ニ干涉スルノ權利ヲ有セズ

此ノ規定ノ適用ニ付テハ交戦國ハ自己ノ危険ニ於テ行動スベク若シ事實ヲ明白ニ舉證スル能ハザルトキハ交戦國ハ中立國ニ對シテ賠償ノ責アルノミナラズ猶ホ通常領域侵犯ノ場合ニ於ケルガ如キ辯疏及匡正ヲ爲スノ責ヲ有ス

第十一、交戦國ガ敵船ナリトノ信念ノ下ニ公海ニ於テ中立船ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ破壊シタル場合ニ於テハ其ノ行爲ハ不正ナルヲ以テ充分ナル辯疏、賠償并ニ遺憾ナル旨ノ陳述ヲ爲スベキモノナリト推定ス但交戦國士官ニ於テ單ニ自己ノ行動ヲ安全ニスルタメ中立國ノ最上權利ヲ阻碍シタルニアラズシテ自己ノ危険ヲ冒シテマデモ中立國ヲシテ危険ヲ避ケンガ爲十二分ノ注意ヲナシタル旨明白ナル事情ニ依リ反證ヲ舉ゲントスルトキハ此推定ヲ覆スモノトス反證舉リタル時ハ賠償ヲ支拂フノミニ止ム

第十二、交戦國ニ於テ中立船ニ對スル武力的干涉ヲ行フニ付テ遵守スベキ原則ハ通常公海ノ安

全及自由ヲ主トシ交戦國ノ利害ヲ後ニスルニ在リ

第十三、特種ノ船舶(中立船タルコト明カナルモノ又ハ其ノ不明ナルモノニ對シ有意的ニ爲シタル)ニアラザルモ通常公海上ニ於テ中立船ニ損害ヲ惹起セシムルコトアルベキ行爲ニ付テモ亦右原則ヲ適用ス故ニ公海ニ浮流水雷ヲ敷設スルハ許スベカラザルモノトス然レドモ一般ノ意見ニ於テ有効ナリトスル魚形水雷ヲ使用スルハ不法ニアラズ魚形水雷ガ發射後標的ヲ誤リ爆發セズシテ位置不明トナリタル場合ニ於テモ亦同シ此ノ原則ハ之ヲ他ノ場合即チ交戦國ニ取リテハ至大ノ必要アルモ同時ニ中立者ニ對シテモ相當ナル危険ヲ與フルコトアルベキ場合ニ擴張スベカラズ而シテ一切ノ海上ニ於ケル魚形水雷ヲ使用ヲ合法トシ中立者ハ其危険ヲ甘受スルコトトスベキヤハ全ク一般ノ協商ニ依リ定マルモノトス

第十四、官船ハ臨檢及ビ搜索ヲ免カルベシ官船ニシテ若シ封鎖破侵ノ行爲ヲ敢テセントスルトキハ兵力ヲ以テ之ヲ追拂フコトヲ得又抵抗スルトキハ之ヲ拿捕スルヲ得ベシ官船ハ交戦國軍隊、書信、又ハ禁制品ヲ運送スルコトヲ得ズ此ノ如キ行爲アリタルトキハ外交手段ニ由リ其救濟ヲ求ムベキモノトス

第十五、私人所有ノ郵便船ハ政府トノ契約アル場合ニ於テモ官船ニ對スル特典ヲ與ヘザルモノトス(禮讓ニ依ル外)

第十六、被護送船ハ臨檢搜索ヲ免ルベシ但シ護送艦ノ艦長ニ理由ヲ開示シタルトキハ此限ニア